

科目名	哲学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	村田 貴信	関連する資格		

授業概要

歴史や自然、社会や世界、そしてなによりもまず自分自身について、立ち止まって見つめなおしてみる機縁になるように、以下の二点を支軸にして講義を展開する。

- (1) 自己と世界とにともに関わる人知の精髓を哲学史の展開のなかに探る。
- (2) ものごとを広く（多面的に）深く（根源的に）考えることの意味と意義とを理解する。

到達目標

- (1) 哲学の根本問題について考えてみる。
- (2) 哲学の対象と方法とにかんする基礎的な理解を得る。

成績評価方法

期末定期試験、授業内レポート、授業参加度（当授業では、質疑応答による授業への貢献度を意味するものとする）で評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							40
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 導入： 講義内容ならびに講義の進め方の一般的説明	テキスト音読 質疑応答
2) 人間と哲学(1)： 知・行・信	テキスト音読 質疑応答
3) 人間と哲学(2)： 知・行・信と人間	テキスト音読 質疑応答
4) 理性の運命(1)： 自覚	テキスト音読 質疑応答
5) 理性の運命(2)： 自覚と形而上学	テキスト音読 質疑応答
6) 6) 哲学の方法(1)： 超越論的論理学	テキスト音読 質疑応答
7) 6) 哲学の方法(2)： 超越論的演繹	テキスト音読 質疑応答
8) 6) 哲学の方法(3)： コペルニクス的転回	授業内レポート
9) 哲学の対象(1)： 現象と物自体	テキスト音読 質疑応答
10) 哲学の対象(2)： 自由の可能性	テキスト音読 質疑応答
11) 哲学の対象(3)： 道徳の可能性	テキスト音読 質疑応答
12) 歴史と人間(1)： 人間の使命	テキスト音読 質疑応答
13) 歴史と人間(2)： 精神の自由	テキスト音読 質疑応答
14) 世界と人間： 永遠平和の可能性	テキスト音読 質疑応答
15) 総括： 講義全体のまとめ	テキスト音読 質疑応答
授業外学習	
週単位ごとの授業計画に示した項目・概要に沿ってテキストを精読する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト： カント『啓蒙とは何か 他四篇』（岩波文庫）、岩波書店、1974年（改訳）	人権論、いのちの科学、人間看護学、人間関係論

備考

期末定期試験や授業内レポート作成時に辞書を使用したい場合は紙の辞書を用意すること。

科目名	人間らしさとは何か			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	溝田 順子	関連する資格		

授業概要

人類の誕生から人間社会の形成に至るまでの過程を学び、人間の「いのち」がどのように育まれてきたか、人間らしさとは何かを学ぶ。
 それぞれの発達段階における心身機能の変化や多発する疾患、老化に伴う機能低下が及ぼす生活について理解する。
 また、人の生涯を「生老病死」の思想からとらえ、医療が人々の生涯を通じて人間形成にどのように関わるべきかを学習する。

到達目標

- ・人の誕生を説明できる
- ・人の成長・発達について理解できる
- ・老化に伴う生活の変化と、高齢者に多い疾患について説明できる
- ・人間らしさについて自分の考えをまとめることができ、人間をめぐる課題を討議できる

成績評価方法

授業時随時行う小レポート・小テストおよび期末試験の総合評価

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							50
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 成長発達とは何か		
2) 人間とは何か 人間らしさとは		
3) 人間の体の構造と機能 - 1		
4) 人間の体の構造と機能 - 2		小テスト
5) 人間の健康・病気・発達		
6) 乳幼児期の発達と機能		小レポート
7) 学童期の発達と心身機能、多い疾患		小レポート
8) 思春期・青年期の発達と心身機能		小レポート
9) 思春期・青年期に多発する疾患		小テスト
10) 成人期の発達と心身機能		小レポート
11) 成人期に多発する疾患		小テスト
12) 老年期の心身機能と特徴		
13) 老化に伴う生活上の変化と対応		小レポート
14) 老年期に多い疾患		小テスト
15) 人の発達と課題		小レポート
授業外学習		
6)7)8)10)13)では、各発達段階における課題とは何か、授業内容を基に自分の意見を小レポートにまとめ提出する。 4)9)11)14)では、授業で講義した内容を小テストをする。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
新看護学15 (精神看護) 医学書院 発達と老化の理解 中央法規 医学一般 富野康日巳 医歯薬出版 脳のしくみ 高島明彦 日本文芸社		人体の構造と機能 (看護) 医学概論、医学概論 (福祉)

備考

科目名	日本語論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	黒崎 貴史	関連する資格		

授業概要

日本語を母語とする人にとって、日本語は「使えて当然」のものである。しかし、そこには様々な不思議さや面白さが潜んでいる。話すとき・聞くとき・書くとき・見るとき、という4つの大きなトピックに分け、日本語を客観的に観察・考察する。また、言語の背景には、その言語を使用する人々の生活がある。我々を取り巻く社会的・文化的要因と日本語がどのように関連し合っているのか、という問題についても考察する。

到達目標

1. 身近な日本語を客観的に観察することができる。
2. 日本語の不思議さや面白さに気づき、自らの視点で考えることができる。
3. 日本語について多角的に考察する態度を養う。

成績評価方法

出席を含む授業態度、リフレクションシート、定期試験（レポート）

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 導入：ガイダンス，日本語とは？	
2) 日本語の輪郭	リフレクションシート(1)
3) 日本語を話すとき(1)：心地良いリズム	
4) 日本語を話すとき(2)：ことばは乱れているか	
5) 日本語を話すとき(3)：言い間違い	
6) 日本語を話すとき(4)：ことばの奥にある真意	リフレクションシート(2)
7) 日本語を聞くとき(1)：聞き間違い	
8) 日本語を聞くとき(2)：キャラクター語	
9) 日本語を聞くとき(3)：音・名前の印象	リフレクションシート(3)
10) 日本語を書くとき：様々な表記	
11) 日本語を見るとき：町の中にある日本語	リフレクションシート(4)
12) 社会と日本語(1)：生まれることば・消えることば	
13) 社会と日本語(2)：ことばと属性	
14) 社会と日本語(3)：ことばと医療	リフレクションシート(5)
15) まとめ	
授業外学習	
<p>大きなトピックが切り替わるタイミングで，授業内容に関するリフレクションシートを作成してもらいます。そのため，毎授業後は各自で授業の振り返りを行ってください。リフレクションシートの内容は，授業内で指示します。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは特になし。資料は適宜プリントを配布する。参考書は授業中に適宜指示する。</p>	

備考

科目名	日本語の実践			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	武市 眞弘	関連する資格		

授業概要

本授業は、社会で通用する日本語コミュニケーション能力をはじめ、文章作成能力を育成することを目的とする。敬語や俗語、文のねじれなどの表現の技術に加えて、手紙や報告書、ビジネス文書、論文といったさまざまな文体を実践的に習得する。授業では、悪文の例や敬語の添削問題など、表現に関する練習問題も数多く取り入れ、同時に論理的な文章の書き方も繰り返し訓練する。

到達目標

日常生活で使用する文体から大学生活の中で必要な論文の文体まで自由に使い分けられるようになる。

成績評価方法

出・欠席、授業時間内での評価、小試験の成績、学期末テストの得点の総和。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 日本語・漢語・カタカナ語 * 漢字音, 日本漢語など	
2) 原稿を書く * 段落と字下げ	
3) 悪文を直す * 陳述副詞の呼応など	小テスト
4) 文の構造と文の類別 * 語の対応関係を明確に	小テスト
5) 良い文章を書く * 文章語と口頭語の違い	
6) レポートの書き方 * 引用文の記載法, 文献の表記	小テスト
7) 論理的な文章を書く * 課題の設定	小テスト
8) 文章構成法 * 序論・本論・結論の型	
9) レジユメを作る * 資料の要件・作成	小テスト
10) 敬語を正しく使う * 尊敬か謙譲か	小テスト
11) 敬語の実践 * 改まった表現, 砕けた表現	
12) 手紙を書く * 手紙文の敬語使用・敬称	
13) 公用文を書く * 読み手に明確・簡潔に	
14) 社交儀礼の留意事項 * 社会・地域の慣習の相違など	
15) まとめ	(期末テストの予告)
授業外学習	
* 合計6回, 授業開始時に「練習問題」の小テストを行う。そのつど辞書などで調べて予習しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：庄司達也ほか『日本語表現法 [改訂版] 』（2014, 翰林書房）980円＋税	

備考

科目名	日本文化論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

総論では「文化とは何か」について述べた上で、比較文化論的な視点から日本文化の大づかみな特徴を述べる。
 4以下の各論では、日本の文化の様ざまな側面をとりあげて、文化との関連で日本社会の構造的な特性を理解してもらうようにする。
 ただし、4以下の各論は、オムニバス講義のため、開講の順番が入れ替わることがある。

到達目標

文化とは何かについて理解する。
 日本の文化を、外国の文化と比較して考察する。
 留学生など外国人に、日本文化の特性を説明できるようになる。

成績評価方法

各テーマ回のレポートと期末提出させる最終レポートの成績による。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							25
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 文化とは何か	授業内レポート
2) 日本の文化の特徴 : テレビCM	授業内レポート
3) 日本の文化の特徴 : 自動販売機	授業内レポート
4) 日本の文化の特徴 : 祭り	授業内レポート
5) 日本の文化の特徴 : トレンディドラマ	授業内レポート
6) 日本の文化の特徴 : ホームドラマ	授業内レポート
7) 日本の伝統文化・華道	
8) 日本の伝統文化・華道	
9) 日本の伝統文化・茶道	
10) 日本の伝統文化・茶道	
11) 日本の伝統文化・茶道	
12) 宗教と社会：仏教	
13) 宗教と社会：仏教	
14) 宗教と社会：仏教	
15) 総括討論	授業内レポート
授業外学習	
<p>最終課題として、定期試験代わりのレポートを課します。 講義で学んだ内容、視聴したDVDの内容をよく理解し、日本文化に対する考察を深める。 (様々な日本文化について調べる、体験する。など)</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使用しない。 参考書は、各講義担当者が講義の際に紹介する。</p>	<p>フロンティアとは何か、日本語の科学 社会学概論、社会福祉学概論 社会心理学、経済・経営入門</p>

備考

科目名	文学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	村上 林造	関連する資格		

授業概要

日本近代文学の中からいくつか作品を取り上げ、その魅力を味わうとともに、文学作品としての価値について考える。また、文学作品を通じて、人の人生や生き方、考え方などを学び、豊かな感性を磨く。

到達目標

文学作品を深く味わう感性を養い、人間の生き方とあり方について理解を深める。

成績評価方法

出席 = 原則全回出席（真にやむを得ない場合以外は欠席を認めない）
 毎時間授業前レポート、授業後レポートを求め、未提出3回で欠格。その他、隔週で作文課題をだし、作文提出を求める。授業は自由討議の形式であるから、授業での発言は、非常に重要な評価対象となる。最終レポートは非常に字数が多いから、その執筆にはかなりの労力と気力が必要。授業前レポート15回、授業後レポート15回、作文課題7回のほか大量字数の最終レポートという、非常に重い課題を求められる授業であることをよく考慮し、その覚悟をもって受講を決心していただきたい。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							50	
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							30	
授業態度・授業参加度							20	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション	授業後レポート
2) 明治時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
3) 明治時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート
4) 明治時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
5) 大正時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート
6) 大正時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
7) 大正時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート
8) 昭和時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
9) 昭和時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート
10) 昭和時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
11) 昭和時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート
12) 平成時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
13) 平成時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート
14) 平成時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
15) 平成時代の文学作品による自由討議 (課題作品は授業で指示)	授業前レポート、授業での発言
授業外学習	
<p>毎回課題作品を事前に熟読し、作品解釈(あるいは感想)を授業前レポートとして提出する。また授業後には毎回授業後レポートを提出する。期限遅れのレポート提出は認めない。未提出3回で欠格(単位不認定)であるから、厳密に期限を守ってレポートを出すことが、単位修得の必須条件である。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
毎時間プリントを配布する。	なし

備考

授業での意欲的、積極的な発言を求め、評価する。90分の授業をただ受身で聞いているだけの者は、受講を遠慮していただきたい。（もちろん、授業中の居眠りやスマホいじり、内職等は厳禁である。）

科目名	心の科学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

看護・保健領域の専門職として働くにあたり、臨床現場で役立つであろう知識を中心に、心理学（基礎心理学・応用心理学）の基礎的知識について学ぶ。

到達目標

- 1．看護・保健領域で、心理学の知見を活かし、専門的関わりの質を高める工夫をすることができる。
- 2．心理的支援の理念や方法を知り、チームアプローチに活かすことができる。
- 3．心理学的知見を活かした援助を行う方法を理解できる。

成績評価方法

定期試験、レポート、小テスト、受講態度で評価する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							60	
小テスト、授業内レポート							20	
宿題、授業外レポート								
授業態度・授業参加度							20	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) ガイダンス、心理学とは何か	レポート
2) 学習	小テスト
3) 感覚・知覚・認知	小テスト
4) 記憶・思考・知能	小テスト
5) 記憶・思考・知能	小テスト
6) 動機・欲求・情動	小テスト
7) 発達	小テスト
8) 発達	小テスト
9) 集団と社会	小テスト
10) ストレスマネジメント	小テスト
11) パーソナリティとアセスメント	小テスト
12) 心理的支援の方法と実際	小テスト
13) 心理的支援の方法と実際	小テスト、グループワーク
14) 心理的支援の方法と実際	小テスト、グループワーク
15) 心理専門職とのチームアプローチ、まとめ	小テスト
授業外学習	
<p>講義の終わりに、その講義のふりかえるため、講義のポイントをテーマとした小テストを行います。小テストを中心に復習をくり返すことにより、知識の定着を図って下さい。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【テキスト】レジメを配布します。 【参考書】青木智子 医療と福祉のための心理学 北樹出版、 上利一郎他 新・看護心理学 倍風館</p>	<p>コミュニケーション論</p>

備考

オフィスアワー；毎週木曜日3限目(事前に連絡して下さい)

科目名	憲法・人権論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	藪本 知二	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

判例の展開に留意しながら、日本国憲法の基本原理ならびに基本的人権（包括的基本権、平等権、自由権、参政権、社会権）および統治機構（国会、内閣、裁判所）について概説する。

到達目標

- 立憲主義の意義を理解する。
- 主要な人権の内容を理解する。
- 統治機構の概要を理解する。

成績評価方法

期末定期試験（筆記試験）、小テストおよび授業態度・参加度について、下記の評価割合に従って評点を付ける

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート	○	○					28
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度	○	○	○		○		12
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 国家とは何か < 国家の三要素 >	
2) 国家の仕組み < 三権分立制 >	小テスト
3) 立憲主義の意義 < 憲法とは何か >	小テスト
4) 立憲主義の意義 < 人権の歴史 >	小テスト
5) 人身の自由 < デュープロセス、被疑者・被告人の権利 >	小テスト
6) 刑事裁判 < 裁判員制度 >	小テスト
7) 精神的自由権	小テスト
8) 精神的自由権	小テスト
9) 経済的自由権	小テスト
10) 社会権 < 社会福祉と社会保障 >	小テスト
11) 包括的基本権 < 幸福追求権、プライバシー権、自己決定権 >	小テスト
12) 法の下での平等 < 平等原則と家族 >	小テスト
13) 法の下での平等 < 平等原則と積極的差別解消措置 >	小テスト
14) 参政権	小テスト
15) 憲法保障 < 違憲審査制 >	小テスト
授業外学習	
図書館を活用して、予習および復習をするとともに、自分のノートを作成してください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使いません。テキストにかわるものとして、プリントを配付します。参考書として、芦辺信喜、高橋和之（補訂）『憲法第六版』（岩波書店、第6版2015年）を紹介しておきますが、その他参考となる文献は、適宜授業中に紹介します。</p>	法学

備考

科目名	法学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	藪本 知二		関連する資格	

授業概要

社会生活や相談援助活動における法の役割・機能を念頭に、憲法・民法・行政法の基礎知識について概説する。また、民法などの法や法を実現する仕組みが権利擁護にどのように関わっているかについても概説する。

到達目標

社会生活における法の作用や役割を理解する。
 相談援助活動と法の関わりを理解する。
 憲法、民法、行政法等の基礎的な解釈・適用能力を身につける。
 権利擁護に深く関わる成年後見制度などの仕組みについて理解する。

成績評価方法

期末定期試験（筆記試験）、小テストおよび授業態度・参加度について、下記の評価割合に従って評点を付ける。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							28
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							12
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 相談援助活動と法 社会生活における法の役割 紛争解決手段としての法	小テスト
2) 憲法の基礎 立憲主義・基本的人権	小テスト
3) 行政法の基礎 行政の作用、行政救済、情報公開と個人情報保護	小テスト
4) 民法の基礎（１） 人（権利能力・意思能力・行為能力）、物、契約の概要	小テスト
5) 民法の基礎（２） 親族法と社会福祉法との交錯（養子縁組と里親制度）	小テスト
6) 民法の基礎（３） 親族法と社会福祉法との交錯（児童虐待への対応）	小テスト
7) 民法の基礎（４） 親族法と社会保障法との交錯（離別・死別と子どもの監護・養育費）	小テスト
8) 民法の基礎（５） 親族法と社会保障法との交錯（扶養と公的扶助）	小テスト
9) 民法の基礎（６） 相続法（法定相続・遺言相続）	小テスト
10) 成年後見制度（１） 成年後見制度と未成年者保護制度（親権・未成年後見）	小テスト
11) 成年後見制度（２） 法定後見（後見・保佐・補助）	小テスト
12) 成年後見制度（３） 任意後見、成年後見制度の最近の動向	小テスト
13) 日常生活自立支援事業・成年後見制度利用支援制度 日常生活自立支援事業の概要・成年後見制度利用支援事業の概要	小テスト
14) 権利擁護に係る組織・団体の役割と実際 家庭裁判所・法務局・市町村・弁護士・司法書士・社会福祉士の役割	小テスト
15) 権利擁護活動の実際 消費者保護のための様々な取組	小テスト
授業外学習	
<p><予習> 授業計画に沿って、テキスト・配付資料の該当箇所を熟読してきてください。分からない言葉等があれば必ず調べてきてください。</p> <p><復習> 授業開始時または終了時に毎回、小テスト（前回講義内容）を行いますので、テキスト・配布資料および図書館等にある文献等を利用して復習してください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー編集委員会（編）『法学 権利擁護と成年後見』（へるす出版、2009年） / 山下友信・山口厚（編集代表）『ポケット六法平成29年版』（有斐閣、2016年）</p> <p>参考文献 授業中に適宜紹介する。</p>	憲法・人権論

備考

科目名	現代社会の教育			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

少子化・人口減少の時代を迎え、地域における大学の存在意義が変わってきている。政策的な後押しもあり、多くの大学が生涯学習や地域への開放に取り組むことになった。その一つとして文部科学省を中心に、平成25年度から大学を地域における知の拠点にする事業（COC事業）が展開されている。本講義では以下の3点を中心に扱う。少子化・人口減少時代における教育の課題について理解を深める。大学開放に関する基本的な知識を習得するために、生涯教育と大学開放に関する最新情報や各地域・各学校での取り組み例を学ぶ。そのうえで、本学や山口県内での取り組みの現状を分析し、本学と地域社会との新たななかかわり方を企画立案することをねらいとする。

到達目標

少子化・人口減少の時代における教育の課題について理解できる。
 大学開放の基本的な事項について理解できる。
 大学と地域社会とのかかわり方の現状と課題について理解できる。
 大学での学びとボランティア活動との関係が理解できる。
 生涯学習時代における大学のあり方が構想できる。

成績評価方法

出席状況、テキスト内容の分担紹介、小レポート、授業への参加度、調査レポート、期末レポートの成績で総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) オリエンテーション 発表分担		個人ワーク グループワーク
2) 少子化・人口減少社会における教育の課題		グループワーク プレゼンテーション
3) 少子化・人口減少社会における教育の課題		グループワーク プレゼンテーション
4) 少子化・人口減少社会における教育の課題		グループワーク プレゼンテーション
5) 地（知）の拠点となる大学開放		グループワーク プレゼンテーション
6) 学生教育と社会人教育の融合をめざす大学開放		グループワーク プレゼンテーション
7) 大学公開講座による地域貢献		グループワーク プレゼンテーション
8) 長寿社会対応の生涯学習		グループワーク プレゼンテーション
9) 地域生涯学習の推進を図る大学開放		グループワーク プレゼンテーション
10) メディアを利用した大学教育の開放		グループワーク プレゼンテーション
11) メディアを利用した大学教育の開放		グループワーク プレゼンテーション
12) 地域学を進める大学開放		グループワーク プレゼンテーション
13) 地域における大学連携のシステムづくり		グループワーク プレゼンテーション
14) これからの大学開放の進め方		グループワーク プレゼンテーション
15) 総括		グループワーク プレゼンテーション
授業外学習		
発表担当者は、発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
・上杉孝實、香川正弘、河村能夫（編集）「大学はコミュニティの知の拠点となれるか：少子化・人口減少時代の生涯学習」 ミネルヴァ書房、2016年（推薦図書：希望者のみ販売） 参考文献は、授業中に適宜紹介する。		ボランティアと社会 教育社会学 教育方法の研究

備考

本講義は福祉心理学科の社会人学生、および市民との合同授業として夜間に開講する。

科目名	地域社会学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	瀬崎 譲廣	関連する資格		

授業概要

私たちの生活は、地域で営まれます。戦後の高度経済成長は、私たちの暮らしを物質的に豊かにすると同時に、日々の暮らしの地域社会への依存度を低下させたかのように思われました。しかし、近年、防災や子育てなどの観点から地域社会への関心が高まっています。児童虐待や孤独死といった問題も、一見地域社会とは関係ないように思われますが、その背景として「都市化」などの地域社会の変容を見逃すことはできません。

また、戦後の社会変化の中で、村落社会も大きく変化しました。村落社会では高齢化が著しく進行し、村社会の機能を維持することが難しくなる「限界集落」などの問題も起きています。農業就業者の平均年齢が65歳以上になり、農業の持続可能性も、食料自給率の問題とともに、課題となっています。

この授業では、地域社会（農村・都市）を分析するための社会学の視点を学ぶとともに、今日の地域社会が抱える諸問題について紹介します。

到達目標

地域社会の特徴を社会的に理解するための視点を獲得する
戦後社会の変容と、今日の地域社会が抱える問題への理解を深める

成績評価方法

講義の出席状況、講義中に課す小レポート等および定期試験によって評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							80
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーリング 社会学の地域概念	
2) 社会学の地域概念	
3) イエとムラ～村落社会の構成	
4) 村落空間とムラによる資源管理	グループワーク
5) 村落空間とムラによる資源管理	
6) 戦後農政と農村社会の変化	
7) 戦後農政と農村社会の変化	グループワーク
8) 高度成長と国土開発	
9) 高度成長と国土開発	
10) 戦後社会と家族の変化	
11) 戦後社会と家族の変化	グループワーク
12) 子育てと地域社会	
13) 今日の課題(1) 災害と地域社会	
14) 今日の課題(2) 孤独死、無縁社会、児童虐待	
15) 今日の課題(3) 孤独死、無縁社会、児童虐待 授業全体のまとめ	
授業外学習	
特に課しませんが、授業に関連することで興味を持ったことや分からないことなど、自分で積極的に調べることを期待します。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教科書：用いない 参考書：授業の中で適宜紹介する	

備考

授業のなかで、資料等の読解に関連して質問を適宜行います。積極的な参加、発言を期待します。

科目名	ボランティアと社会			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	白石 義孝、伊藤 一統	関連する資格		

授業概要

ボランティアの意義と実情について学び、現代社会におけるボランタリーセクターの重要性について理解することを目的とする。
 ボランティアの思想や歴史的経緯、様々な活動の実態など、基礎的な知識について概説するとともに、現代社会の状況について解説し、ボランティア活動への注目の高まり、またその行為に参加しようとするものの存在の背景を考察する。活動の実際を知ってもらうために、実際の活動を行っている方から直接話を聞く機会も設けたい。

到達目標

- ・ ボランティアについての正確な理解
- ・ ボランタリーセクターの重要性の認識と各自のボランティア意識の高揚
- ・ ボランティア活動への参加

成績評価方法

定期試験・小テスト（レポートの場合あり）
 リサーチ課題
 ボランティア活動体験レポート

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							50	
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							20	
授業態度・授業参加度								
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習							30	

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) パート1（知識編） ボランティア活動やNPOへの理解を深める	グループワーク プレゼンテーション 個人小レポート
2) パート1（知識編） ボランティア活動やNPOへの理解を深める	グループワーク プレゼンテーション 個人小レポート
3) パート1（知識編） ボランティア活動やNPOへの理解を深める	グループワーク プレゼンテーション 個人小レポート
4) パート1（知識編） ボランティア活動やNPOへの理解を深める	グループワーク プレゼンテーション 個人小レポート
5) パート1（知識編） ボランティア活動やNPOへの理解を深める	グループワーク プレゼンテーション 個人小レポート
6) パート2（実際編） 国内外、および宇部市周辺で実際に行われているボランティア活動やNPOについて知る	グループワーク及びプレゼンテーション、中間支援センターへの訪問取材レポート
7) パート2（実際編） 国内外、および宇部市周辺で実際に行われているボランティア活動やNPOについて知る	グループワーク及びプレゼンテーション、中間支援センターへの訪問取材レポート
8) パート2（実際編） 国内外、および宇部市周辺で実際に行われているボランティア活動やNPOについて知る	グループワーク及びプレゼンテーション、中間支援センターへの訪問取材レポート
9) パート2（実際編） 国内外、および宇部市周辺で実際に行われているボランティア活動やNPOについて知る	グループワーク及びプレゼンテーション、中間支援センターへの訪問取材レポート
10) パート2（実際編） 国内外、および宇部市周辺で実際に行われているボランティア活動やNPOについて知る	グループワーク及びプレゼンテーション、中間支援センターへの訪問取材レポート
11) パート3（参加編） 自らもボランティア活動に参加し、体験レポートを作成し、報告する	ボランティア実習（学校支援・福祉施設・地域環境保全・市民ワークショップへの参加など）
12) パート3（参加編） 自らもボランティア活動に参加し、体験レポートを作成し、報告する	ボランティア実習（学校支援・福祉施設・地域環境保全・市民ワークショップへの参加など）
13) パート3（参加編） 自らもボランティア活動に参加し、体験レポートを作成し、報告する	ボランティア実習（学校支援・福祉施設・地域環境保全・市民ワークショップへの参加など）
14) パート3（参加編） 自らもボランティア活動に参加し、体験レポートを作成し、報告する	ボランティア実習（学校支援・福祉施設・地域環境保全・市民ワークショップへの参加など）
15) 総括	個人ワークによる全体の振り返り
授業外学習	
毎回の授業で紹介したキーワードを自筆でノートにまとめておく。 ボランティア実習の写真撮影時には個人情報保護に配慮する。（担当者の許可を得るなど）	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアに関する書籍・学術雑誌全般 ・ NPOに関する書籍・学術雑誌全般 その他、特に推奨する参考文献については講義中で適宜紹介する。	

備考

科目名	生物学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	山本 芳実	関連する資格		

授業概要

生物学は急速な進展を続けており、その成果として遺伝子組換え作物や新薬の創出、遺伝子診断、着床前診断にみられるように、従来に増して格段に我々の生活に大きな影響を与えるようになってきている。本講義では、高校までの生物をベースに、生体の持つ機能や遺伝の仕組み、生命を維持する機構、生物の多様性、進化等について学ぶ。

到達目標

- 1、生物学における基礎的な知識の理解ができる。
- 2、様々な生命科学に関係する事象を生物学の視点から考える事ができる。

成績評価方法

期末定期試験、授業内レポート、授業外レポート、授業への意欲・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 生物学と生命科学	授業外レポート課題
2) 遺伝子とは	グループワーク
3) 遺伝子の構造	
4) 遺伝子のはたらき	
5) ゲノム科学とは	
6) 遺伝子のバイオテクノロジー	
7) 生命科学における遺伝子科学の役割	授業内レポート課題
8) 生体の構成	
9) 細胞と細胞分裂	
10) 生殖と遺伝	
11) メンデルの遺伝学	
12) 受精と発生	
13) 発生の仕組み	
14) 生物の多様性	
15) 生物の進化	
授業外学習	
授業終了後、講義ファイルのコピーを渡しますので講義資料を復習してください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
「生きもののからくりー分子から生命までー」改訂版、中村和行・山本芳実・祐村恵彦共編、培風館	

備考

科目名	化学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	1年	後期			
担当者名	山城 安啓		関連する資格				
授業概要 生化学を学ぶ上での基礎となる有機化学、無機化学について学びを深めるとともに、さらにその知識を基盤とし未来の医療・福祉を担う人間として自然科学の立場から自ら考える力をつけさせる。							
到達目標 化学の基礎的知識を説明できる 無機化合物の特性を説明できる 有機化合物の特性を説明できる ヒトの構成成分と反応系、疾病状態を化学的に理解し、臨床に応用する能力を身につける				成績評価方法 十分な出席回数を基に、期末試験で評価する。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							90
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) ガイダンス、物質の特性	授業内課題
2) 原子と分子	授業内課題
3) 化学結合	授業内課題
4) 物質の三態と気体の性質	授業内課題
5) 溶液とコロイド	授業内課題
6) 化学反応	授業内課題
7) 酸・塩・アルカリ	授業内課題
8) 電解質と電池、無機物質	授業内課題
9) 有機化合物、脂肪族炭化水素	授業内課題
10) 酸素・窒素などを含む有機化合物	授業内課題
11) 芳香族化合物	授業内課題
12) 脂肪酸	授業内課題
13) アミノ酸とタンパク質	授業内課題
14) 糖質、核酸	授業内課題
15) 総括	
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきてください。授業開始時、毎回小テスト(前回講義内容)があります。講義資料、テキストを復習して下さい。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座 基礎 化学 医学書院	生化学

備考

科目名	物理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

オートクレーブのメカニズム、点滴・輸血時の液体の比重など看護の現場で必要となる様々な事例を取り上げて物理学の理解を深め、科学的なものの考え方を身につける。また、看護師の国家試験に出題されている物理系の問題について紹介する。授業では、「物体の運動」、「運動量と仕事」、「熱と気体の運動」など物理学の基本を復習しながら「患者の移動」、「比熱の計算」、「血圧」などについて学ぶ。グループ討議を設定している。自分の意見を主張して積極的に参加する。

到達目標

看護の現場で物理的なメカニズムを的確につかんで行動する。看護師国家試験の物理系の問題を解く。

成績評価方法

質問カードの内容、レポート、グループ討議の態度、定期試験で総合評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 物理学の概要	
2) 2011.3.11福島原発事故特別バージョン・放射線	
3) 物体の運動、患者の移動、トルク、作用反作用摩擦 ・運動量・仕事・衝撃力・骨折・牽引	
4) 要点整理（グループ討議）	グループ討議、要点整理
5) 熱と気体の運動、比熱計算、氷枕、熱移動	
6) 圧力、表面張力、密度、比重	
7) 血圧、吸引装置、酸素ボンベ、連結ピン	
8) 要点整理（グループ討議とレポート1提出準備）	グループ討議、レポの要点整理
9) 比重計、オートクレーブ、水銀体温計、濃度の表し方と物質の溶け方、レポート1提出	
10) 熱力学、音波、浸透圧、人工透析、心拍数、サイレン	
11) ファイバースコープ、サーモグラフィ、電気	
12) 要点整理（グループ討議とレポート2提出準備）	グループ討議、レポの要点整理
13) 看護師国家試験の物理系問題の出題例とレポート2提出	
14) 要点整理（グループ討議）	グループ討議、要点整理
15) まとめ	
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読してきてください。 講義資料を復習して下さい。看護実習の時に、物理学で学んだことを活かして下さい。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使わない。資料はウェブ上よりダウンロードしてください。</p>	<p>物理学の基礎</p>

備考

科目名	地球の現在・過去・未来			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

この授業では、受講する皆さんが地球の現在・過去・未来について考える際に、知っておくべき自然科学系の話をします。この授業の最も重要なことは「事実と意見」の区別と「時間と空間のスケール」を常に考えることです。グループ討議の時間を設定しています。この討議では自分の意見を主張して積極的に参加してください。この授業の受講後は、新聞で毎日のように取り上げられている自然科学系（地球の環境も含めて）の記事の内容がある程度、理解できるようになることを期待しています。

到達目標

自然科学系に関する新聞記事の内容を読んで自分の意見と対比して評価する。
グループ協議を通じてコミュニケーション能力をはっきりする。

成績評価方法

質問・感想カード、レポート、グループ討議の態度と定期試験で総合評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 「地球の歴史、何がわかっているの？未来は」	
2) 「宇宙の始まり」「地球誕生・生物誕生」	
3) 要点整理（グループ討議とレポート1提出準備）	グループ討議と要点の確認
4) 「人間社会の形成」「熱収支と四季」	
5) 「水と大気の大循環」「森林消失と生物種絶滅」	
6) 「オゾン層破壊・PM2.5」「温暖化モデルとIPCC」	
7) 要点整理（グループ討議とレポート2提出準備）	グループ討議と要点の確認
8) 「周期的変動」	
9) 「化石燃料から再生可能エネルギーへ」	
10) 要点整理（グループ討議とレポート3提出準備）	グループ討議と要点の確認
11) 「炭素社会から水素社会に」	
12) 要点整理（グループ討議とレポート4提出準備）	グループ討議と要点の確認
13) 「未来予測」「天気予報と災害への備え」	
14) 要点整理（グループ討議とレポート5提出準備）	グループ討議と要点の確認
15) 「まとめ」	
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読してきてください。 講義資料を復習して下さい。新聞を読む習慣をつけてください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使用しない。資料はウェブ上よりダウンロードしてください。</p>	<p>自然災害、ビジネス情報</p>

備考

科目名	データの科学的な見方			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	前期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

ITが普及した現在，膨大な情報の中から自分の必要な情報を選別し，それを整理する能力が必要である。また統計処理した数値の意味を理解する能力も必要になっている。看護研究や保健研究では，データ処理に統計の知識が必要になってくる。この授業の到達目標は，導き出した統計値の科学的な意味を理解することである。そのために，まず基本的な統計値の意味をしっかりと理解した上で，統計図，統計表の見方を学習する。そうして区間推定や検定を通じてデータの科学的な見方を身につけていく。
グループ討議を設定している。自分の考えを主張して積極的に参加する。

到達目標

統計学の基本的な言葉の意味、統計値の科学的意味を的確につかむ。

成績評価方法

質問カードの内容、小テスト、レポート、グループ討議の態度、定期試験で総合評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 保健師国家試験に関すること	各自で自分の現在の力を判断する。
2) 統計学の歴史	
3) 統計学の考え方、データの科学的な見方（具体的事例）	
4) 統計データのまとめ方（度数分布・分割表・図示法）	
5) 集団を表す代表値（平均、分散、標準偏差など）	
6) 要点整理（グループ討議とレポート1提出準備）	グループ討議と要点の確認
7) 正規分布、区間推定 1（母集団、標本とは）	
8) 区間推定 2（t 分布表）	
9) 統計的検定 1（帰無仮説、有意水準など）	
10) 統計的検定 2（両側検定、片側検定、t 検定）	
11) 要点整理（グループ討議とレポート2提出準備）	グループ討議と要点の確認
12) 母平均の検定	
13) 2つの集団における平均の差の検定	
14) 相関と回帰直線、もっと難しい統計学、疫学と統計学	
15) まとめと要点整理（グループ討議）	グループ討議と要点の確認
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読してきてください。 講義資料を復習して下さい。保健師国家試験の過去問のうち、統計学の基礎問題が確実に解けるように自宅でも計算問題、基礎的な言葉の意味を再確認してください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使わない。資料はウェブ上よりダウンロードしてください。</p>	<p>数学の基礎 保健統計学</p>

備考

科目名	いのちの科学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	祐村 稔子	関連する資格		

授業概要

今日、生命科学の進歩は著しく、医療、農業、工業など多方面でわれわれに多くの恩恵を与える一方で、様々な課題も提起している。本講義では、これらの問題点を、それぞれが自らの知識と感性で考え解決する力を養うことを目的に、前半で生命のなりたちを分子のレベルで解説し、後半では、人体の成り立ちと統合の仕組み、脳のはたらき、免疫、病気、老化、バイオテクノロジー、先端医療など、専門分野と関連の深いテーマについて解説する。

到達目標

1. いのち（生命）のなりたちを分子のレベルで理解する。
2. 人体のなりたちと統合のしくみを理解する。
3. いのちをめぐる現代の課題について正しく理解し各自の考えを述べることができる。

成績評価方法

出席状況、レポート、最終試験により総合評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							4
宿題、授業外レポート							26
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 生命とその起源：あなたもムシも大腸菌も生きている 映像教材 細胞は生きている	小レポート
2) 生命の最小単位「細胞」：細胞の構造と機能 映像教材 森のマイクロ生き物たち 1	宿題小レポート
3) 生命を演ずる分子たち 1：生体内で働く分子たち 映像教材 水中のマイクロの生き物たち 1	宿題小レポート
4) 生命を演ずる分子たち 2：まずは脂質ありき 映像教材 水中のマイクロの生き物たち 2	宿題小レポート
5) 生命を演ずる分子たち 3：タンパク質は働き者	宿題小レポート
6) 生命を演ずる分子たち 4：生命の設計図：遺伝子とその働き	宿題小レポート
7) 病気との闘い 1：DNAの傷害と修復 がんの生物学	宿題小レポート
8) 遺伝子組換え技術とその応用	宿題小レポート
9) 病気との闘い 2：ヒトの遺伝と遺伝病 先端医療と生命倫理、 映像教材 森のマイクロ生き物たち 2	宿題小レポート
10) 生命活動の基礎：エネルギーの産生と物質代謝 映像教材 森のマイクロ生き物たち 3	宿題小レポート
11) 生命は動く、細胞は動く：細胞骨格と細胞運動 映像教材 細胞運動	宿題小レポート
12) 免疫のしくみ、ホルモンの働き	宿題小レポート
13) 神経と脳の働き	宿題小レポート
14) 生殖と発生 老化と寿命	宿題小レポート
15) 生命と地球環境 映像教材：生命の共存 ミクロの世界	小レポート
授業外学習	
毎回、授業に関連した参考資料を配布します。これを読んだの考察や感想の小レポートを宿題とします。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：伊藤明夫著「いのちの科学」（培風館）	人体の構造と機能 生物学の基礎

備考

生命科学の入門として、幅広い知識と興味を持っていただけることを希望します。

科目名	健康と音楽			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	村上 玲子	関連する資格		

授業概要

人間は、声を出して歌う、リズムカルに動く、身体の様々な部所を使って音を出すことや表現することが可能で、非常に音楽的な存在である。また、音楽は人の心や身体と密接に結びつき、音楽を聴く、演奏する、楽しむといった活動は、病める心を癒し、身体や精神機能の健康を保ち回復するといった要素がある。人がなぜ歌ったり奏でたりするのか、音や音楽が人間にもたらすものは何かについて理解する。また、日常生活の中で音楽を上手く使うことによって、健康を取り戻したり、維持する方法について実際に音楽活動を実践しながら学ぶ。

到達目標

人間と音楽のかかわりについて説明できる。
音や音楽の特性や役割についての述べることができる。
生活の中で健康増進や維持を目的とした音楽の活用法を工夫し実践できる。

成績評価方法

授業時のミニレポートと課題レポート
授業への意欲・態度

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート							50	
宿題、授業外レポート							30	
授業態度・授業参加度							10	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習							10	
実習								

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 人間の健康と音楽のかかわり 人間の生活と音楽の関係、音楽の起源生、音楽と文化	授業内レポート
2) 心の健康と音楽の役割及び特性 音楽がもたらす不思議な効果とは、音楽が心身を癒すメカニズム	授業内レポート
3) ストレスと音楽 クラシック音楽とヒーリングミュージック	授業内レポート
4) クラシックの名曲を聴く 幻想的なアニメーションとクラシックの名曲	授業内レポート
5) 音楽療法とは 音楽療法の歴史・目的・適応範囲・活動	授業内レポート
6) 宮沢賢治作「セロ弾きのゴーシュ」と音楽療法 音楽療法の視点から作品を分析	授業外レポート
7) 作曲家モーツァルトと音楽療法 モーツァルトの名曲鑑賞とイメージ図作成	個人ワーク
8) クラシック音楽がつくる快適な人生 生活に密着した音楽、動物たちが奏でるクラシック音楽	授業内レポート
9) 盲目のピアニスト辻井伸行と音楽 辻井伸行の世界と音楽表現	授業外レポート
10) 映像と音楽によるクラシック音楽鑑賞 驚異の映像世界と時空を超えて「クリスマスキャロル」鑑賞	授業内レポート
11) 音楽と人間の生活 クリスマスと音楽「クリスマス音楽に触れて」	演習
12) ミュージカル鑑賞 ミュージカル鑑賞から音楽の効力を探る	授業内レポート
13) ミュージカル鑑賞 ミュージカル鑑賞から音楽の効力を探る	授業内レポート
14) オペラ鑑賞 人間の表現と音楽 音楽の力について	授業内レポート
15) オペラ鑑賞 人間の表現と音楽 音楽の力について	授業内レポート
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは利用しない。講義資料を配布する。 参考書 * 渡辺 茂夫著、音楽健康法、1995年、誠文堂新光社 * 芋坂良二編著、新訂環境音楽、1992年、大日本図書 * 村井靖児 著、こころに効く音楽、1997年、保健同人社 * 谷口高士著、音 は心の中で音楽になる、2000年、北大路書房</p>	

備考

科目名	健康スポーツ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実技	選択	2	1年	前期
担当者名	友定 保博	関連する資格		

授業概要

運動遊びやゲーム、スポーツ等の実践を通して、その楽しみ方やルール・マナーを身につける。グループでの関係性を深め、社会生活の様々な場面で適用できる心身の健康づくりの運動方法や知識・技能を養う。

到達目標

生涯にわたる健康づくりのための知識を理解し、周りの人と楽しく運動やスポーツが実施できるようになることを目標とする。

成績評価方法

筆記試験は行いません。成績評価は個人および所属グループの授業参加の意欲態度も加味します。毎回の授業終了時に記載する、個人とチームの振り返り評価を行うグループノートも評価の参考にします。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	10		10				20
授業態度・授業参加度			10		10		20
プレゼンテーション							
グループワーク			15	15			30
演習							
実習				30			30

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 講義 オリエンテーション 健康スポーツのねらい、グルーピング		アイスブレイク グループノートの作成
2) 実技 子どもの運動遊び再体験 (1) 鬼遊び コーディネーション・スキル		グループの準備運動づくり
3) 実技 子どもの運動遊び再体験 (2) 陣取り遊び 縄跳び運動 (グループでダブルダッチに挑戦)		睡眠・食習慣と運動に関する調査用紙 (1週間) の配布
4) 講義 自分の生活リズム (食事・睡眠・運動) を見つめる タグ・ラグビーとフラッグ・フットボール(1)競技ルールを理解		自らの課題発見と目標設定 タグ・ラグビー紹介ビデオ
5) 実技 シippo取り遊びから競技スポーツへ (タグ・フラッグ取り=タックル)		
6) 実技 タグ・ラグビー(1) 基礎技術 身体操作、走技術を高める		
7) 実技 タグ・ラグビー(2) 作戦		
8) 実技 タグ・ラグビー(3) ゲーム		
9) 実技 タグ・ラグビー(4) ゲーム		
10) 講義 子ども・老人向けのシナプソロジーを知る		シナプソロジー実習 フラッグフット紹介ビデオ
11) 実技 フラッグ・フットボール(1)基礎技術 走技術に加え、投技術を高める		
12) フラッグ・フットボール(2)作戦		
13) フラッグ・フットボール(3)ゲーム		
14) フラッグ・フットボール(4)ゲーム		
15) 講義 健康づくりのための身体活動基準 まとめ・反省		グループ別に活動の振り返りと評価
授業外学習		
生活調査 (1週間) の実施 ゲーム作戦図の作成		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
講義はプリント資料を配布し、行う。		

備考

運動実習の安全管理上、前・後期に分けて実施する。
講義・実技の日程は、天候上の理由で変更する場合がある。

科目名	子どもの発達と学習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	三島 瑞穂	関連する資格		

授業概要

保健師や養護教諭，教師が児童期・思春期の子どもと関わる際に必要な知識の習得を目的とする。
 学習心理学や教育心理学の基本的知識の他，学習障害や軽度発達障害の理解、虐待への対応など，子どもを取り巻く困難について，当事者のインタビューや最新の知見を交えて学ぶ。
 実際に現場に出たときに、どのような学習援助をすればよいのかは、自分で調べ、考えることが重要である。問題に対してどう調べればよいのかを学んでおく。

到達目標

子どもの学習に影響する環境や障害を理解する
 何が子どもの学習を支え促進するのか、を理解する

成績評価方法

各回レポートの内容と授業中の課題から総合的に判断する

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							20
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							15
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							5
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 学習の萌芽		小レポートの作成
2) 乳児期の学習		小レポートの作成
3) 乳児の言語発達		
4) 知能の発達		映像を用いた学習
5) 幼児期の発達と学習		
6) 児童期の発達と学習 事例を通して学ぶ		小レポートの作成
7) 思春期・青年期の発達と学習 事例を通して学ぶ		小レポートの作成
8) 発達障害（乳幼児期の早期発見） 事例を映像で学ぶ		小レポートの作成
9) 学習障害 事例を映像で学ぶ		小レポートの作成
10) 自閉症スペクトラム 事例を映像で学ぶ		小レポートの作成
11) 自閉症スペクトラム 事例を映像で学ぶ		小レポートの作成
12) ADHDの理解 事例を映像で学ぶ		小レポートの作成
13) 学校教育中の子どもの心理的発達 子どもの主体的な学びを促進する教育		小レポートの作成
14) 学校教育中の子どもの心理的発達 子どもの主体的な学びを促進する教育		小レポートの作成
15) 総括		
授業外学習		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
随時配布する。		心理学関連の科目

備考

科目名	エッセンシャルイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	1年	前期
担当者名	内海 俊祐	関連する資格		

授業概要

日常生活や異文化理解、職場や地域社会を話題としたリーディング及びライティングをパラグラフ単位で理解する能力を身に付けさせる。さらに、視聴覚資料の活用及び語彙、語法理解を深めることにより、スピーキング及びリスニング能力の向上を図り、現在の世界に不可欠とされる英語によるコミュニケーション能力を育成する。また、この講義は学生の英語レベルにより初級、上級のクラス編成を行い、初級クラスはTOEICの450点を、上級クラスは550点を目標に授業を展開する。

到達目標

異文化を理解し、英語でコミュニケーションを図ることが出来る。
TOEICテスト(公開テストまたはIP)で550点以上のスコアをとる力を身に付ける。

成績評価方法

定期試験(中間・期末)、レポート、授業態度、発表で評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 毎回マークシートでTOEICパート1の小テストを行う。また、前期期間中に英語で口頭発表をしてもらう。 TOEICの特徴についての説明、異文化理解と英語を学ぶことの意味	think-pair-share
2) リスニング問題	think-pair-share
3) 写真を用いた問題の解き方	think-pair-share
4) 応答文選択問題の解き方	think-pair-share
5) 会話文問題の解き方	think-pair-share
6) 説明文問題の解き方	think-pair-share
7) 発表とディスカッション	think-pair-share
8) リーディング問題	think-pair-share
9) 穴埋め問題の解き方	think-pair-share
10) 間違い指摘問題の解き方	think-pair-share
11) 一般読解問題の解き方	think-pair-share
12) 総合演習	think-pair-share
13) 英語運用能力向上のための方法論	think-pair-share
14) まとめディスカッション	think-pair-share
15) 総括	think-pair-share
授業外学習	
予習は必ず行うこと。英文の読みや訳は適時評価する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
『Seize the core of the TOEIC TEST』安丸雅子他著 金星堂	アドバンストイングリッシュ

備考

未知の表現に出会ったら辞書で調べるように習慣づけること。電子辞書はもちろんスマートフォンの辞書機能や辞書のサイトを使用することもこの授業では可。

科目名	エッセンシャルイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	1年	前期
担当者名	池田 守	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

総合的な英語運用能力の育成に焦点を当てた授業を展開する。その方法として、色々なタスクを通し、1)英文読解、2)英文法、3)リスニング、4)スピーキング、5)ライティングの指導を行う。
この講義は学生の英語レベルにより初級、上級のクラス編成を行い、初級クラスはTOEIC (Listening & Reading)テストで450点、上級クラスは550点を目標に授業を展開する。

到達目標

- ・ TOEIC (Listening & Reading)テスト(公開又はIP)で450点以上のスコアをとる力を身に付けることができる。
- ・ 読解力を向上させることができる。
- ・ コミュニケーション能力を向上させることができる。

成績評価方法

定期試験(中間・期末) -----60%
小テスト・授業内レポート -----20%
宿題 -----20%
で、評価する。(TOEICテストを受験し、規定のスコアに達すれば、単位を認定する。)

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							60	
小テスト、授業内レポート							20	
宿題、授業外レポート							20	
授業態度・授業参加度								
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) Unit 1	Welcome to Japan 動詞の現在形	授業内レポート
2) Unit 2	That Sounds Like Fun 代名詞	小テスト
3) Unit 3	We Leave on Friday Morning 時を表す前置詞	work in pairs
4) Unit 4	You Know a Lot About Trains 基本5文型	グループワーク
5) Unit 5	I Didn't Want to Leave 動詞の過去	小テスト
6) Unit 6	You're Working Late 進行形	30-word composition
7) Unit 7	I'm Sure He'll Understand 未来形	小テスト
8)	Mid-Term Exam (中間テスト)	これまでに学んだことを自主的に復習させる。
9) Unit 8	I'll Remember That 助動詞	授業内レポート
10) Unit 9	Hiro Forgot to不定詞、動名詞	小テスト
11) Unit 10	How Have You Been? 現在完了	work in pairs
12) Unit 11 Unit 12	While They're Here 接続詞 How Was Tennis? 比較	グループワーク
13) Unit 13	What Do You Mean? 受動態	授業内レポート
14) Unit 14	Well, What Are You Waiting For? 分詞(現在分詞、過去分詞)	30-word composition
15) Unit 15	The Last Supper 関係詞(関係代名詞・関係副詞)	グループワーク
授業外学習		
各授業の前までに、「授業計画と概要」に示す各Unitの「Grammar Check A, B」及び「Challenge Reading」の質問に解答しておくこと。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキスト: English First Basic. Robert Hickling, Misato Usukura, 2016年, 金星堂 参考書: 『総合英語 Forest第7版』. 石黒昭博(監), 桐原書店		アドバンストイングリッシュ ライセンスイングリッシュ

備考

科目名	アドバンストイングリッシュ						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	1年	後期			
担当者名	内海 俊祐		関連する資格				
授業概要 少子高齢化社会、環境問題、介護問題等グローバルな問題に関する英文を読み、自分の考えや意見をレポートにまとめる方を身に付けさせる。さらに、この講義においては、作成したレポートをもとにしてプレゼンテーションを行い、より高度で、実践的なコミュニケーション能力を育成する。この講義は学生の英語レベルにより初級、上級のクラス編成を行い、初級クラスはTOEICの500点を、上級クラスは600点を目標に授業を展開する。							
到達目標 TOEICテスト(公開テストまたはIP)で600点以上のスコアをとることができる。 異文化を理解し、英語でコミュニケーションを図ることができる。			成績評価方法 定期試験(中間・期末)、レポート、授業態度、発表で評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 毎回マークシートでTOEICパート1の小テストを行う。また、前期期間中に英語で口頭発表をしてもらう。 TOEICの特徴についての説明、異文化理解と英語を学ぶことの意味	think-pair-share
2) リスニング問題	think-pair-share
3) 写真を用いた問題の解き方	think-pair-share
4) 応答文選択問題の解き方	think-pair-share
5) 会話文問題の解き方	think-pair-share
6) 説明文問題の解き方	think-pair-share
7) 発表とディスカッション	think-pair-share
8) リーディング問題	think-pair-share
9) 穴埋め問題の解き方	think-pair-share
10) 間違い指摘問題の解き方	think-pair-share
11) 一般読解問題の解き方	think-pair-share
12) 総合演習	think-pair-share
13) 英語運用能力向上のための方法論	think-pair-share
14) まとめディスカッション	think-pair-share
15) 総括	think-pair-share
授業外学習	
予習は必ず行うこと。英文の読みや訳は適時評価する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
『Lighting Up the TOEIC TEST』植木美千子他著 金星堂 別途、各自でTOEICの問題集を購入してもらいたい。	

備考

未知の表現に出会ったら辞書で調べるように習慣づけること。電子辞書はもちろんスマートフォンの辞書機能や辞書のサイトを使用することもこの授業では可。

科目名	アドバンストイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	1年	後期
担当者名	池田 守	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

現代社会に関する情報を取り扱った英文を取り上げ、総合的な英語力を身に付けさせる授業を展開する。
 その方法として：パラグラフ・リーディングの練習を行う。内容を把握する練習を行う。リスニングの練習を行う。
 英作文の練習を行う。
 この講義は学生の英語レベルにより初級、上級クラス編成を行い、初級クラスはTOEIC (Listening & Reading)テストで500点、上級クラスは600点を目標に授業を展開する。

到達目標

- ・ TOEIC(Listening & Reading)テストで500点以上のスコアをとる英語力を身に付けることができる。
- ・ 英語の読解力を向上させることができる。
- ・ 書く力を向上させることができる。
- ・ 聞く力を向上させることができる。
- ・ 話す力を向上させることができる。

成績評価方法

定期試験（中間・期末）-----60%
 小テスト・授業内レポート----20%
 宿題-----20%
 で、評価する。（TOEICテストを受験し、規定のスコアに達すれば、単位を認定する。）

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) Unit 1 Our Aging Society	授業内レポート
2) Unit 3 Sport	小テスト
3) Unit 4 Foreign Workers	30-word composition
4) Unit 5 Lifestyles	グループワーク
5) Unit 6 Sizes	小テスト
6) Unit 8 Weather and Global warming	work in pairs
7) Unit 9 Recycling	小テスト
8) Mid-Term Exam	これまでに学んだことを自主的に復習させる。
9) Unit 11 Crumbling Britain	授業内レポート
10) Unit 12 Advertizing	小テスト
11) TOEIC (Listening & Reading) Test 問題練習()	work in pairs
12) Unit 13 Technology and Us	グループワーク
13) Unit 14 Cars: Transport or Status	30-word composition
14) Unit 15 Our Education	小テスト
15) TOEIC (Listening & Reading) Test 問題練習()g	授業内レポート
授業外学習	
各授業の前までに、「授業計画と概要」に示す各UnitのStep 2~Step 4の質問に解答しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：English Indicator 2 (Pre-Intermediate). Terry O'Brien, 他. 2016年、南雲堂 参考書：『総合英語 Forest 第7版』 石黒昭博（監）、桐原書店	

備考

科目名	オーラルイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	1年	後期
担当者名	Edward N. ナットン	関連する資格		

授業概要

日常的なコミュニケーションの場においては、リスニングの力が重要な役割を果たしている。ビデオやテープ等の視聴覚資料等の活用により、英語の音に興味を持たせ、リスニング力の向上を図り、英語による発話意欲を刺激する。リスニング力と発話意欲を向上させることにより、コミュニケーションを円滑にしていく能力を育成する。具体的には、オフィスや地域社会及び海外旅行等に必要とされる英会話力を身に付けさせる。さらに、海外からの旅行者に英語を用いた口頭による日本文化や生活習慣の説明、観光案内を行う発信型の英会話力を身に付けさせる。

到達目標

- 知識・理解の観点（具体的に説明できる。）
- 思考・判断の観点（内容を要約できる。）
- 関心・意欲の観点（考えを表現する。）
- 態度・価値観の観点（討議に参加できる。）
- 技能・表現の観点（相手に反応できる）

成績評価方法

STUDENTS ATTENDING THIS COURSE WILL BE EVALUATED ACCORDING TO THEIR CLASS PARTICIPATION, ATTENDANCE AND TEST RESULTS.
〔授業態度・出席と試験結果に従って評価する。〕

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) ORIENTATION AND SELF-INTRODUCTIONS. 〔オリエンテーションと自己紹介〕	CLASS OUTLINE AND PAIR WORK.
2) GREETINGS. 〔挨拶〕	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
3) ON THE AIRPLANE, " WOULD YOU LIKE BEEF OR FISH? " 〔機内で、" 肉か魚はいかがですか "〕	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
4) AT IMMIGRATION, " CAN I HAVE YOUR PASSPORT, PLEASE? " 〔入国管理局で、" 旅券を拝見できますか "〕	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
5) REVIEW EXECISES. 〔復習〕	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
6) AT THE BANK, " CAN I CHANGE SOME MONEY HERE? " 〔銀行で、" ここで両替が出来ますか "〕	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
7) AT THE HOTEL, " DO YOU HAVE ANY VACANCIES? " 〔ホテルで、" 空室がありますか "〕	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
8) AT THE POST OFFICE, " CAN I SEND THIS BY AIRMAIL? " 〔郵便局で、" これをエアメールで送ることが出来ますか "〕	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
9) DIRECTIONS, " GO STRAIGHT ALONG SEVENTH AVENUE. " 〔方角、" 7番目の道に沿って真っ直ぐに行く。 "〕	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
10) REVIEW EXECISES. 〔復習〕	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
11) HOMESTAY, " DO YOU MIND IF I WATCH TV? " 〔ホームステイ、" テレビを見てもいいですか "〕	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
12) AT THE CLINIC, " HOW DO YOU FEEL? " 〔医院で、" 気分はいかがですか "〕	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
13) TELEPHONING, " ARE YOU FREE THIS WEEKEND? " 〔電話をかけている、" 今週の週末はお暇ですか "〕	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
14) AT THE RESTAURANT, " ARE YOU READY TO ORDER? " 〔レストランで、" ご注文はお決まりですか "〕	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
15) 総括	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
授業外学習	
授業の予習復習をする。授業前に分からない単語を調べてくる。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
STUDENTS WILL BE PROVIDED WITH HANDOUTS TO COVER ALL PLANNED TEACHING ACTIVITIES. STUDENTS ARE ASKED TO ENSURE THEY BRING ENGLISH /JAPANESE AND JAPANESE / ENGLISH DICTONARIES TO CLASS. 〔学生はすべての計画された指導活動を学習するために教材（印刷物）を配布される。授業に英和・和英辞典を必ず持参することを求める。〕	

備考

科目名	メディカルイングリッシュ						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	2年	前期			
担当者名	内海 俊祐		関連する資格				
授業概要 看護師が言語を異にする患者及び医師とコミュニケーションを図るために必要な基礎的英語力を育成する。その方策として、患者への動作の指示や介助、説明に不可欠な用語及び表現を身につける。さらに、医療器具、体の部位、痛み等に対する英語を身に付け、患者及び医師への対応に必要なとされる英語の知識を深める。							
到達目標 言語を異にする患者及び医師とコミュニケーションを図ることが出来る。 基礎的な医療関連の英文を理解する能力を身に付ける。 外国における医療・看護への関心が高まる。			成績評価方法 定期試験（中間・期末）、レポート、授業態度、発表で評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 看護関係の英語の特徴について	think-pair-share
2) 国際医療に占める英語の位置	think-pair-share
3) 英語関連の資格試験	think-pair-share
4) 病院における英語の使い方についての説明	think-pair-share
5) 英語による患者とのコミュニケーション	think-pair-share
6) 英語による医師とのコミュニケーション	think-pair-share
7) 英語による同僚とのコミュニケーション	think-pair-share
8) 英語による患者の家族とのコミュニケーション	think-pair-share
9) 状況別の英語の使い方についての説明 1	think-pair-share
10) 状況別の英語の使い方についての説明 2	think-pair-share
11) 状況別の英語の使い方についての説明 3	think-pair-share
12) 状況別の英語の使い方についての説明 4	think-pair-share
13) 状況別の英語の使い方についての説明 5	think-pair-share
14) 状況別の英語の使い方についての説明 6	think-pair-share
15) 総括	think-pair-share
授業外学習	
予習は必ず行うこと。英文の読みや訳は適時評価する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
『First Aid: English for Nursing』樋口晶彦 John Tremarco著、金星堂 毎回プリント類を配布する 参考書：『現場ですぐに役立つ! 看護・医療スタッフの英語』山中マーガレット著、2008年、朝日出版社	スペシフィックイングリッシュ

備考

未知の表現に出会ったら辞書で調べるように習慣づけること。電子辞書はもちろんスマートフォンの辞書機能や辞書のサイトを使用することもこの授業では可。

科目名	メディカルイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	2年	前期
担当者名	池田 守	関連する資格		

授業概要

看護師が言語を異にする患者及びドクターとコミュニケーションを図るために必要な基礎的英語力を育成する。
その方法として： 患者への動作の指示、介助、説明に不可欠な英語の語彙及び表現を身に付けさせる。 医療器具、体の部位、痛み等に対する英語を身に付けさせる。さらに、 英語を使うドクターの指示、患者の要求を聞き取るためのリスニングの練習を行う。

到達目標

- ・ 基礎的な医療関連の英文を理解することができる。
- ・ 言語を異にする患者やドクターと英語を用いてコミュニケーションを図ることができる。
- ・ 英語の語彙を拡大することができる。

成績評価方法

定期試験（中間・期末）-----60%
小テスト、授業内レポート-----30%
宿題-----10%
で、評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) Chapter 1 WHAT IS A NURSE? 看護とは	授業内レポート
2) Chapter 2 THE HISTORY OF NURSING 看護の歴史	小テスト
3) Chapter 3 PATIENT-NURSE RELATIONSHIP 患者と看護師の関係	work in pairs
4) Chapter 4 COMMUNICATION WITH A PATIENT---(1) 患者とのコミュニケーション---(1)	小テスト
5) Chapter 4 COMMUNICATION WITH A PATIENT---(2) 患者とのコミュニケーション---(2)	グループワーク
6) Chapter 5 INTERCULTURAL COMMUNICATION WITH A PATIENT---(1) 患者との異文化コミュニケーション---(1)	小テスト
7) Chapter 5 INTERCULTURAL COMMUNICATION WITH A PATIENT---(2) 患者との異文化コミュニケーション---(2)	30-word composition
8) Mid-Term Exam (中間テスト)	これまでに学んだことを自主的に復習させる。
9) Chapter 6 DOCTOR-NURSE RELATIONSHIP---(1) 医師と看護師の関係---(1)	小テスト
10) Chapter 6 DOCTOR-NURSE RELATIONSHIP---(2) 医師と看護師の関係---(2)	グループワーク
11) Chapter 7 RELATED PROFESSIONALS---(1) 関連のある職種の人達---(1)	work in pairs
12) Chapter 7 RELATED PROFESSIONALS---(2) 関連のある職種の人達---(2)	小テスト
13) Chapter 8 NURSES AND THE HOSPITAL 看護師と病院	30-word composition
14) Chapter 9 NURSES IN THE COMMUNITY 地域における看護師	授業内レポート
15) Chapter 10 NURSING IN THE FUTURE 未来の看護	小テスト
授業外学習	
各授業の前までに、「授業計画と概要」に示す各ChapterのQuestions & Answers、Grammar & Usage及びTrue or False (Dialogue A)の質問に解答しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：English for Nursing Students. Marilyn W. Edmonds et al., 2016, 南雲堂 参考書：『現場ですぐに役立つ！看護・医療スタッフの英語』 . 山中マーガレット, 2017, 朝日出版社	スペシフィックイングリッシュ

備考

科目名	ライセンスイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	1年	前期
担当者名	内海 俊祐	関連する資格		

授業概要

自学自習を通し、公的資格にチャレンジし、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。

到達目標

- ・国際コミュニケーション協会が実施する「TOEIC（公開またはIP）試験」で450点以上のスコアを取ることができる。
- ・財団法人日本英語検定協会が実施する「実用英語検定試験」で2級以上の公的資格を取ることができる。

成績評価方法

合格基準に達し、単位認定を希望する学生は、本学が指定する単位認定申込書に必要事項を記入し、合格証あるいは得点票を添えて、担当教員に提出する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) (TOEICや実用英語検定試験等の受験に必要な学習内容を以下列挙する) 動詞を中心としたイディオムを学ぶ。	
2) 前置詞を中心としたイディオムを学ぶ。	
3) 文法(1) ...関係代名詞及び関係副詞を学ぶ。	
4) 文法(2) ...英語の時制を学ぶ。	
5) 文法(3) ...仮定法を学ぶ。	
6) 文法(4) ...分詞構文を学ぶ。	
7) リスニング(1) ...写真を見て、正しい説明を聞き取る練習をする。	
8) リスニング(2) ...対話を聞き、正しい応答を学ぶ。	
9) リスニング(3) ...説明文を聞き、内容を把握する。	
10) 英文読解(1) ...ボトムアップ方式で英文を把握する。	
11) 英文読解(2) ...速読直解の練習をする。	
12) 英文読解(3) ...スキミングの練習をする。	
13) 英文読解(4) ...スキミングの練習をする。	
14) TOEICテストの模擬練習をする。	
15) 実用英語検定2級の模擬練習をする。	
授業外学習	
TOEICや実用英語検定試験等を受験する際、問題傾向に十分に慣れておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
参考書：本学の図書館にTOEICテストおよび実用英語検定試験受験のための説明書や問題集を多数取り揃えています。活用してください。	エッセンシャルイングリッシュ アドバンスイングリッシュ オーラルイングリッシュ

備考

補習指導を行うので、申し出ること。

科目名	ライセンスイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	1年	後期
担当者名	内海 俊祐	関連する資格		

授業概要

自学自習を通し、公的資格にチャレンジし、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。

到達目標

- ・国際コミュニケーション協会が実施する「TOEIC（公開またはIP）試験」で450点以上のスコアを取ることができる。
- ・財団法人日本英語検定協会が実施する「実用英語検定試験」で2級以上の公的資格を取ることができる。

成績評価方法

合格基準に達し、単位認定を希望する学生は、本学が指定する単位認定申込書に必要事項を記入し、合格証あるいは得点票を添えて、担当教員に提出する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) (TOEICや実用英語検定試験等の受験に必要な学習内容を以下列挙する) 動詞を中心としたイディオムを学ぶ。	
2) 前置詞を中心としたイディオムを学ぶ。	
3) 文法(1) ...関係代名詞及び関係副詞を学ぶ。	
4) 文法(2) ...英語の時制を学ぶ。	
5) 文法(3) ...仮定法を学ぶ。	
6) 文法(4) ...分詞構文を学ぶ。	
7) リスニング(1) ...写真を見て、正しい説明を聞き取る練習をする。	
8) リスニング(2) ...対話を聞き、正しい応答を学ぶ。	
9) リスニング(3) ...説明文を聞き、内容を把握する。	
10) 英文読解(1) ...ボトムアップ方式で英文を把握する。	
11) 英文読解(2) ...速読直解の練習をする。	
12) 英文読解(3) ...スキミングの練習をする。	
13) 英文読解(4) ...スキミングの練習をする。	
14) TOEICテストの模擬練習をする。	
15) 実用英語検定2級の模擬練習をする。	
授業外学習	
TOEICや実用英語検定試験等を受験する際、問題傾向に十分に慣れておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
参考書：本学の図書館にTOEICテストおよび実用英語検定試験受験のための説明書や問題集を多数取り揃えています。活用してください。	エッセンシャルイングリッシュ アドバンスイングリッシュ オーラルイングリッシュ

備考

補習指導を行うので、申し出ること。

科目名	海外英語研修			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	1年	前期
担当者名	内海 俊祐	関連する資格		

授業概要

海外での研修や旅行あるいはインターンシップで必要とされる英語によるコミュニケーション能力を育成するために、夏季および春季の海外英語研修を実施する。研修先のセンターでは、英語母語者から週8時間以上の語学指導を受け、さらに、現地の文化および社会をよりよく知るために、スポーツへの参加、自然環境の視察およびフィールドトリップを行う。また、以上の内容の研修が円滑に行われるために、海外生活の諸問題を取り上げながら事前指導を行う。

到達目標

異文化および自文化を理解することが出来る。
英語による実践的コミュニケーション能力を身に付ける。
異文化との共生への関心が高まる。

成績評価方法

事前指導、海外研修、海外研修レポート、事後指導への参加状況を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							50

授業計画と概要		アクティブラーニング
<p>海外生活の諸問題を取り上げながら事前指導を行う。事前指導の内容は下記の通りである。</p> <p>1) 日本語と英語の比較</p> <p>2) 日本文化と欧米の比較</p> <p>3) 異文化体験の意義</p> <p>4) 海外から日本にEメールを送る</p> <p>5) 欧米事情</p> <p>6) 環境関連の英語</p> <p>7) 福祉関連の英語</p> <p>8) 9) 日本文化紹介のための英語 (日本人と閉鎖性 / 日本人と国際化 / 日本の特徴 / 日本についての情報の伝え方)</p> <p>10) 11) 12) 13) 海外生活のための英語 (日常会話の慣用表現 / 英会話のスピード / 生活習慣の差異 / 状況別の英語表現 / 英会話の注意点 / 英語のまま理解することについて)</p> <p>14) まとめとディスカッション</p> <p>15) 総括</p>		グループワーク
授業外学習		
渡航先の地理・文化・生活様式などを調べておくこと。		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
<p>毎回プリント類を配布する</p> <p>参考書：『日本を語る』、日鉄ヒューマンデベロップメント著、1995年、アルク</p>	オーラルイングリッシュ	

備考

この授業の単位は海外研修への参加を要件とする。

科目名	海外英語研修			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	1年	後期
担当者名	内海 俊祐	関連する資格		

授業概要

海外での研修や旅行あるいはインターンシップで必要とされる英語によるコミュニケーション能力を育成するために、夏季および春季の海外英語研修を実施する。研修先のセンターでは、英語母語者から週8時間以上の語学指導を受け、さらに、現地の文化および社会をよりよく知るために、スポーツへの参加、自然環境の視察およびフィールドトリップを行う。また、以上の内容の研修が円滑に行われるために、海外生活の諸問題を取り上げながら事前指導を行う。

到達目標

異文化および自文化を理解することが出来る。
英語による実践的コミュニケーション能力を身に付ける。
異文化との共生への関心が高まる。

成績評価方法

事前指導、海外研修、海外研修レポート、事後指導への参加状況を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							50

授業計画と概要		アクティブラーニング
<p>海外生活の諸問題を取り上げながら事前指導を行う。事前指導の内容は下記の通りである。</p> <p>1) 日本語と英語の比較</p> <p>2) 日本文化と欧米の比較</p> <p>3) 異文化体験の意義</p> <p>4) 海外から日本にEメールを送る</p> <p>5) 欧米事情</p> <p>6) 環境関連の英語</p> <p>7) 福祉関連の英語</p> <p>8) 9) 日本文化紹介のための英語 (日本人と閉鎖性 / 日本人と国際化 / 日本の特徴 / 日本についての情報の伝え方)</p> <p>10) 11) 12) 13) 海外生活のための英語 (日常会話の慣用表現 / 英会話のスピード / 生活習慣の差異 / 状況別の英語表現 / 英会話の注意点 / 英語のまま理解することについて)</p> <p>14) まとめとディスカッション</p> <p>15) 総括</p>		グループワーク
授業外学習		
渡航先の地理・文化・生活様式などを調べておくこと。		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
<p>毎回プリント類を配布する</p> <p>参考書：『日本を語る』、日鉄ヒューマンデベロプメント著、1995年、アルク</p>	オーラルイングリッシュ	

備考

この授業の単位は海外研修への参加を要件とする。

科目名	スペシフィックイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	4年	後期
担当者名	池田 守	関連する資格		

授業概要

具体的な看護の事例研究を題材に取り上げ、看護に関する英文読解及び英作文の力を身に付けさせる。
その方法として：「情報収集」「アセスメント」「計画立案」「実施」「評価」という一連の看護過程を英語で読む。「患者プロフィール」や「看護計画」を英語で書く練習をする。レポートや論文のアブストラクトを英語で読み、タイトルの付け方および文章の構成について指導する。

到達目標

- ・看護に関するボキャブラリーを拡大することができる。
- ・読解力を向上させることができる。
- ・「患者プロフィール」や「看護計画」等を英語で書くことができる。
- ・英語のレポートや論文の構成を理解することができる。

成績評価方法

定期試験（中間・期末）-----70%
小テスト、授業内レポート-----20%
宿題、授業外レポート-----10%
で、評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) Unit 1 Risk for Injury: How to Maintain Safety (安全な生活環境)	授業内レポート
2) Unit 2 Self-care Deficit: How to Practice Bathing and Hygiene (身体の清潔)	小テスト
3) Unit 3 Respiratory Disorders: How to Relieve Respiratory Distress (呼吸困難の看護)	work in pairs
4) Unit 4 Fluid Volume Deficit: How to Maintain Fluid Balance (体液バランスの管理)	小テスト
5) 「患者プロフィール」を英語で書く練習を行う。	授業内レポート
6) Unit 5 Insomnia: How to Promote Rest and Sleep (睡眠と心の健康)	30-word composition
7) Unit 7 Healthy Dietary Practice: How to Gain Adequate Weight (摂食障害と食事指導)	小テスト
8) Mid-term Exam (中間テスト)	これまでに学んだことを自主的に復習させる。
9) Unit 11 Impaired Skin Integrity: How to Manage Burn Care (小児のやけど)	小テスト
10) 「看護計画」を英語で書く練習を行う。	グループワーク
11) Unit 12 Visual Alterations: How to Adjust to Visual Disorder (加齢に伴う健康問題)	work in pairs
12) レポート、論文のアブストラクトを英語で読む。	グループワーク
13) レポート、論文の構成について指導する。	30-word composition
14) Unit 13 Surgical Client: How to Cope with Anxiety (手術前・手術後の看護)	授業内レポート
15) Unit 15 Lifestyle-related Diseases: How to Encourage Health-seeking Behaviors (生活習慣と健康)	小テスト
授業外学習	
各授業の前までに、「授業計画と概要」に示す各Unitの英文の概要を把握しておくこと。また、配布される資料の内容を次回の授業までに予習しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：Nursing Case Studies. Yoshihito Sugita, Richard R. Caraker, 2016, 成美堂 参考書：『現場ですぐに役立つ！看護・医療スタッフの英語』. 山中マーガレット, 2017, 朝日出版社 『看護の現場ですぐ役立つ看護研究のポイント』. 大口祐矢, 2017, 秀和システム	メディカルイングリッシュ

備考

科目名	中国語の基本			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	2年	前期
担当者名	柊 軍	関連する資格		

授業概要

中国語の発音すなわち、ピンイン文字（中国語表音ローマ字）で表記された発音を習得することに力を注ぐ。本講義では最初に、自分で作ったピンイン発音ソフトを併用し、声調（四声）、単母音、子音、複合母音及び鼻母音の発音を学習し、グループ学習などを通して中国語の発音基礎能力を身に付けさせる。ついで、テキストの会話短文及び単語の発音の習熟を目指す。並行して基礎的文法も学ぶ。

到達目標

中国語の発音基礎となるピンインを習得し、正しく発音することができる。
 具体例で基本的な文法についての説明できる。
 極簡単な日常会話ができる。

成績評価方法

定期試験、小テスト、授業への意欲・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							35
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 発音：声調（四声）、単母音、子音、複合母音及び鼻母音の発音を学習し、ピンインの基本的な発音要領・方法をマスターする。	グループワーク 第1回小テスト
2) 発音：声調（四声）、単母音、子音、複合母音及び鼻母音の発音を学習し、ピンインの基本的な発音要領・方法をマスターする。	グループワーク
3) 発音：声調（四声）、単母音、子音、複合母音及び鼻母音の発音を学習し、ピンインの基本的な発音要領・方法をマスターする。	グループワーク
4) 発音：声調（四声）、単母音、子音、複合母音及び鼻母音の発音を学習し、ピンインの基本的な発音要領・方法をマスターする。	グループワーク
5) 発音：声調（四声）、単母音、子音、複合母音及び鼻母音の発音を学習し、ピンインの基本的な発音要領・方法をマスターする。	グループワーク
6) 第1課：本文「?是中国人??」	
7) 第1課の文法及び各種のトレーニング	グループワーク
8) 第2課：本文「?是什??」	
9) 第2課の文法及び各種のトレーニング	グループワーク
10) 第3課：本文「?去?儿?」	
11) 第3課の文法及び各種のトレーニング	第2回小テスト
12) 第4課：本文「?个包多少??」	
13) 第4課の文法及び各種のトレーニング	グループワーク
14) 第5課：本文「??上有事??」	
15) 第5課の文法及び各種のトレーニング	第3回小テスト
授業外学習	
授業内容について復習、本文と単語の発音を繰り返し練習すること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教科書：『中国語 はじめの一步 最新2訂版』尹景春・竹島毅著、2013年、白水社、2,200円 参考書：『よくわかる中国語入門』三野昭一著、2004年、同学社、1,985円	中国語の応用

備考

科目名	中国語の応用			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	2年	後期
担当者名	柊 軍	関連する資格		

授業概要

中国語の基本で学習したことに引き続いて、活用度の高いテキストの会話短文を学習するとともに中国語発音の基礎とするピンインの能力を高める。また、基礎的文法を学び、繰り返し発音練習、各種のトレーニング及びグループ学習などを通して、「読む・書く・聞く・話す」四つの能力のうち、特に「聞く・話す」に重点を置きながら、簡単な日常会話ができる語学力を習得させる。

到達目標

繰り返し発音練習により中国語を正しく発音することができる
中国語の文法基礎および語彙力をアップすることができる。
中国語基礎能力を習得し、簡単な自己紹介できるようになる。

成績評価方法

定期試験、小テスト、授業への意欲・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							35
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 第6課：本文「?吃?了??」を行う。	
2) 第6課の各種のトレーニング	グループワーク
3) 第7課：本文「?家有几口人?」	
4) 第7課の各種のトレーニング	グループワーク
5) 第8課：本文「?从几点?始打工?」	
6) 第8課の各種のトレーニング	グループワーク
7) 第9課：本文「?去?美国??」	
8) 第9課の各種のトレーニング	第1回小テスト
9) 第10課：本文「?会唱歌??」	
10) 第10課の各種のトレーニング	グループワーク
11) 第11課：本文「?在干什???」	
12) 第11課の各種のトレーニング	グループワーク
13) 第12課：本文「祝?旅途愉快!」	
14) 第12課の各種のトレーニング	グループワーク
15) 総括	第2回小テスト
授業外学習	
授業内容について復習、本文と単語の発音を繰り返し練習すること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教科書：『中国語 はじめの一步 最新2訂版』尹景春・竹島毅著、2013年、白水社、2,200円 参考書：『よくわかる中国語入門』三野昭一著、2004年、同学社、1,985円	中国語の基本

備考

科目名	情報処理の基礎						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	1年	後期			
担当者名	柊 軍		関連する資格				
授業概要 高度情報社会をよりよく生きていくためには、コンピュータやインターネットについて、単に操作ができるというだけでは不十分であり、その本質・仕組みなどをよく認識し、活用していくことが大切である。本授業では、まず、情報、情報処理及び情報社会について説明し、デジタル情報表現の基礎となる二進法、コンピュータ内部の情報の表し方などを学習する。次には、コンピュータの構造と動作仕組み、コンピュータのハードウェア・ソフトウェア、プログラミング言語と情報処理手法（アルゴリズム）、コンピュータネットワークの基本概念などを取り扱う。最後に情報セキュリティについての対策、暗号化技術を説明する。							
到達目標 情報、情報処理についての基本概念・知識を習得できる コンピュータの全体像をつかみ、理解を深めることができる。 情報化社会について認識できる。 情報セキュリティの重要性・対策について学習できる。			成績評価方法 定期試験、小テスト、授業への意欲・態度				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) ガイダンス：授業概要	
2) 情報とは	小テスト グループワーク
3) コンピュータと情報社会	小テスト グループワーク
4) アナログ情報とデジタル情報	小テスト グループワーク
5) 二進数の世界	小テスト
6) コンピュータ内部での情報の表し方	小テスト
7) コンピュータ内部での情報の表し方	小テスト
8) コンピュータのしくみ・特徴・種類	小テスト
9) コンピュータのハードウェアI	小テスト
10) コンピュータのハードウェア	小テスト
11) コンピュータのハードウェア	小テスト
12) コンピュータのハードウェア	小テスト
13) コンピュータのソフトウェア	小テスト
14) プログラミング言語と言語処理システム	小テスト
15) 情報セキュリティ	小テスト
授業外学習	
授業開始時、前回の授業内容についての小テストがあり、講義資料などを復習してください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使わない。プリントを配布する。</p> <p>参考書：『教養・コンピュータ[第3版]』吉田敬一、共立出版、『情報処理論』山本 恒 他、同文書院、『情報処理概論』山下敬彦、共立出版</p>	情報処理演習

備考

科目名	情報処理演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	1年	後期			
担当者名	鷹岡 亮		関連する資格	養護教諭一種免許状			
授業概要 健康情報管理の実践のための具体的技法を情報処理機器の活用を中心に学びます。その際、「対象者にメッセージを分かりやすく伝えられること」を目標に、コンピュータを中心とした情報機器を医療機関、地域において情報管理の道具として使いこなすだけでなく、コミュニケーションや学習の道具としても使える技能を習得します。具体的には、自己紹介、絵本やイラスト等による医療情報の作成、医療等データの処理・加工・表示などを対象にして、毎回、手と頭をフル回転して頂く授業を目指します。							
到達目標 ある対象を他者に分かりやすく工夫して説明することができること。 自己紹介や絵本課題を通して、パワーポイント(Powerpoint)の基本操作を習得できること。 成績表や医療データを処理する活動を通して、基本的な関数を中心としたエクセル(Excel)の基本操作を習得することができること。 レポート課題を通して、パワーポイントで図を作成し、エクセルでデータを分析・表現し、それらの図や表・グラフを活用してワード(Word)でレポートを書くことができること。			成績評価方法 毎回の授業時の課題作業や演習課題の作業点と最終テストにより総合的に判断する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							20
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							15
グループワーク							
演習							45
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) ・授業オリエンテーション（授業計画・授業評価） ・架空の勤務先を対象にして1分間自己紹介に挑戦してみよう。	・自分を覚えてもらうための自己紹介の内容を考える。 ・自己紹介をプレゼンする。
2) ・Powerpointが何たるかを理解しよう。 ・Powerpointを活用して自己PRスライドを作成しよう。 ・授業資料のコピーの仕方や作業ファイルの提出方法を学ぼう。	・自己PRの内容を考える。 ・自己PRを分かりやすく工夫してPowerpointで表現する。
3) ・電子絵本のストーリーを考えよう。 ・電子絵本で使えるようなPowerpointのスキルを身につけよう。	・電子絵本のストーリーを考える。
4) ・Powerpointを活用して電子絵本を作成しよう（その1）。	・読者に響く言葉の使い方を考えてスライドで工夫して表現する。
5) ・Powerpointを活用して電子絵本を作成しよう（その2）。	・アニメーション等を活用して電子絵本らしい表現を考える。
6) ・電子絵本展覧会を実施しよう。	・他者評価を通してPowerpointのスキルを習得し、また伝わる表現を学ぶ。
7) ・Powerpointを活用したドリル問題（質問応答スライド）を作ろう。	・Powerpointの特徴を踏まえて質問応答の問題を考え、回答の表現方法を考える。
8) ・Excelの基本操作を理解しよう。 ・関数を使ってより簡単に数の合計を求めよう。	・Excelを活用してこれまでの計算方法を改善する方法について考える。
9) ・鷹岡塾の実力テスト成績処理に挑戦しよう。	・Excelを活用してこれまでの計算方法を改善する方法について考える。
10) ・仲間へのアンケート調査に挑戦しよう。 ・Excelでグラフの書き方を理解しよう。 ・Excelを活用したアンケート分析に挑戦しよう。	・Excelを活用してこれまで処理方法を改善する方法について考える。
11) ・Excelの関数を活用して課題を解決しよう（その1）。 ～ IF関数を学ぼう～	・Excelを活用してこれまで処理方法を改善する方法について考える。
12) ・Excelの関数を活用して課題を解決しよう（その2）。 ～ RANK関数や絶対参照を学ぼう～	・Excelを活用してこれまで処理方法を改善する方法について考える。
13) ・Excelの関数を活用して課題を解決しよう（その3）。 ～ SUMIF関数を学ぼう～	・Excelを活用してこれまで処理方法を改善する方法について考える。
14) ・Excelの関数を活用して課題を解決しよう（その4）。 ～ COUNTIF関数を学ぼう～	・Excelを活用してこれまで処理方法を改善する方法について考える。
15) ・Powerpoint , Excel , Wordを活用した課題に挑戦しよう。	・課題の回答を読み手に分かりやすく伝えるためのWord等での表現方法を考える。
授業外学習	
予習は必要ありませんが、授業時に授業外学習用の課題を提出する場合があります。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストや参考書は利用しません。必要に応じて、資料配布、Web情報を活用してもらいます。	インターネットの使い方

備考

科目名	インターネットの使い方			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	2年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

現在、多くの情報が電子情報として利用されており、現代社会を生きる我々は、インターネットを利用した基本的な情報収集や情報発信の知識を必ず習得しておかなければならない。本演習では、情報セキュリティの系統的・運用的な課題を理解するとともに、情報リテラシー教育における情報倫理の課題を理解して、社会における一利用者として必要な、情報倫理を身につけることをねらいとする。

到達目標

受け身ではなく、積極的な態度で授業に参画し、教員採用試験で求められている「メディアと教育」分野の知識を修得する。

成績評価方法

課題レポート、授業への取り組み姿勢を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) ガイダンス、グループ学習の役割分担等	
2) 情報化社会における情報管理（看護情報学の視点から）	
3) ICTと情報セキュリティについて1 -テーマ検討とキーワードの抽出-	
4) ICTと情報セキュリティについて2 -キーワードの簡易調査・中間報告-	
5) ICTと情報セキュリティについて3 -キーワードの詳細調査、テーマの理解-	
6) ICTと情報セキュリティについて4 -成果報告準備-	
7) ICTと情報セキュリティについて5 -成果報告-	
8) 情報社会とICTについて1 -テーマ検討とキーワードの抽出-	
9) 情報社会とICTについて2 -キーワードの簡易調査・中間報告-	
10) 情報社会とICTについて3 -キーワードの詳細調査、テーマの理解-	
11) 情報社会とICTについて4 -成果報告準備-	
12) 情報社会とICTについて5 -成果報告-	
13) インターネット技術 1 (情報検索)	
14) インターネット技術 2 (電子メール・ソーシャルメディア)	
15) 総括と課題作成	
授業外学習	
授業後、配布したプリントを読み直すこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
プリントを適宜配布	情報処理演習

備考

科目名	人体の構造と機能			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	3	1年	通年(前期)
担当者名	大草 知子、名尾 朋子	関連する資格		

授業概要

医療人として求められる「人間のからだと健康」に関する知識を習得する。解剖学、生理学、病態生理学の知識を関連させて考える思考過程を養うために、「ホメオスタシス」という統一テーマのもとに、臓器系統間の関連や相互作用を理論的に学ぶ。

到達目標

- 1、 人体の構造、固体の構成を遺伝子レベルから器官系レベルまで理解する。
- 2、 人体の生理機能を解剖学と関連させて学ぶ。
- 3、 「ホメオスターシス」というテーマのもとに、生命現象、病態生理を理解する。

成績評価方法

定期試験、授業外レポート、授業態度・授業参加度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 生理学とは、生理学に必要な化学の知識	サブノート項目 1、2
2) 人体の組織、皮膚と膜	サブノート項目 3、4
3) 骨の生理学	サブノート項目 5
4) 血液：血液の機能、成分、貧血	サブノート項目 6
5) 血液：止血・凝固、血液型、免疫	サブノート項目 6
6) 骨格筋：構造、機能	サブノート項目 7
7) 骨格筋：特性、エネルギー化学、神経支配	サブノート項目 7
8) 運動生理学	サブノート項目 8
9) 神経：概説、生理学	サブノート項目 9
10) 神経：末梢神経、中枢神経	サブノート項目 9
11) 神経：脳波、反射、髄液	サブノート項目 9
12) 感覚：総論、体性感覚、内臓感覚	サブノート項目 10
13) 感覚：味覚、聴覚・平衡覚	サブノート項目 10
14) 感覚：視覚	サブノート項目 10
15) 総括	
16) 循環器：解剖、電気生理	サブノート項目 11
17) 循環器：心機能、神経調節	サブノート項目 11
18) 呼吸器：生理、肺機能、換気障害	サブノート項目 12
19) 呼吸器：肺胞機能、血液ガス	サブノート項目 12
20) 腎・排泄機構：腎臓の解剖、腎機能	サブノート項目 13

21) 腎・排泄機構：尿細管機能、腎機能の調節、排尿機構	サブノート項目 1 3
22) 総括	
23) 体液および酸・塩基平衡：体液	サブノート項目 1 4
24) 体液および酸・塩基平衡：酸・塩基平衡	サブノート項目 1 4
25) 体液および酸・塩基平衡：体液平衡の障害	サブノート項目 1 4
26) 消化吸収：消化運動、消化	サブノート項目 1 5
27) 消化吸収：栄養素の分解と吸収	サブノート項目 1 5
28) 消化吸収：消化管ホルモン	サブノート項目 1 5
29) 栄養・代謝：栄養素、エネルギー代謝	サブノート項目 1 6
30) 総括	

授業外学習

配布テキストをもとに予習すること（1時間程度）。
演習問題を各自で解いて、授業内容を復習すること（1時間程度）。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
1) 人体の構造と機能サブノート（配布教材） 2) トートラ人体解剖生理学（翻訳版 丸善出版）	生物学の基礎、人間らしさとは何か、いのちの科学、薬理・薬剤学、など

備考

特別作成教材：「人体の構造と機能サブノート」を配布し、それに沿って講義をします。
講義には「人体の構造と機能サブノート」およびトートラ人体解剖生理学を持参すること。

本科目は、前期・後期の通年講義である。進級のための必修科目であり、履修により3単位が与えられる。

科目名	人体の構造と機能			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	3	1年	通年(後期)
担当者名	大草 知子、名尾 朋子	関連する資格		

授業概要

医療人として求められる「人間のからだと健康」に関する知識を習得する。解剖学、生理学、病態生理学の知識を関連させて考える思考過程を養うために、「ホメオスタシス」という統一テーマのもとに、臓器系統間の関連や相互作用を理論的に学ぶ。

到達目標

- 1、 人体の構造、固体の構成を遺伝子レベルから器官系レベルまで理解する。
- 2、 人体の生理機能を解剖学と関連させて学ぶ。
- 3、 「ホメオスターシス」というテーマのもとに、生命現象、病態生理を理解する。

成績評価方法

定期試験、授業外レポート、授業態度・授業参加度

レポートはコメントを記載して返却

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							70	
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							20	
授業態度・授業参加度							10	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 体温とその調節：体温の基礎	サブノート項目 17
2) 体温とその調節：体温調節、発熱	サブノート項目 17
3) 内分泌：定義、視床下部 下垂体	サブノート項目 18
4) 内分泌：副腎、甲状腺、副甲状腺	サブノート項目 18
5) 内分泌：膵臓	サブノート項目 18
6) 内分泌：性腺	サブノート項目 18
7) 生殖：性の分化、男性生殖器	サブノート項目 19
8) 生殖：女性生殖器	サブノート項目 19
9) 生殖：女性生殖器、妊娠・出産	サブノート項目 19
10) 総括	
11) 免疫：免疫とは	サブノート項目 20
12) 免疫：免疫機構の詳細	サブノート項目 20
13) 生体リズム	サブノート項目 21
14) 加齢の生理	サブノート項目 22
15) 総括	
授業外学習	
配布テキストをもとに予習すること（1時間程度）。 演習問題を各自で解いて、授業内容を復習すること（1時間程度）。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
1) 人体の構造と機能サポート（配布教材） 2) トートラ人体解剖生理学（翻訳版 丸善出版）	生物学の基礎、人間らしさとは何か、いのちの科学、薬理・薬剤学、など

備考

特別作成教材：「人体の構造と機能サブノート」を配布し、それに沿って講義をします。
講義には「人体の構造と機能サブノート」およびトートラ人体解剖生理学を持参すること。

本科目は、前期・後期の通年講義である。進級のための必修科目であり、履修により3単位が与えられる。

科目名	生涯発達心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

人間の発達とは、生涯にわたり、質的・量的に変化していく「連続した過程」として捉えられる。また、各発達の段階には、達成すべき課題があり、それらを遂行していく過程とも捉えられる。本講では、こうした視点をふまえ、出生から死に至るまで、人生で生じる心の変化を概観する。

到達目標

1. 出生から死に至るまで、人間の様々な時期に生じる心の変化・あり様が理解できる。
2. 人生の中で生じる変化を支え、より豊かな人生をおくるための支援が理解できる。

成績評価方法

定期試験、レポート、小テスト、受講態度で評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) ガイダンス、生涯発達心理学とは	授業内レポート
2) 発達に関する理論	小テスト
3) 生涯発達心理学の基本的視点	小テスト
4) 乳児期	小テスト
5) 幼児前期	小テスト
6) 幼児後期	小テスト
7) 学童期	小テスト
8) 思春期	小テスト
9) 青年期	小テスト
10) 成人前期	小テスト
11) 成人中期	小テスト
12) 成人中期	小テスト
13) 成人後期	小テスト
14) 死	小テスト
15) 発達の障害、まとめ	小テスト 授業内レポート
授業外学習	
<p>講義の終わりに、その講義のふりかえるため、講義のポイントをテーマとした小テストを行います。 小テストを中心に復習をくり返すことにより、知識の定着を図って下さい。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【テキスト】レジメを配布する。 【参考書】ガイドライン生涯発達心理学、ナカニシヤ出版 よく分かる発達心理学、ミネルヴァ書房</p>	<p>障害発達心理学 心理学関連科目</p>

備考

オフィスアワー；毎週木曜日3限目(事前に連絡して下さい)

科目名	人間関係論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	1	1年	後期
担当者名	立川 美香	関連する資格	看護師・保健師・養護教諭	

授業概要

看護職にとって人間関係を築くことは、その職務の前提でもあり、中心にもなっている。多様化する社会の中で、ケアの対象でもある患者の持つ価値観や期待を理解し、尊重することは益々重要となってきた。同時にケアの実践においては、患者との関係はもちろん、他の保健医療専門職・家族・地域社会と密接に連携していくことが不可欠である。本授業では、専門職として重要な人間関係を築いていくための態度や能力を学び、その知識と技法を実践の場で活かす事を目標に展開する。

到達目標

1. 人間関係を構成する自己と他者について、どの様に捉えているの知る。
2. 人間関係を構築するための理論や技法を知る。
3. 保健医療職としての人間関係について知る。
4. グループワークを通して、学生間の良好な人間関係を構築出来る。

成績評価方法

1. 定期試験・・・50点
2. グループワーク・・・30点
3. 授業態度・授業参加度・・・20点

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							30
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) オリエンテーション(授業概要) グループワーク		グループワーク プレゼンテーション
2) 第1章 人間関係の中の自己と他者		グループワーク プレゼンテーション
3) 第2章 対人関係と役割		グループワーク プレゼンテーション
4) 第3章 態度と対人行動		グループワーク プレゼンテーション
5) 第4章 集団と個人		グループワーク プレゼンテーション
6) 第5章 コミュニケーション		グループワーク プレゼンテーション
7) 第6章 カウンセリングと心理療法		グループワーク プレゼンテーション
8) 第6章 カウンセリングと心理療法		グループワーク プレゼンテーション
9) 第7章 コーチング		グループワーク プレゼンテーション
10) 第8章 アサーティブ - コミュニケーション		グループワーク プレゼンテーション
11) 第9章 保健医療チームの人間関係		グループワーク プレゼンテーション
12) 第10章 患者を支える人間関係		グループワーク プレゼンテーション
13) 第10章 患者を支える人間関係		グループワーク プレゼンテーション
14) 第11章 家族を含めた人間関係		グループワーク プレゼンテーション
15) 第12章 地域をつくる人間関係		グループワーク プレゼンテーション
授業外学習		
1. 事前課題 2. 読書		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキスト：系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 石野ひろの他 編、(株)医学書院		コミュニケーション論 他

備考

授業や・グループワークを通して、自己理解を深め、良好な人間関係を構築するのはどうしたら良いのか、考え行動出来るようにする。
プレゼンテーションの評価は、グループワークの評価に含んでいる。

科目名	コミュニケーション論（カウンセリングを含む）						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	1年	後期			
担当者名	小山 典子、榎本 俊哉		関連する資格				
授業概要 保健・医療・福祉および学校保健の現場で言語・非言語コミュニケーション活動を展開するにあたって、コミュニケーション論を基本にして、他者との人間関係における自己表現方法を学ぶ。また、援助に必要なカウンセリング概念と基礎的な技術と理論的な背景についてロールプレイと講義を組み合わせ学習する。							
到達目標 ・保健・医療・福祉におけるコミュニケーションの重要性と必要性について説明できる ・学校現場におけるコミュニケーションの重要性と必要性について説明できる ・他者との人間関係を良好に保つための技術としての自己表現方法がわかる ・専門職としてかかわる中で必要なコミュニケーション技術とカウンセリングの基本がわかる			成績評価方法 レポート及び授業参加度で総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							70
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) コミュニケーションとは	
2) コミュニケーションを支える心理	グループワーク
3) コミュニケーションを動かす心理	グループワーク
4) 親子のコミュニケーション（児童期）	
5) 親子のコミュニケーション（思春期）	
6) アサーション（気持ちを伝える言葉の技術）	
7) カウンセリングの基本1（相談での心構え）	
8) カウンセリングの基本2（相談での言葉の技術）	
9) 児童・思春期心身症の看護とカウンセリング	グループワーク
10) ディスコミュニケーションとは かかわり合いから生じる誤解を解く	グループワーク
11) コミュニケーションにおける信頼関係	グループワーク
12) 専門職のためのメンタルケア	レポート
13) 専門職のためのメンタルケア	レポート
14) コミュニケーションにおける責任の問題	レポート
15) 総括	
授業外学習	
地域社会の情報から特に医療・看護における心理学的なアプローチが必要と思われる事例について関心をもつこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：必要に応じて資料を配布する。 参考書：看護臨床における話す・聴く ケアを実らせるポイントとその実際，上野轟，医学書院	

備考

科目名	微生物・免疫学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	尾家 重治	関連する資格		

授業概要

感染症は迅速で的確な処置が求められる重要な疾患である。講義では、種々の感染症を起こす病原微生物について、それらの生物学的特性と感染症を起こす仕組みを学ぶ。また、生体の感染防御機構である免疫の仕組みを学ぶ。さらに、感染制御の理論と実践についても学ぶ。

到達目標

- (1) 感染症をおこす病原微生物を知る
- (2) 感染防御の仕組みを理解する
- (3) 感染予防の考え方と方法を理解する

成績評価方法

期末定期試験、中間試験、小テスト、授業外レポート、授業への意欲・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							80
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 微生物・免疫学の基礎：なぜ学ぶか、感染と感染症、病原微生物とは、微生物の性質、微生物学の歩み	小テスト
2) 細菌の形と特徴：グラム染色法、細菌の基本的な構造、芽胞とは、病原細菌が増殖する条件と代謝	小テスト
3) 病原微生物の種類、常在微生物叢：ゲノムでわかる生物の進化、病原微生物の大きさや特徴	小テスト
4) 感染と感染症：感染症はどのようにして起こるか、微生物の侵入経路、付着、侵入から発症まで、発症後の経過、細菌の毒素	小テスト
5) 感染に対する生体防御 - 1：免疫とは、自然免疫の仕組み、自働免疫と獲得免疫	小テスト
6) 感染に対する生体防御 - 2：獲得免疫の仕組み、獲得免疫に働く細胞、抗体の構造と働き、T細胞、アレルギー	小テスト
7) 感染症の基礎：感染に見られる一般的な症状、日本で多く見られる感染症	小テスト
8) 中間試験： 選択問題（ノート、プリント持ち込み不可）、 論述問題（ノート、プリント持ち込み可）	はあらかじめ提示されたテーマについて論述
9) 滅菌と消毒：滅菌と消毒の意味、滅菌法、消毒薬の種類と使い方、感染症の検査と診断：細菌感染症、ウイルスの感染症の検査法を学ぶ	小テスト
10) 感染症の治療：治療に用いられる薬、耐性菌とは何か、感染症への対策：感染症法とは、感染予防策、ワクチン	小テスト
11) 細菌感染症 - 1：ブドウ球菌、連鎖球菌、淋菌、緑膿菌、レジオネラ、百日咳菌、腸炎ビブリオ、インフルエンザ菌とその感染症	小テスト
12) 細菌感染症 - 2：カンピロバクター、ヘリコバクター、結核菌、破傷風菌、ディフィシル菌、梅毒トレポネーマとその感染症	小テスト
13) 細胞内寄生細菌感染症：リケッチアとクラミジアの感染症 真菌、原虫感染症：カンジダ、白癬菌、トキソプラズマの感染症	小テスト
14) ウイルス感染症 - 1：エボラ出血熱、デング熱、インフルエンザ、ウイルス性胃腸炎、エイズ、ウイルス性肝炎	小テスト
15) ウイルス感染症 - 2：ポリオ、狂犬病、日本脳炎、麻疹、風疹、水痘/帯状疱疹、ヘルペス、乳頭腫	小テスト
授業外学習	
<p>期末試験は 選択問題と 論述問題に分けて実施し、 ではプリントと教科書による復習を促し、重要事項について知識・理解の評価を行います。 ではあらかじめ提示したテーマについて自己学習を促して論述により思考・判断の評価を行うとともに、将来の仕事と関連づけて重要だと思ふ事柄について論述を求め、関心・学習意欲を評価します。また授業外レポートで自己学習を促します。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 「微生物学」第12版、医学書院 教材：講義に沿ったスライド原図のプリントを毎回配布</p>	<p>人体の構造と機能、疾病論Ⅰ、Ⅱ、 公衆衛生学、疫学 基礎看護方法論</p>

備考

科目名	病理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	崔 丹	関連する資格		

授業概要

生体の恒常性が乱れ、その結果生じてくる病理学的変化を理解する。循環器系、呼吸器系、消化器系、神経・運動器系など各臓器の病理、また、代謝、炎症、腫瘍などの病理、さらに老年期疾患の特徴と老化のメカニズム、放射線障害とその防御等について学ぶ。疾患の診断、治療方針の決定などに大きく関わる臨床病理学について説明できる。

到達目標

全身諸臓器の正常構造および働きを理解する。病理学総論および循環器系、呼吸器系、消化器系、神経・運動器系などの各臓器の代表的疾患を理解し、説明できる。病理および臨床検査の基礎知識や意義を理解する。

成績評価方法

出席状況、授業態度、レポート、筆記試験により評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 病理学で学ぶこと、先天異常と遺伝子異常、病理診断の実際 病理学が医学や医療のなかでどのような役割を担っているかを理解する。	宿題 授業外レポート
2) 細胞・組織の障害と修復 細胞傷害の原因と機序、組織の修復過程について学ぶ。	宿題 授業外レポート
3) 循環障害(1) 浮腫・充血・うっ血・出血・血栓症・梗塞などの局所循環障害を理解する。	小テスト 授業内レポート
4) 循環障害(2)、代謝障害 全身性循環障害としてショックなどを理解する。 代謝障害によって生じるおもな疾患について学習する。	小テスト 授業内レポート
5) 炎症と免疫、移植と再生医療(1) 炎症と免疫について学び、アレルギーについて理解する。	宿題 授業外レポート
6) 炎症と免疫、移植と再生医療(2)、感染症 移植と再生医療を学習する。感染症の一般的な特徴について理解する。	宿題 授業外レポート
7) 腫瘍(1) 腫瘍とはなにか、悪性腫瘍と良性腫瘍の違いなにかおよびがん転移の過程とその経路について理解する。	宿題 授業外レポート
8) 腫瘍(2)、老化と死 がんの発生原因や診断・治療についての最新情報を学ぶ。 加齢に伴う身体の変化や死にまつわる様々な問題について正しく理解する。	小テスト 授業内レポート
9) 循環器系の疾患 血管疾患と心疾患について、その定義と病態を理解する。	宿題 授業外レポート
10) 血液・造血器系の疾患 リンパ節の代表的疾患や造血系疾患について学ぶ。	宿題 授業外レポート
11) 呼吸器系疾患 気管・気管支・肺の疾患の発症機序、診断について理解する。	小テスト 授業内レポート
12) 消化器系疾患(1) 口腔・食道・胃の疾患について、その定義と病態を理解する。	宿題 授業外レポート
13) 消化器系疾患(2)、内分泌系の疾患 肝・膵の疾患を学ぶ。内分泌系疾患の全身への影響の仕組みを理解する。	宿題 授業外レポート
14) 腎・泌尿器系、生殖器系及び乳腺の疾患、目・耳・皮膚の疾患 腎・泌尿器系、生殖器系及び乳腺および目・耳・皮膚の疾患について学ぶ。	宿題 授業外レポート
15) 脳・神経・筋肉系の疾患、骨・関節系の疾患 脳・神経・筋肉系および骨・関節系のおもな疾患について理解する。	小テスト 授業内レポート
授業外学習	
毎授業後にはレポート提出すること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 医学書院	

備考

科目名	薬理・薬剤学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	尾家 重治	関連する資格		

授業概要

薬物が生体に及ぼす影響と薬理作用について学び、臨床で用いられる医薬品の効果と有害作用・副作用、その薬物の適用と投与方法について学ぶ。個々の薬物の基礎知識、薬物の安全性と認可方法についても学ぶ。各種疾患に対して用いられる薬物の適用方法（目的、作用・副作用、効果判定）、化学療法、輸血療法の具体例について学び、薬物療法と患者の生活の質について理解し、薬物療法における看護職の役割を理解する。

到達目標

薬の効果発現までの過程を理解する。
 薬の作用・副作用について医師と会話できる。
 看護上留意すべき薬理効果・副作用について理解する。

成績評価方法

定期試験、小テスト、
 授業への意欲・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) からだの中のかすりの動き	小テスト
2) 薬の効果に影響する因子	小テスト
3) くすりのリスク	小テスト グループワーク
4) 抗感染症薬	小テスト
5) 抗がん薬・免疫治療薬	小テスト
6) 抗アレルギー薬・抗炎症薬	小テスト
7) 末梢神経に作用する薬物	小テスト
8) 中枢神経系に作用する薬物	小テスト
9) 心臓・血管系に作用する薬物	小テスト
10) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	小テスト
11) 代謝に作用する薬物	小テスト
12) 皮膚科用薬・眼科用薬	小テスト グループワーク
13) 消毒薬・救急用薬	小テスト グループワーク
14) くすりが出るまで物質	小テスト
15) 総括	小テスト グループワーク
授業外学習	
授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座 専門基礎分野、疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学、大鹿英世、吉岡充弘、井関 健 著、医学書院 2,310円	

備考

科目名	栄養学（生化学を含む）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	前期
担当者名	長坂 祐二	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

栄養状態を改善することは、病気からの回復を促進し、病気の発症・進展を予防する。また、栄養療法（栄養素の補給または制限）により特定の疾患の病態を改善することができる。栄養療法は、すべての患者に必要な基本となる治療方法である。栄養と病態の関係を理解して看護実践に生かすためには、栄養学の基本的な知識を身に付ける必要がある。この授業では、栄養素の種類、構造、機能、吸収、代謝に関する基本的な知識に加えて、栄養ケアマネジメントの視点から栄養療法の実際について学ぶ。

到達目標

1. 食品に含まれる栄養素の種類と機能について説明できる。
2. 栄養素の消化、吸収、代謝について説明できる。
3. 栄養ケアマネジメントの実践方法について説明できる。
4. 主な疾患の栄養療法の原則を説明できる。

成績評価方法

授業態度（20％）、小テスト（授業期間中に5回実施）（50％）、定期試験（30％）

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験(中間・期末)							30
小テスト、授業内レポート							50
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 食品と栄養素(1)糖質の種類と機能	確認問題
2) 食品と栄養素(2)脂質の種類と機能	確認問題
3) 食品と栄養素(3)たんぱく質の種類と機能	確認問題 小テスト
4) 食品と栄養素(4)ビタミン・ミネラルの種類と機能	確認問題
5) 栄養素の消化と吸収	確認問題 小テスト
6) 栄養素の代謝(1)糖質・脂質	確認問題
7) 栄養素の代謝(2)エネルギー代謝	確認問題
8) 栄養素の代謝(3)たんぱく質	確認問題 小テスト
9) 栄養素の代謝(4)核酸とDNA、遺伝子の発現	確認問題
10) 日本人の食事摂取基準、ライフステージと栄養、国民健康・栄養調査	確認問題 小テスト
11) 栄養ケアマネジメントと栄養アセスメント	確認問題
12) 栄養補給法	確認問題
13) 栄養療法(1)肥満・メタボリックシンドローム	確認問題 小テスト
14) 栄養療法(2)糖尿病、脂質異常症、高血圧	確認問題
15) 食事療法(3)腎疾患、肝疾患、その他の疾患	確認問題
授業外学習	
<p>授業外学習は復習を中心都市、毎回の授業のポイントを確認問題で定着させる。確認問題と小テストの問題文の正誤の理由を自分の言葉で説明できるように復習する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：小野他著「系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能(3) 栄養学」(医学書院) 参考書・参考資料等：教科書を補う参考資料(特に生化学)を適宜配布する。</p>	

備考

科目名	疾病論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	通年(前期)
担当者名	大草 知子、名尾 朋子	関連する資格		

授業概要

内科的疾患の概念、病態生理、臨床・検査所見を理解し、診断・鑑別診断、治療についての基礎知識を学ぶ。患者を全人的に理解し、「生活の質の向上」のための課題を把握し、適切な看護計画を立てるための基礎知識を学習する。

到達目標

1. 内科的疾患の概念、病態生理、臨床・検査所見を理解する。
2. 内科的疾患の診断・鑑別診断、治療についての基礎知識を学ぶ。
3. 患者の「生活の質の向上」のための適切な看護計画を立てる。

成績評価方法

定期試験、授業内・外レポート、授業態度・授業参加度

レポートはコメントを記載して返却

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	○	○					70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 呼吸器疾患の症状とその病態 担当：大草、名尾		
2) 呼吸器疾患の検査 担当：大草、名尾		
3) 呼吸器疾患の理解：感染症、間質性肺炎 など 担当：大草、名尾		
4) 呼吸器疾患の理解：気道疾患、呼吸不全、腫瘍 など 担当：大草、名尾		
5) 循環器疾患の症状とその病態 担当：大草、名尾		
6) 循環器疾患の検査：心電図、心エコー、心臓カテーテル検査 など 担当：大草、名尾		
7) 循環器疾患の理解：弁膜症、虚血性心疾患、心筋症 など 担当：大草、名尾		
8) 循環器疾患の理解：不整脈、心不全 など 担当：大草、名尾		
9) 脳・神経疾患の症状とその病態、検査 担当：大草、外部講師		
10) 脳・神経疾患の理解：脳血管障害、認知症 など 担当：大草、外部講師		
11) 脳・神経疾患の理解：末梢神経障害、脱髄・変性疾患 など 担当：大草、外部講師		
12) 脳・神経疾患の理解：感染症 など 担当：大草、外部講師		
13) 腎・尿路系疾患の症状とその病態、検査 担当：大草、外部講師		
14) 腎・尿路系疾患の理解：腎障害、腎不全 など 担当：大草、外部講師		
15) 腎・尿路系疾患の理解：感染症、腎血管性病変、尿路疾患 など 担当：大草、外部講師		
授業外学習		
授業内容に合わせて、テキストを予習（1時間程度）すること。 その日のうちに、授業内容の復習（1時間程度）をすること。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
系統看護学講座専門分野 成人看護学(2)呼吸器 系統看護学講座専門分野 成人看護学(3)循環器 系統看護学講座専門分野 成人看護学(7)脳・神経 系統看護学講座専門分野 成人看護学(8)腎・泌尿器 (いずれも医学書院)		人体の構造と機能 看護学概論 疾病論

備考

テキストを講義に持参すること。
1) ~ 8) は聴診器を持参すること。

本科目は、前期・後期の通年講義である。進級のための必修科目であり、履修により2単位が与えられる。

科目名	疾病論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	通年(後期)
担当者名	大草 知子、名尾 朋子	関連する資格		

授業概要

内科的疾患の概念、病態生理、臨床・検査所見を理解し、診断・鑑別診断、治療についての基礎知識を学ぶ。患者を全人的に理解し、「生活の質の向上」のための課題を把握し、適切な看護計画を立てるための基礎知識を学習する。

到達目標

1. 内科的疾患の概念、病態生理、臨床・検査所見を理解する。
2. 内科的疾患の診断・鑑別診断、治療についての基礎知識を学ぶ。
3. 患者の「生活の質の向上」のための適切な看護計画を立てる

成績評価方法

定期試験、授業外レポート、授業態度・授業参加度

レポートはコメントを記載して返却

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○					70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 消化器疾患の症状とその病態、検査 担当：大草、外部講師		
2) 消化器疾患の理解：上部消化管疾患 担当：大草、外部講師		
3) 消化器疾患の理解：下部消化管疾患 担当：大草、外部講師		
4) 肝臓・胆嚢・膵臓疾患の理解 1 担当：大草、外部講師		
5) 肝臓・胆嚢・膵臓疾患の理解 2 担当：大草、外部講師		
6) 肝臓・胆嚢・膵臓疾患の理解 3 担当：大草、外部講師		
7) 内分泌疾患の症状とその病態、検査 担当：大草、外部講師		
8) 内分泌疾患の理解：視床、視床下部系 担当：大草、外部講師		
9) 内分泌疾患の理解：甲状腺、副甲状腺疾患 など 担当：大草、外部講師		
10) 内分泌疾患の理解：糖代謝、脂質代謝 など 担当：大草、外部講師		
11) 血液疾患の症状とその病態、検査 担当：大草、外部講師		
12) 血液疾患の理解：末梢血の異常、造血器腫瘍 など 担当：大草、外部講師		
13) アレルギー、免疫性疾患の病態生理 担当：大草、名尾		
14) アレルギー疾患の理解 担当：大草、名尾		
15) 免疫性疾患の理解 担当：大草、名尾		
授業外学習		
授業内容に合わせて、テキストを予習（1時間程度）すること。 その日のうちに、授業内容の復習（1時間程度）をすること。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
系統看護学講座専門分野 成人看護学(5)消化器 系統看護学講座専門分野 成人看護学(6)内分泌・代謝 系統看護学講座専門分野 成人看護学(4)血液・造血器 系統看護学講座専門分野 成人看護学(11)アレルギー膠原病感染症 (いずれも医学書院)		人体の構造と機能 看護学概論 疾病論

備考

テキストを講義に持参すること。

本科目は、前期・後期の通年講義である。進級のための必修科目であり、履修により2単位が与えられる。

科目名	疾病論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	通年(前期)
担当者名	名尾 朋子、大草 知子	関連する資格		

授業概要

外科的侵襲（手術）により治癒する疾患の病態を理解する。これらの疾患は時には急性に増悪・進行し、生命の危機をもたらすことがあるが、外科的治療により危機を脱することができることを学ぶ。外科的治療の適応には、診断後、速やかに判断され、遂行される場合がある。そのため、病態や症状の変化に対する迅速かつ正確な対応が必要である。特に、小児・高齢者では、慎重に対応することが重要である。外科的侵襲（手術）を受ける患者に必要な看護計画を速やかに計画できる知識を学ぶ。

到達目標

1. 外科的疾患の概念、病態生理、臨床・検査所見を理解する。
2. 外科的疾患の診断・鑑別診断についての基礎知識を学ぶ。
3. 外科的侵襲（手術）を受ける患者に必要な看護計画を速やかに立てる。

成績評価方法

定期試験、授業外レポート、授業態度・授業参加度

レポートはコメントを記載し返却

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○					70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 手術侵襲と生体反応、炎症 担当：名尾、外部講師		
2) 感染症、感染予防 担当：名尾、外部講師		
3) 心肺蘇生法、呼吸管理 担当：名尾、外部講師		
4) 栄養管理 担当：名尾、外部講師		
5) 輸液療法、輸血療法 担当：名尾、外部講師		
6) 外傷とショック 担当：名尾、外部講師		
7) 腫瘍 担当：名尾、外部講師		
8) 麻酔法 担当：名尾、外部講師		
9) 総括 担当：大草、外部講師		
10) 放射線医学1：画像診断 担当：名尾、外部講師		
11) 放射線医学2：放射線治療、放射線防護 担当：名尾、外部講師		
12) 脳神経外科 担当：名尾、外部講師		
13) 外傷1：頭部 担当：名尾、外部講師		
14) 外傷2：頸部、四肢、骨盤、胸部、腹部 担当：名尾、外部講師		
15) 脊髄外科 担当：名尾、外部講師		
授業外学習		
授業内容に合わせて、テキストを予習すること（1時間程度）。 その日のうちに、授業内容の復習をすること（1時間程度）。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・各論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 運動器（医学書院）		人体の構造と機能 疾病論

備考

上記テキストを講義に持参すること。

本科目は、前期・後期の通年講義である。進級のための必修科目であり、履修により2単位が与えられる。

科目名	疾病論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	通年(後期)
担当者名	名尾 朋子、大草 知子	関連する資格		

授業概要

外科的侵襲（手術）により治癒する疾患の病態を理解する。これらの疾患は時には急性に増悪・進行し、生命の危機をもたらすことがあるが、外科的治療により危機を脱することができることを学ぶ。外科的治療の適応は診断後、速やかに判断され、遂行される場合がある。そのため、病態や症状の変化に対する迅速かつ正確な対応が必要である。特に、小児・高齢者では、慎重に対応することが重要である。外科的侵襲（手術）を受ける患者に必要な看護計画を速やかに計画できる知識を学ぶ。

到達目標

1. 外科的疾患の概念、病態生理、臨床・検査所見を理解する。
2. 外科的疾患の診断・鑑別診断についての基礎知識を学ぶ。
3. 外科的侵襲（手術）を受ける患者に必要な看護計画を速やかに立てる。

成績評価方法

定期試験、授業外レポート、授業態度・授業参加度

レポートはコメントを記載して返却

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○					70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 耳鼻咽喉科 1 担当：名尾、外部講師	
2) 耳鼻咽喉科 2 担当：名尾、外部講師	
3) 胸部外科 担当：名尾、外部講師	
4) 心臓血管外科 1：先天性心疾患、弁膜症 担当：名尾、外部講師	
5) 心臓血管外科 2：虚血性心疾患 担当：名尾、外部講師	
6) 心臓血管外科 3：血管、その他 担当：名尾、外部講師	
7) 消化器外科 1：上部消化管 担当：名尾、外部講師	
8) 消化器外科 2：下部消化管 担当：名尾、外部講師	
9) 消化器外科 3：肝臓、胆嚢、膵臓 担当：名尾、外部講師	
10) 消化器外科 4：乳腺、内分泌、その他 担当：名尾、外部講師	
11) 眼科 担当：名尾、外部講師	
12) 小児外科 担当：名尾、外部講師	
13) 人に死に関する問題と臓器移植 担当：大草、外部講師	
14) 緩和医療 担当：名尾、外部講師	
15) 女性生殖器 担当：名尾、外部講師	
授業外学習	
授業内容に合わせて、テキストの予習をすること（1時間程度）。 その日のうちに、授業内容の復習をすること（1時間程度）。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座別巻臨床外科看護総論・各論 系統看護学講座専門分野 成人看護学(14)耳鼻咽喉 系統看護学講座専門分野 成人看護学(9)女性生殖器 (いずれも医学書院)	人体の構造と機能 疾病論

備考

上記テキストを講義に持参すること。

本科目は、前期・後期の通年講義である。進級のための必修科目であり、履修により2単位が与えられる。

科目名	公衆衛生学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	前期
担当者名	岩本 美江子	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

公衆衛生とは集団の疾病予防や健康の維持・増進を目的とする科学・技術である。本授業では、公衆衛生の概念と基本的な内容を理解することを目的とする。公衆衛生は、人々の健康が自然・社会・文化的環境と強くかかわっていることを理解し、さらに人々の生涯にわたる健康に関する諸制度の整備と保健活動を組織的に推進するものであることを学習する。

到達目標

人口変動や疾病構造の変化とその要因を理解する。
我々の健康生活を支える様々な保健体制の現状を理解する。
保健・医療・福祉の連携の現状と今後の課題について考える能力を養う。

成績評価方法

定期試験、宿題レポート提出および出席状況により評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 公衆衛生を学ぶにあたって 看護学生が公衆衛生を学ぶ意味を理解する	
2) 公衆衛生のしくみ 「公衆衛生のしくみ」とは何を指すかを知る	個人ワーク：1～3章までのゼミナール宿題
3) 環境と健康（その1） 環境と健康、生活のつながりを知る	
4) 環境と健康（その2） 環境保全の大切さを理解する	個人ワーク：4章のゼミナール宿題
5) 国際保健 国際保健活動の現場と国際保健の使命を知る	個人ワーク：5章のゼミナール宿題
6) 集団の健康をとらえるための手段（その1） 集団の健康状態を表す指標と意味を知る	
7) 集団の健康をとらえるための手段（その2） 集団の健康状態に影響を与える要因を見つける方法（疫学）を知る	個人ワーク：6章のゼミナール宿題
8) 地域保健 A母子保健 母子保健分野の対象となる人々、しくみ、活動を知る	
9) 地域保健 B成人保健 成人保健分野の対象となる人々、しくみ、活動を知る	
10) 地域保健 C高齢者保健 D精神保健 高齢者保健、精神保健分野の対象となる人々、しくみ、活動を知る	個人ワーク：7章のA,B,C,Dのゼミナール宿題
11) 地域保健 E歯科保健 F.難病支援・障害者支援 歯科保健、難病支援、障害者支援分野の対象となる人々・しくみ・活動を知る	
12) 地域保健 G感染症対策 感染症対策分野の対象となる人々、しくみ、活動を知る	個人ワーク：7章のE,F,G,のゼミナール宿題
13) 学校と健康 学校保健の目的としくみを知る	個人ワーク：8章のゼミナール宿題
14) 職場と健康 産業保健の目的としくみを知る	個人ワーク：9章のゼミナール宿題
15) 健康危機管理 災害保健 日本の災害対策体制と災害時の支援を理解する	
授業外学習	
<p>毎授業後には、学習した章のゼミナール（復習と課題）を行い、3回、5回、6回、8回、11回、13回、14回、15回目の授業日に前回までの指定の宿題を提出する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>系統看護学講座-公衆衛生学（医学書院）、 国民衛生の動向 要点をまとめた資料は毎回配布する。</p>	<p>保健統計、疫学</p>

備考

科目名	疫学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	岩本 美江子	関連する資格		

授業概要

疫学は、人間集団における健康状態とそれに関連する要因の分析を明らかにする学問である。授業では、疫学の歴史、概念、役割、及び保健医療活動に必要な疫学指標、疫学研究のデザインと手法、疫学的データの解析の基礎的知識を修得する。地域における疫学的診断、政策立案・実施・評価に必要な保健・医療の調査研究デザインについての基本的な考え方を理解する。保健師国家試験受験に際して必須の科目である。

到達目標

疫学の定義、歴史的事例を説明することができる。
有病率、罹患率等の保健統計指標の意義を理解する。
疫学研究の方法を習得する。
看護研究、地域診断など代表的なデータについて事例を示すことができる。

成績評価方法

定期試験、個人ワーク（宿題）、プレゼンテーションおよび出席状況により評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							5
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 疫学概念、疫学の紹介	
2) 集団の健康状態の把握 有病率、罹患率、致命率、暴露効果の指標	
3) 疫学的研究方法(その1) 観察研究、コホート研究	個人ワーク：相対危険、寄与危険、寄与危険割合、人口寄与危険、人口寄与危険割合
4) 疫学的研究方法(その2) 症例・対照研究、交絡、誤差	個人ワーク：オッズ比
5) 疫学的研究方法(その3) 介入研究、無作為化対照試験	
6) 疫学における因果関係の立証、アウトブレイク時の疫学調査 時間的關係、關連の強固性、量 - 反応關係-----など	
7) スクリーニングの目的、要件、評価	個人ワーク：敏感度、特異度、陽性反応的中率
8) 人口統計の基礎 人口静態統計、人口動態統計、年齢調整死亡率、生命表	個人ワーク：年齢調整死亡率の算出
9) 疾病登録の意義と目的 がん登録	
10) 主な疾患の疫学(その1) 母子保健の疫学、主な疾患(がん、心血管疾患、糖尿病など)の疫学	プレゼンテーション
11) 主な疾患の疫学(その2) 事故、学校・産業保健、環境の疫学	プレゼンテーション
12) 疫学と公衆衛生看護 社会疫学、政策疫学、臨床疫学	
13) 保健統計学の基礎(その1) データの種類との分布、代表値と散布度、確率分布	
14) 保健統計学の基礎(その2) 統計分析、検定、帰無仮説、有意水準、p値	
15) 保健統計調査、保健医療情報の管理・活用 基幹調査、疾病・傷害の定義と分類、保健医療情報の収集	
授業外学習	
個人ワークの宿題は、次回の授業時に提出すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> ・標準保健師講座(疫学・保健統計学)、医学書院 ・統計学の基礎(2年時の保健統計で使用した教科書) ・国民衛生の動向 ・要点や演習をまとめた資料は毎回配布する。 	公衆衛生学、保健統計

備考

電卓を用意する。

科目名	保健統計			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	後期
担当者名	岩本 美江子	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

保健統計は保健・医療・看護の分野での問題を考えていく上で必要な統計学の基礎を理解し、保健情報や看護研究、疫学を学ぶのに応用できる科目である。授業では、基礎的な統計学の知識を説明し、さらに、あるデータが得られた時にどのような統計方法が使えるか（使うべきか）、またその統計処理した結果をどう読み取るかを説明する。またパソコン（エクセル）によるデータ分析を実習する。3年前期で学ぶ疫学に継続する科目である。

到達目標

統計学の基礎となる確率・分布理論が理解できる。
測定データから適切な検定方法を選び実行することができる。
エクセルを使用してデータ処理や統計的検定ができる。
統計分析結果を読み取ることができる。

成績評価方法

定期試験（中間試験も含む）、授業外レポート（個人ワーク）、および出席状況により総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							5
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 統計学とは ばらつき、2つの機能（推計学、記述統計）	個人ワーク
2) 記述統計 標本の分布、平均値、中央値、最頻値、正規分布、分散、標準偏差、変動係数、パーセンタイル、四分位数	個人ワーク
3) 検定の原理、母平均の検定 統計的仮説検定、帰無仮説、対立仮説、片側検定、両側検定、第1種の過誤() 、第2種の過誤()、Z検定	個人ワーク
4) 関連2群の差の検定(その1) 1標本t検定(パラメトリック法)、対応のある検定 t分布、自由度	個人ワーク
5) 関連2群の差の検定(その2) 1標本ウイルクソン検定(ノンパラメトリック法)、対応のある検定	個人ワーク
6) 独立2群の差の検定(その1) 2標本t検定(パラメトリック法)、対応のない検定 等分散性の検定(F検定)	個人ワーク
7) 独立2群の差の検定(その2) マンホイットニ-U検定(ノンパラメトリック法)、対応のない検定	個人ワーク
8) 出現度数に関する検定 2適合度の検定、2独立性の検定	個人ワーク
9) 中間テスト	個人ワーク
10) 独立多群間の比較(パラメトリック検定) 多群間の同時比較が必要な場合、一元配置分散分析(ANOVA)	個人ワーク
11) 独立多群間の比較(ノンパラメトリック検定) 多群間の同時比較が必要な場合、クラスカルワリス検定	個人ワーク
12) 相関係数(2つの変量の関連の強さ) ピアソンの相関係数、スピアマン順位相関係数	個人ワーク
13) 回帰分析 回帰直線	個人ワーク
14) パソコンによる統計実習 エクセルの分析ツールを用いたの演習	個人ワーク
15) 統計のまとめ	
授業外学習	
その日の授業項目について、必ず復習をして理解しておくこと。質問があれば、翌週の授業で解決しておく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> ・市原清志編 カラーイメージで学ぶ統計学の基礎(日本教育研究センター) ・要点や演習をまとめた資料は毎回配布する。 	疫学

備考

電卓を用意する。

科目名	社会保障論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	2年	後期
担当者名	西田 隆	関連する資格		

授業概要

社会保障とは、人が長い人生を生きていくうえで、個人の自助努力だけでは、通常の生活を送ることができなくなるような社会的要因が生じたときに、安心した生活を保障するために創設された社会的制度である。本講義では、社会保障の概念を学び、これを基盤に、日本の代表的な社会保障の具体的な制度について学習する。

到達目標

- ・ 社会保障の意味を理解する
- ・ 社会保障の理念を理解する
- ・ 日本の具体的な社会保障制度の概要を理解する

成績評価方法

学期末の筆記試験を中心に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							80
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 社会保障論とは：社会保障の目的、歴史、仕組み		小テスト
2) 社会保険 公的医療保険		小テスト
3) 社会保険 介護保険		小テスト
4) 社会保険 年金保険		小テスト
5) 社会保険 雇用保険、労働災害補償保険		小テスト レポート
6) 社会福祉 社会福祉の基本 生活保護		小テスト
7) 社会福祉 高齢者福祉、障害者福祉		小テスト
8) 社会福祉 児童福祉、少子化		小テスト
9)		
10)		
11)		
12)		
13)		
14)		
15)		
授業外学習		
新聞やニュースなどで、社会保障に関する事項がないか注意し、見つけたら、内容を精査してください。		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
授業時間の配布資料		

備考

科目名	社会福祉論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	2年	前期			
担当者名	大塚 和美		関連する資格	看護師、保健師、養護教諭			
授業概要 現在のわが国は、疾病構造の変化や個々の多様なニーズに対応した医療・福祉・介護の在り方が問われている。国も疾患や障害を抱えていても住み慣れた地域で、安心して生活し続けることを目標にさまざまな制度・政策を展開している。このような現況の中で、看護職（看護師、保健師、養護教諭）が他職種（福祉士、心理士、保育士、栄養士など）と連携を図り、患者や地域住民、生徒らの生活の質（QOL：Quality of Life）の向上に向けた多角的な援助を行うことが求められている。そのためにも、看護職が社会福祉のを理解し、その知識を得ることは意義があると考えられる。 本講義では、社会福祉に関する知識を体系的に理解して、その知識を実践（演習・看護学実習・就職や業務）の際に活かせることを目標に展開する。							
到達目標 社会福祉の成り立ち、実施体制、制度、職種が理解できる。 社会福祉の対象者をめぐる理念や法律、施策が理解できる。 多職種連携やチームケアについて、自分の意見を述べるができる。 社会福祉に関する課題について、グループで討議した内容を分かりやすく発表できる。			成績評価方法 定期試験...50点 プレゼンテーション...20点 グループワークの態度・貢献度...30点				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							20
グループワーク							30
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション(授業概要) グループワーク：担当者が用意した課題を基に福祉について話し合う	グループワーク プレゼンテーション
2) 第1章 私たちが暮らす現代社会の理解	グループワーク プレゼンテーション
3) 第2章 社会保障・社会福祉の成り立ち	グループワーク プレゼンテーション
4) 第3章 社会保障の財政と社会福祉の実施体制	グループワーク プレゼンテーション
5) 第4章 命と健康を守る医療保障制度	グループワーク プレゼンテーション
6) 第5章 高齢者を支える介護保険制度	グループワーク プレゼンテーション
7) 第6章 生活を支える所得保障制度	グループワーク プレゼンテーション
8) 第7章 生活保護制度の理解	グループワーク プレゼンテーション
9) 第8章 児童家庭福祉の理解	グループワーク プレゼンテーション
10) 第9章 障害者福祉の理解	グループワーク プレゼンテーション
11) 第10章 高齢者福祉の理解	グループワーク プレゼンテーション
12) 第11章 地域福祉の理解	グループワーク プレゼンテーション
13) 第12章 ソーシャルワークの理解	グループワーク プレゼンテーション
14) 第13章 保健医療と福祉の連携	グループワーク プレゼンテーション
15) ゲストスピーク(予定)：医療ソーシャルワーカーの講話	ゲストスピーク グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
<p>次週で講義する章を事前に読んでおくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前日までに、キーワード(黒太文字、欄外の説明など)にマーカーを付けたり、付箋紙を貼る。 ・授業実施後に、グループで話し合った内容、板書した内容、理解できなかった用語などを確認する。 <p>学んだ内容が、看護師・保健師・養護教諭の国家試験にどのような形式で出題されるのか、過去問題集などで確認する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：看護職をめざす人の社会保障と社会福祉 守本とも子 編、(株)みらい</p>	<p>社会保障論、保健医療福祉行政論 各領域の看護学実習</p>

備考

授業態度・授業参加度の評価は、グループワークの評価に含んでいる。
毎回の授業で、グループワークで意見を出し合い、その内容をプレゼンテーションする形式で授業を展開する予定である。
授業時間内にテキストの内容の全てを説明することは困難と思われる。そのため、時間外学習の習慣化が望ましい。
時間外学習を行う際は、大学図書館にある以下の書籍などが参考になると思われる。

- ・社会福祉士、精神保健福祉士養成のテキスト、または国家試験対策に関わる書籍全般
- ・看護師、保健師、養護教諭の国家試験対策に関わる書籍全般、または雑誌

科目名	保健医療福祉行政論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	田中 逸夫	関連する資格		

授業概要

国民の健康な生活をめざした保健・医療・福祉行政を体系的に理解し、地域の健康問題の改善にむけて保健師活動を効果的に推進するための立案プロセスについて学習する。

到達目標

- 1 保健医療福祉行政の制度の変遷・役割・仕組みを理解する。
- 2 社会保障制度全般の概要を理解する。
- 3 保健・医療・福祉の制度を体系的に理解する。
- 4 保健医療福祉計画策定から計画推進・評価まで、具体的に理解する。
- 5 保健事業の立案プロセスを理解する。

成績評価方法

?期末定期試験、
小テスト、
授業外レポート、
授業への意欲・態度
により評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							65
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							15
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 保健医療福祉行政のねらいと制度の変遷(1)	
2) 保健医療福祉行政のねらいと制度の変遷(2)	授業外レポート課題?【(1) 2)関係】
3) 保健医療福祉行財政の仕組み(1)	
4) 保健医療福祉行財政の仕組み(2)	授業外レポート課題 【(3) 4)関係】
5) 社会保障制度	
6) 医療提供体制	
7) 介護保険制度	
8) 社会保障・社会福祉の制度(1) (年金保険)	小テスト?【(7)関係】
9) 社会保障・社会福祉の制度(2) (雇用保険と労働者災害補償保険) (公的扶助)	
10) 社会保障・社会福祉の制度(3) (児童家庭福祉) (高齢者福祉)	
11) 社会保障・社会福祉の制度(4) (障害者福祉) (成年後見制度)	
12) 保健医療福祉の計画と評価(1)	
13) 保健医療福祉の計画と評価(2)	授業外レポート課題 【(12) (13)関係】
14) 地域保健行政の体系と公的機関(1)	
15) 地域保健行政の体系と関係機関との連携(2) 総括(保健医療福祉行政のまとめ)	
授業外学習	
復習をキチンとすること。(?授業外レポート、小テスト準備に、身を入れて取り組むこと。)	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】標準保健師講座 別巻1、保健医療福祉行政論、医学書院【参考書】 系統看護学講座 専門基礎分野9社会福祉、医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野10看護関係法令医学書院 国民衛生の動向、(財)厚生統計協会 国民の福祉の動向、(財)厚生統計協会 社会保障入門、厚生労働省大臣官房政策課、中央法規	社会保障論、福祉入門、公衆衛生学

備考

科目名	医療経済論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	2年	前期
担当者名	原田 博子	関連する資格		

授業概要

医療サービスの経済的特殊性、人々の保健行動・受療行動分析・医療保険の理論、医療供給と資格制度、医療・看護サービスの経済的評価とその方法、経済発展と国民の健康水準との関連等について学ぶ

到達目標

1. 医療経済の現状と課題について説明できる
2. 医療・看護を取り巻く社会経済的視点について説明できる。

成績評価方法

小テスト、グループワークとプレゼンテーション、課題レポートにより評価する

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 医療福祉の経済学：参考書1章論点1、2	
2) まず知っておきたい国民医療費の仕組みと変化 第1章	医療費についてレポート
3) 医療費適正化は、なぜ世界共通のテーマなのか 第2章 前回のレポートをもとにグループワークと発表	第3章は事後学習 プレゼンテーション
4) 財務諸表の理解：参考書第3章論点3	
5) 管理者として理解しておきたい診療報酬制度の課題とその処方箋第7章	
6) 支払い機関である保険者とはなにか第8章	小テスト
7) 日本と海外の医療費の適正化への取り組み 第4章	
8) 病院という組織の経済的な仕組みと解説第9章 基本となる薬の経済学入門 第11章	第12章を読んだのち、関係する内容を自分で調べてレポート提出
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
事前学習45分：教科書を事前に読んで授業に参加すること。事後学習45分：授業で不明だった言葉を調べる。さらに、授業では触れなかった教科書の内容を読んでおくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：川淵孝一、わかりやすい医療経済学、日本看護協会出版会 参考書：看護経営・経済論、日本看護協会出版会 看護関係法令：医学書院	社会保障・社会福祉、看護管理、看護学概論

備考

科目名	看護学概論						
授業形態	履修形態	単位数		年次	開講期		
講義	必修	2		1年	前期		
担当者名	山邊 素子、狩野 京子、橋本 茂子、福森 絢子、金子 真弓、神徳 和子、古場 真理	関連する資格					
授業概要 看護の基本概念の理解を踏まえて看護学の知識体系の概念をつかみ、専門職としての看護の機能と役割について理解する。看護活動の対象である人間を、成長・発達、ライフサイクルの側面、生活主体としての側面から考察し、ニーズの充足と自立、適応に焦点を当てた看護活動について理解する。看護の基本は患者の苦痛を軽減し、安全・安楽・自立を確保し、環境を整え安寧を保障することであり、生命・人間の尊厳や基本的人権を基盤に看護活動を展開することを認識する。患者の権利をめぐる歴史の変遷や権利擁護の重要性について理解すると共に、生命倫理上の諸課題（尊厳死、脳死臓器移植等）について考察する。また、看護師のジレンマ、インフォームド・コンセントと意思決定、個人情報とプライバシーの保護、ターミナルケア、看護師の法的責任や倫理的行動規範など看護行為を支える看護倫理について理解する。							
到達目標 1. 看護の主要概念である人間、健康、環境、看護について理解できる。 2. 保健医療提供システムにおける看護の役割と機能について理解できる。 3. 看護に関連する法と制度、看護実践の基準について理解できる。 4. 看護倫理について考えることができる。 5. 生活と環境に関する疑問を明確にし、解決のための調査、発表ができる。 6. 看護におけるコミュニケーションの役割が理解できる。				成績評価方法 定期試験、レポート、態度、グループワーク、プレゼンテーションにより評価する。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							10
グループワーク							5
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 看護学概論ガイダンス、生活体験と看護、現在の看護観・看護師像	グループワーク
2) 看護とは何か：看護概念の変遷	
3) 看護とは何か：看護の定義と看護理論	
4) 看護の歴史：時代と看護の変遷	
5) 看護の対象としての人間：生活者としての人、発達・変化する人間	
6) 看護の対象としての人間：環境との相互作用	
7) 健康と看護：健康の概念と人々の健康状態	
8) ナイチンゲールの提唱した看護	授業外レポート
9) ヘンダーソンの提唱した看護	
10) 生活と環境：疑問・調査内容の検討	グループワーク
11) 生活と環境：調査の実施	グループワーク
12) 生活と環境：調査のまとめ	グループワーク
13) 生活と環境：発表準備	グループワーク
14) 生活と環境：調査の発表	プレゼンテーション
15) 生活と環境：調査の発表	プレゼンテーション
16) 保健医療システムと看護	
17) 看護の機能と業務	
18) 看護活動とは：看護実践の基準	グループワーク
19) 看護活動の過程	
20) 看護管理	

21) 看護管理	
22) 看護倫理	
23) 看護倫理	
24) 災害看護	
25) 国際看護	
26) 医療現場でのコミュニケーション：患者 看護師関係とコミュニケーション	授業外レポート
27) 医療現場でのコミュニケーション：プロセスレコード	グループワーク
28) 医療現場でのコミュニケーション：ロールプレイング	グループワーク
29) 医療現場でのコミュニケーション：医療者間でのコミュニケーション	グループワーク
30) 看護とは何か： 看護観の変化、看護実践にむけて	グループワーク 授業外レポート

授業外学習

1. 該当するテキストの単元を事前に読んで上で授業に参加する。
2. 提示した課題について、レポートを作成し、期限までに提出する。
3. グループワークでは、主体的に意見交換やプレゼンテーションを行う。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
1.松木光子編：看護学概論 看護とは・看護学とは 第5版 ヌーヴェルヒロカワ 2.フローレンス・ナイチンゲール著/小 玉香津子他訳：看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会 3.ヴァージニア・ヘンダーソン著/湯楨 ます他訳：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 4.看 護者の基本的責務2017年版 手島恵監 日本看護協会出版会	基礎看護方法論 ・ 、基礎看護方法演習 ・ 、基礎看護 学実習 ・ 、臨床看護総論、看護理論、看護管理学、災害 看護論、国際看護論

備考

--

科目名	看護理論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	1年	後期			
担当者名	佐藤 美幸		関連する資格	看護師国家試験受験資格			
授業概要 看護学の基盤としての看護理論を学ぶことにより、「看護とは何か」を学問的・科学的に捉え、看護理論を実践や研究に結び付けていくことの意義を認識する。 看護理論家の理論を知る上で必要な概念や理論の構造について学習したうえで看護の諸理論を学び、その理論の特徴を的確に捉え、さらに看護実践や研究の中でどのように活用されているかを学ぶ。							
到達目標 看護理論とはどのようなものを説明できる 理論の範囲とその適用について述べるができる 看護の主要概念について述べるができる 主な看護理論の概要と特徴を説明できる 看護理論と看護実践、看護過程、看護研究の関係を述べるができる			成績評価方法 定期試験（80％）、レポート（20％）				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験(中間・期末)	○	○	○				80
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 理論とは何か、看護理論とは何か、なぜ看護理論が必要か	
2) 看護理論開発の歴史、看護モデルと医学モデル	
3) 理論の機能と構成要素、基本的な特徴、看護理論の範囲	
4) 看護理論の共通要素（4大概念）	
5) 看護理論の評価、看護理論の有効性と限界	
6) 看護の諸理論1（オラント、アプテラ、ウィデンバック）	
7) 看護の諸理論2（ホルム）	
8) 看護の諸理論3（ロイ）	
9) 看護の諸理論4（ヘブロー、トラベル）	
10) 看護の諸理論5（キウ、ロジャース）	
11) 看護の諸理論6（ワッ、ヘナ）	
12) 看護理論と看護実践	
13) 看護理論と看護過程	
14) 看護理論と看護研究	
15) 看護とは何か	グループワーク レポート作成（自己学習時間 120分）
授業外学習	
事前配布のプリントはすべて目を通して授業に臨むこと	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
プリント配布 看護の力：川嶋みどり著、岩波新書	看護学概論

備考

科目名	基礎看護方法論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	1	1年	前期
担当者名	福森 絢子、狩野 京子、山邊 素子、橋本 茂子、金子 真弓、神徳 和子	関連する資格	看護師	

授業概要

授業の概要

看護の対象となる人々との援助関係を形成する方法を学習するとともに、最も基礎的な日常生活上の看護実践の技術について、安全・安楽・自立の視点から看護技術の考え方や構造について学ぶ。また、根拠に基づいた看護を提供するために、理論的背景や先行研究を活用することが必要であることを認識する。最終的には、個人の生活を把握し、健康的な日常生活行動を促進する援助技術について学ぶ。

到達目標

1. 日常生活援助技術における基礎的な知識の理解ができる。
2. 日常生活援助技術を安全・安楽・自立の視点で考えることができる。
3. 援助関係形成の方法を理解できる。

成績評価方法

定期試験（60％）、事前課題・レポート（5％）、授業態度・授業参加度（5％）、実技試験（30％）で評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験（中間・期末）	60			30			90
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	5						5
授業態度・授業参加度	5						5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 基礎看護技術の基本：授業ガイダンス、看護技術とは 環境の調整技術：環境の意義、病室内環境と病室内環境、病床の作り方と整備、医療安全の確保、衛生的な手洗い、感染防止の基礎知識、標準予防策	
2) 実習室の使用法、衛生的な手洗い、環境整備、ベッドメイキング	演習・グループワーク
3) 衛生的な手洗い、環境整備、ベッドメイキング	演習・グループワーク
4) コミュニケーション：コミュニケーションの意義と目的、コミュニケーションの構成要素と成立過程、関係構築のためのコミュニケーション、効果的なコミュニケーションの実際、コミュニケーション障害への対応	
5) ヘルスアセスメント：ヘルスアセスメントとは、体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態	
6) バイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態）	演習・グループワーク
7) バイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態）	演習・グループワーク
8) ヘルスアセスメント：健康歴とセルフケア能力のアセスメント、視診・触診・打診・聴診、計測とは、計測の実際（身長・体重・皮下脂肪・腹囲）	
9) バイタルサイン測定、身体計測（身長・体重・皮下脂肪・腹囲）	演習・グループワーク
10) バイタルサイン測定、身体計測（身長・体重・皮下脂肪・腹囲）	演習・グループワーク
11) 活動・休息援助技術：基本的活動の援助技術（体位、体位変換、移動・移乗・移送）、睡眠と休息の援助	
12) 活動・休息援助技術：体位変換、車イス・ストレッチャーでの移動・移送	演習・グループワーク
13) 活動・休息援助技術：体位変換、車イス・ストレッチャーでの移動・移送	演習・グループワーク
14) 実技試験：バイタルサイン測定	実技試験
15) 実技の確認：バイタルサイン測定	実技試験
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座 基礎看護技術 基礎看護学（有田清子 他著、医学書院） 系統看護学講座 基礎看護技術 基礎看護学（有田清子 他著、医学書院） 写真でわかる 実習で使える看護技術（インターメディカ）	基礎看護方法演習 基礎看護学実習

備考

基礎看護学実習 の履修に、本科目の単位認定が必要である。

2/3以上の出席がないと、受験資格が与えられない。
事前課題やレポートなどの未提出や内容の不備は減点となる。事前課題・レポート点から減点する。
私語・遅刻、身だしなみの不備、その他態度不良は減点となり、態度から減点する。
遅刻3回で1回欠席となる。欠席は1点減点とする。全体から減点する。

科目名	基礎看護方法演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	1年	後期			
担当者名	橋本 茂子、狩野 京子、山邊 素子、福森 絢子、金子 真弓、神徳 和子	関連する資格	看護師				
授業概要 看護に共通する技術である、人間関係を発展させる技術、安全を守る技術、安楽確保の技術、情報収集と観察の技術、そして、最も基礎的な日常生活上の看護実践の技術について、演習をとおして修得する。そのなかで、基本技術の目的・必要性・期待される効果を認識し、正確で安全な看護技術の提供を支える態度を養う。							
到達目標 1. 安全・安楽かつ効率的に看護秘術を行う方法を習得する 2. 人の活動・運動・休息・睡眠を援助する方法を習得する 3. 人の食および食生活を援助する方法を習得する 4. 排泄の調整方法および排泄行動をとれない人への援助方法を習得する 5. 清潔を維持するための援助方法を習得する				成績評価方法 実技試験60%、定期試験30%、事前課題・レポート5%、授業への意欲・態度5%で評価する。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	30			60			90
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	5						5
授業態度・授業参加度	5						5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 苦痛の緩和・安楽確保の技術：体位保持（ポジショニング）、電法、リラクゼーション法	
2) 苦痛の緩和・安楽確保の技術：体位保持（ポジショニング）、電法、リラクゼーション法	演習・グループワーク
3) 苦痛の緩和・安楽確保の技術：体位保持（ポジショニング）、電法、リラクゼーション法	演習・グループワーク
4) 食事援助技術：食事援助の基礎知識（食事状態および食欲・摂取能力のアセスメント、医療施設で提供される食事）、食事介助、摂食・嚥下訓練、口腔ケア	
5) 食事援助技術：食事介助、口腔ケア	演習・グループワーク
6) 食事援助技術：食事介助、口腔ケア	演習・グループワーク
7) 排泄援助技術：自然排尿および自然排便の基礎知識、自然排尿および自然排便の介助の実際、おむつ交換	
8) 排泄援助技術：床上排泄の援助（尿器・便器、おむつ交換）	演習・グループワーク
9) 排泄援助技術：床上排泄の援助（尿器・便器、おむつ交換）	演習・グループワーク
10) 清潔・衣生活の援助技術：清潔の援助の基礎知識 入浴・シャワー浴、全身清拭、陰部洗浄	
11) 清潔・衣生活の援助技術：全身清拭、寝衣交換	演習・グループワーク
12) 清潔・衣生活の援助技術：全身清拭、寝衣交換	演習・グループワーク
13) 清潔・衣生活の援助技術：陰部洗浄	演習・グループワーク
14) 清潔・衣生活の援助技術：陰部洗浄	演習・グループワーク
15) 清潔・衣生活の援助技術：手浴、足浴、フットケア	
16) 清潔・衣生活の援助技術：手浴、足浴、フットケア	演習・グループワーク
17) 清潔・衣生活の援助技術：手浴、足浴、フットケア	演習・グループワーク
18) 清潔・衣生活の援助技術：洗髪、整容、洗面、眼・耳・鼻の清潔	
19) 洗髪、整容、洗面、眼・耳・鼻の清潔	演習・グループワーク
20) 洗髪、整容、洗面、眼・耳・鼻の清潔	演習・グループワーク

21) 総合演習	演習・グループワーク
22) 総合演習	演習・グループワーク
23) 実技試験	実技試験
24)	
25)	
26)	
27)	
28)	
29)	
30)	

授業外学習

テキスト、参考書、教材	関連する科目
有田清子他,系統看護学講座 基礎看護技術 基礎看護学 医学書院 有田清子他,系統看護学講座 基礎看護技術 基礎看護学 医学書院 写真でわかる 実習で使える看護技術 改訂第2版 インター メディカ	基礎看護方法論 基礎看護学実習

備考

基礎看護学実習 の履修に、本科目の単位認定が必要である。

2/3以上の出席がないと、受験資格が与えられない。
事前課題やレポートなどの未提出や内容の不備は減点となる。事前課題・レポート点から減点する。
私語・遅刻、身だしなみの不備、その他態度不良は減点となり、態度から減点する。
遅刻3回で1回欠席となる。欠席は1点減点とする。全体から減点する。

科目名	基礎看護方法論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	1年	後期			
担当者名	山邊 素子、狩野 京子、橋本 茂子、福森 絢子、金子 真弓、神徳 和子	関連する資格	看護師				
授業概要 対象の身体に侵襲を伴うケアについて、安全・安楽・自立の視点をもった基本的な知識を学ぶ。また、根拠に基づいた看護を提供するために、理論的背景や先行研究を活用することが必要であることを認識し、ケアにあてはめ考えてみる。最終的には、個人の生活と健康状態との関連から、対象者のニーズに合わせた診療の補助技術を提供できるための知識を養う。							
到達目標 1. 検査・治療を受ける対象の安全・安楽・自立を考慮した看護の役割が理解できる。 2. 検査・治療を受ける対象に必要な看護技術の基本的な知識を習得する。 3. 検査・治療を受ける対象への基礎的な看護技術を原理・原則に基づいて実施できる。			成績評価方法 中間試験、期末定期試験、小テスト、授業への意欲・態度より総合的に評価します。wo				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 検査・治療における看護技術としての安全確保 安全確保の基礎知識、誤薬防止、チューブ類の予定外抜去防止 誤認防止、転倒・転落防止、薬剤・放射線曝露の防止	小テスト
2) 感染防止の技術 洗浄・消毒・滅菌、無菌操作、感染性廃棄物の取扱い、針刺し防止策	小テスト
3) 創傷管理の技術 創傷管理の基礎知識、創傷処置、褥瘡予防	小テスト
4) 感染防止の技術の実際 滅菌手袋、ガウンテクニック、消毒・洗浄、包帯法	グループワーク
5) 感染防止の技術の実際 滅菌手袋、ガウンテクニック、消毒・洗浄、包帯法	グループワーク
6) 感染防止の技術の実際 無菌操作、創傷処置	グループワーク
7) 感染防止の技術の実際 無菌操作、創傷処置	グループワーク
8) 排泄の援助技術 一時的導尿、持続的導尿、浣腸、直腸内与薬、摘便	小テスト
9) 排泄の援助技術 一時的導尿、持続的導尿の実際	グループワーク
10) 排泄の援助技術の実際 一時的導尿、持続的導尿	グループワーク
11) 排泄の援助技術の実際 浣腸、直腸内与薬、摘便	グループワーク
12) 栄養摂取の援助技術 経管栄養法、中心静脈栄養法	小テスト
13) 栄養摂取の援助技術の実際 経管栄養法、中心静脈栄養法	グループワーク
14) 栄養摂取の援助技術の実際 経管栄養法、中心静脈栄養法	グループワーク
15) 教育・指導技術：教育機能、指導技術の基本	小テスト グループワーク
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきて下さい。 各講義の終了時に小テストを実施します。 演習では、事前課題と事後レポートがあります。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 有田清子他：系統看護学講座 基礎看護技術 基礎看護学 2 医学書院 有田清子他：系統看護学講座 基礎看護技術 基礎看護学 3 医学書院</p>	<p>看護学概論、基礎看護方法論、基礎看護方法演習、基礎看護学実習、看護管理学、看護過程論等</p>

備考

科目名	基礎看護方法演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	2年	前期			
担当者名	神徳 和子、狩野 京子、山邊 素子、橋本 茂子、福森 絢子、金子 真弓	関連する資格					
授業概要 対象の身体に侵襲を伴うケアについて、安全・安楽・自立、及び科学的根拠に基づいた看護の実践の視点を持ちながら、演習を通して修得する。そのなかで特に、対象者の安全に考慮できるための診療の補助技術を提供するために、また、人間としての尊厳を考慮した関わりを深められるような倫理的な態度を養う。							
到達目標 1．診察・検査・治療における看護の役割を理解する。 2．診察・検査・治療に関連した基礎知識と看護技術を習得する。				成績評価方法 実技試験、筆記試験、事前課題、小テスト、授業参加度より総合的に評価します。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							80
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 排泄の援助技術 : 一時的導尿・持続的導尿、浣腸、排便	
2) 排泄の援助技術 : 一時的導尿演習	グループワーク
3) 排泄の援助技術 : 一時的導尿演習	グループワーク
4) 排泄の援助技術 : 持続的導尿演習	グループワーク
5) 排泄の援助技術 : 浣腸・直腸内坐薬・排便演習	グループワーク
6) 排泄の援助技術 : 総合演習（一時的導尿）	グループワーク
7) 呼吸管理の技術 : 酸素吸入療法、吸入、排痰ケア、吸引	小テスト
8) 呼吸管理の技術 : 酸素吸入療法・吸入演習	グループワーク
9) 呼吸管理の技術 : 排痰ケア、吸引演習	グループワーク
10) 症状・生体機能管理技術 : 静脈血採血演習	グループワーク
11) 症状・生体機能管理技術 : 静脈血採血演習	グループワーク
12) 与薬の技術 : 与薬の基礎知識、経口与薬、外用薬、注射の基礎知識	小テスト
13) 与薬の技術 : 注射法（皮内注射、皮下注射、筋肉内注射）	
14) 与薬の技術 : 注射法演習（皮下注射）	グループワーク
15) 与薬の技術 : 注射法演習（筋肉注射）	
16) 与薬の技術 : 注射法（静脈内注射、点滴静脈内注射、側管注射）	小テスト
17) 与薬の技術 : 注射法演習：（点滴静脈内注射）	グループワーク
18) 与薬の技術 : 注射法演習：（点滴静脈内注射）	グループワーク
19) 与薬の技術 : 注射法演習（静脈内注射）	グループワーク
20) 与薬の技術 : 注射法演習（側管注射）	グループワーク

21) 与薬の技術 : 輸血管理	小テスト
22) 与薬の技術 : 総合演習	グループワーク
23) 教育・指導の技術: 看護における教育・指導、健康状態の変化と教育・指導 個人・家族・集団への教育・指導	小テスト
24)	
25)	
26)	
27)	
28)	
29)	
30)	

授業外学習

各演習項目について、事前課題、事後レポートがある。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術 医学書院 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術 医学書院 吉田みつ子：写真でわかる実習で使える看護技術 改訂第2版 インターメディカ	看護学概論、基礎看護方法論 ・ 、基礎看護方法演習 ・ 、基礎看護学実習 ・ 、臨床看護総論、人体の構造と機能、薬理・薬剤学 他

備考

--

科目名	看護過程論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	1	2年	後期
担当者名	金子 真弓、狩野 京子、山邊 素子、橋本 茂子、福森 絢子、神徳 和子	関連する資格		

授業概要

看護を系統的に実践するための思考過程を学ぶ。その学習過程において自分自身の看護観および人間観を振り返るとともに、論理的な思考力と判断力を養う。看護過程は実習の基盤となる内容であるため、グループでの事例学習を通して問題解決思考を養うとともに、課題の遂行に必要な協調性を養う。具体的には、看護過程の要素について、看護アセスメントの視点を理解でき、情報の整理、分析、統合を行うことで、全人的にみることの重要性を理解する。さらに、看護上の問題を特定した上で、患者の個別性に応じた計画・実施・評価プロセスを理解する。

到達目標

1. 看護実践の方法としての看護過程が理解できる。
2. 理論を活用しながら看護の対象をアセスメントできる。
3. 紙上事例を用いて、看護過程展開の方法が理解できる。
4. 看護記録の概要が理解できる。

成績評価方法

学期末試験、個人ワーク、グループワーク、出席状況によって、総合的に評価します。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							5
グループワーク							5
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 看護過程とは、看護実践と看護過程、看護の本質 問題解決のプロセスと看護過程、看護過程と看護診断、看護のアセスメントの枠組み	授業内レポート
2) 看護過程の各段階 : アセスメント(情報の収集と分析) アセスメントの過程	授業外レポート 小テスト
3) 看護過程の各段階 : アセスメント(情報の収集と分析) アセスメントと全体像	授業外レポート
4) 看護過程の各段階 : 看護問題の明確化(看護診断) 看護診断の種類・看護診断の方法	授業外レポート 小テスト
5) 看護過程の各段階 : 看護問題の明確化(看護診断) 優先順位の決定	授業外レポート
6) 看護過程の各段階 : 看護計画	授業外レポート 小テスト
7) 看護過程の各段階 : 実施・評価	授業外レポート 小テスト
8) 紙上事例を用いた看護過程の展開 アセスメント	授業外レポート 小テスト グループワーク
9) 紙上事例を用いた看護過程の展開 アセスメント	授業外レポート グループワーク
10) 紙上事例を用いた看護過程の展開 看護診断(全体像、問題リスト)	授業外レポート グループワーク
11) 紙上事例を用いた看護過程の展開 発表準備	授業外レポート グループワーク
12) 紙上事例を用いた看護過程の展開 発表	授業外レポート プレゼンテーション
13) 紙上事例を用いた看護過程の展開 看護計画	授業外レポート グループワーク
14) 紙上事例を用いた看護過程の展開 実施・評価	授業外レポート グループワーク
15) 看護記録	
授業外学習	
<p>授業外レポートが毎回あります。 紙上事例について、グループワークを行い、発表に向けて準備します。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p><テキスト> 系統看護学講座専門 基礎看護技術、医学書院 NANDA-I看護診断定義と分類2015-2017、医学書院 NEW実践！看護診断を導く情報収集・アセスメント、学研 看護過程に沿った対症看護、学研</p>	<p>看護学概論、基礎看護方法論、基礎看護方法演習、 臨床看護総論、基礎看護学実習、看護理論、看護管理 学、疾病論、薬理・薬剤学等</p>

備考

課題やグループワークを通して、看護過程展開の基礎を学びます。人間・健康・環境・看護の概念、看護理論や看護技術等の看護学の知識と、疾病・治療に関する知識を統合しながら学んでいきます。

科目名	家族論・家族関係論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	1	2年	前期
担当者名	安成 智子	関連する資格	看護師	

授業概要

家族の定義、機能について学び、現代の家族の抱える問題について考察する。さらに、家族を看護の対象とすることの意義、役割を考え、家族看護の実践方法について理解を深める。

到達目標

1. 家族とは何か、家族の機能とは何かについて理解する。
2. 現代の家族が抱える問題について、その背景や要因について探求する。
3. 家族看護の理念を理解し、家族を看護の対象として捉える必要性を理解する。
4. 家族看護におけるアセスメント、援助方法を理解する。

成績評価方法

定期試験(70点)、ワークシートなど(30点)を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	○	○					70
小テスト、授業内レポート		○	○				20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度					○		10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 「家族」「家族の健康」とは何か 統計資料から見た家族	
2) 日本人と家族 世帯構造、家族の機能、民法	
3) 家族の理解 ジェノグラム、エコマップ	
4) 家族看護の理論的枠組み アセスメントモデル、家族看護過程	
5) 家族看護の理論的枠組み 家族看護研究	
6) 多様な家族の理解 事例家族の把握	DVD視聴
7) 多様な家族の理解 事例家族の把握、疾患の理解	ディスカッション ワークシート
8) 多様な家族の理解 家族像の情報収集	ディスカッション ワークシート
9) 家族看護事例の検討 看護問題の抽出と焦点化	グループワーク
10) 家族看護事例の検討 看護過程の検討	グループワーク
11) 家族看護事例の検討 看護過程の展開と課題抽出	グループワーク
12) 家族看護事例の検討 事例発表(4事例)	グループワーク
13) 家族看護事例の検討 事例発表(4事例)	グループワーク
14) 家族看護における看護者の役割と援助姿勢	
15) まとめ	
授業外学習	
提示された課題について、疾患の理解を含めた自己学習をすること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学 理論と実践 第4版、日本看護協会出版会、2012	成人看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、老年看護学

備考

積極的にグループワークに参加し、メンバーを意見交換をすること。

科目名	臨床看護総論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	2年	前期			
担当者名	狩野 京子、山邊 素子、神徳 和子	関連する資格	看護師				
授業概要 臨床看護における対象や場の特徴を理解し、健康障害の経過別看護、主要な症状別看護、治療別看護について理解する。そのために、人体の構造と機能、基本看護実践で活用できる理論を理解した上で、看護師としての心得、看護の役割について、習得する。また、基礎看護で学んだ人間とは何かという基本を理解した上で、医療・看護を必要としている患者とその家族について理解する。最終的に、臨床を人間(看護師)と人間(患者)の出会いの場として位置づけ、1人の看護師として、真に患者と向き合うことについて熟考することができる。							
到達目標 1.臨床看護の場や看護の対象となる人々の特徴を説明することができる。 2.健康障害のレベルと経過に応じた看護について説明することができる。 3.主要な症状と看護について説明することができる。 4.主要な治療と看護について説明することができる。 5.臨床看護に臨む上での心得、看護の役割について説明することができる。 6.臨床看護に臨む上で、真に患者と向き合うことの意味について説明することができる。			成績評価方法 期末定期試験60%、小テスト20%、授業外レポート10%、授業への意欲・態度、グループ学習への参加度10%(毎回授業の振り返りを出席カードに記述し提出することで評価する)				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 臨床看護総論ガイダンス、よい看護をするために、臨床看護に臨む姿勢、臨床看護における看護師の役割、看護実践における看護技術の適用	授業外レポート課題
2) 臨床看護における対象者の理解、患者とは、家族とは、医療者とは 臨床看護の場	授業外レポート課題
3) 健康障害の経過からみた看護：急性期、危機について	小テスト
4) 健康障害の経過からみた看護：回復期、慢性期、リハビリテーション期、セルフケアについて	小テスト
5) 健康障害の経過からみた看護：終末期、死の受容について	小テスト
6) 生命維持/日常生活に影響を及ぼす障害と看護：呼吸・循環の障害 呼吸困難がある患者の看護 浮腫のある患者の看護	小テスト
7) 生命維持/日常生活に影響を及ぼす障害と看護：栄養・排泄の障害 貧血傾向のある患者への看護 便秘のある患者への看護	小テスト
8) 生命維持/日常生活に影響を及ぼす障害と看護：運動機能障害・意識障害 片麻痺のある患者への看護	小テスト
9) 生命維持/日常生活に影響を及ぼす障害と看護：精神障害 治療方法とそれを受ける患者の看護：精神療法を受けている患者の看護	小テスト
10) 生命維持/日常生活に影響を及ぼす障害と看護：痛みのある患者の看護	小テスト
11) 治療方法とそれを受ける患者の看護：安静療法と看護、食事療法と看護、薬物療法と看護	小テスト
12) 治療方法とそれを受ける患者の看護：手術療法と看護、集中治療と看護、救急治療と看護、臓器移植を必要とする患者の看護 易感染状態にある患者の看護	小テスト
13) 治療方法とそれを受ける患者の看護：化学療法と看護、放射線療法と看護 医療機器使用の実際：医療機器を安全に使用するために	小テスト
14) 事例による看護実践の展開：弁膜症で入院後、脳梗塞を発症した患者の看護	グループワーク、プレゼンテーション
15) 事例による看護実践の展開：弁膜症で入院後、脳梗塞を発症した患者の看護	グループワーク、プレゼンテーション
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきてください(1時間程度の予習時間)。 授業開始時、毎回小テスト(前回講義内容)があります。講義資料、テキストを復習して下さい(1時間程度の復習時間)。 授業終了後、毎回出席カードに自由記載欄を設けてありますので講義について理解したことや考えた事、質問などを記述して下さい。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
宮脇美保子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学 臨床看護総論、メヂカルフレンド社 2017 宮脇美保子編集：新体系 看護学全書<別巻> 看護技術の患者への適用、メヂカルフレンド社 2017	基礎看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、母性看護学、在宅看護学、精神看護学、他

備考

時間外レポートは、提出後コメントを付けて返却します。
小テストは採点后、返却します。
本科目の修得により、臨地実習に必要な知識の土台を習得することが出来ます。

科目名	医療安全管理学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	2年	前期			
担当者名	坂井 浩美、尾家 重治、伊藤 美穂、井上 由美子		関連する資格				
授業概要 医療安全(リスクマネジメント)および感染制御(インフェクションコントロール)は、医療関連施設での最重要事項であり、チーム医療が必須である。 本講座では、多職種からの講義により、医療安全および感染制御に対する基本的知識・技術を学習する。							
到達目標 1. 医療安全の原理・原則を理解する。 2. インシデントレポートの重要性を理解する。 3. 医療事故事例の分析の演習を通して、事故の背景要因や対策を検討することができる。				成績評価方法 1. 定期試験 2. グループワーク・演習 3. 授業中の態度やグループワークの参加態度			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							65
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							17
プレゼンテーション							
グループワーク							9
演習							9
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 医療安全を学ぶことの大切さと事故防止の考え方	
2) 医療事故とヒヤリ・ハット	
3) 医療安全対策の国内の制度と国外の潮流	
4) 組織的な安全管理体制への取り組み	
5) 診療の補助の事故防止(1) 薬剤、輸血、経管栄養注入	
6) 診療の補助の事故防止(2) チューブ管理、医療機器の取り扱い	
7) 療養上の世話の事故防止(1) 転倒・転落、誤嚥、誤飲、入浴	
8) 患者間違い/間違いを誘発する要因	
9) KYT(危険予知トレーニング)	グループワーク
10) 医療安全とコミュニケーション	
11) 看護師の労働安全衛生上の事故防止 職業感染 抗がん剤の曝露	
12) 医療関連感染とその予防法	
13) 医療安全上、注意が必要な医薬品	
14) 医療事故分析の方法(RCA 業務工程図)	
15) インシデント事例を用いたRCA演習	演習
授業外学習	
予習として、教科書に該当する箇所を読んできて下さい。(30分) 講義後にノートと合わせて、教科書を読んで復習をしてください。(60分) 第1回目は教材の序章と第1章を読んできて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座 統合分野、看護の統合と実践[2]、医療安全、川村治子 著 医学書院	看護学概論、人間関係論、微生物学、コミュニケーション論

備考

科目名	基礎看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	1	1年	後期
担当者名	福森 絢子、狩野 京子、山邊 素子、橋本 茂子、金子 真弓、神徳 和子	関連する資格	看護師	

授業概要

患者の生活や治療の場である病院とその機能を理解するとともに、対象の日常生活の理解を深め、看護の機能と役割について学ぶ。また、対象者とコミュニケーションを図る能力を養うとともに、看護師としての基礎的能力を養う。

到達目標

1. 対象者の療養生活の場を理解する。
2. 看護がどのように実践されているか関心をもつことができる。
3. 科学的根拠に基づいた看護の実際を学ぶ。
4. 今後の方向性を描くことができる。

成績評価方法

実習目標到達度、レポート、実習態度などについて、基礎看護学実習 評価表を用い総合的に評価する。
 実習目標到達度（70%）、レポート（15%）、実習態度（15%）とし、60点以上を合格とする

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	15						15
授業態度・授業参加度	15						15
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	70						70

授業計画と概要		アクティブラーニング
<p>1. 看護実践の場である病院・病棟・病室の概要が理解できる。</p> <p>2. 臨床の場における看護師の業務や役割について理解できる。</p> <p>3. 入院患者の療養生活について理解できる。</p> <p>4. 対象者と円滑なコミュニケーションがとれる。</p> <p>5. 安全・安楽・自立を考慮した日常生活援助について知る。</p> <p>6. 看護師に必要な態度やマナーを身につけることができる。</p> <p>7. 実習体験を通して、看護学生としての自分自身を振り返ることができる。</p> <p>(学内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習前に基礎看護学実習 ガイドブック、看護学臨地実習ガイドブック(各領域共通)、看護学臨地実習の心得(各領域共通)に沿ってオリエンテーションを実施する。 ・施設別オリエンテーションを実施する。 ・実習最終日には、実習のまとめと個人面談を行う。 <p>(臨地)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地オリエンテーション：病院・看護部の理念、病院の特色・概要、病院の構造等 ・病棟実習：病棟オリエンテーション 看護活動の見学(一部実施) コミュニケーション 反省会 		<p>実習、演習、グループワーク</p>
授業外学習		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
<p>基礎看護学実習 ガイドブック</p> <p>看護学臨地実習ガイドブック(各領域共通)</p> <p>看護学臨地実習の心得(各領域共通)</p> <p>基礎看護技術項目の履修領域と到達度</p>		<p>基礎看護方法論</p> <p>基礎看護方法演習</p>

備考

科目名	基礎看護学実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	2	2年	後期			
担当者名	金子 真弓、狩野 京子、山邊 素子、橋本 茂子、福森 絢子、神徳 和子、看護学科教員		関連する資格				
授業概要 対象者を理解し、その人の生活過程を整える看護実践を通して、看護について考える。							
到達目標 1. コミュニケーション技術を通して、対象者との人間関係を築くことができる。 2. 看護過程を展開し、対象者の生活過程を整えるための看護の実践方法を理解できる。 3. 看護実践を通して自己をみつめ、看護観を深めることができる。			成績評価方法 実習目標の達成状況、レポート、実習態度を総合して評価します。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							90

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>1. コミュニケーション技術を通して、対象者との人間関係を築く。</p> <p>2. 看護過程を展開し、対象者の生活過程を整えるための看護の実践方法を理解する。</p> <p>3. 看護実践を通して自己をみつめ、看護観を深める。</p>	
授業外学習	
<p>実習前の事前課題があります。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>基礎看護学実習 ガイドブック</p>	<p>看護学概論、基礎看護学方法論、基礎看護方法論演習、看護理論、臨床看護総論、看護過程論</p>

備考

科目名	成人看護学総論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	前期
担当者名	原田 博子、伊藤 美穂	関連する資格		

授業概要

臨床看護の実践に必要な理論を概観し、成人期（青年期・壮年期・向老期）の特徴、ライフスタイルと健康問題、成人保健の歴史と動向、成人期にみられる主要な健康障害とその要因、健康レベル（健康づくり、慢性期・急性期のケア、障害・難病を持つ人への支援、終末期にある人への支援）に応じた看護活動の特徴など成人看護学の総論を学ぶ。

到達目標

1. 成人の特徴について説明する。
2. 成人の健康レベルに対応した看護について説明する。
3. 成人の健康生活を促すための看護技術について説明する。

成績評価方法

- ・ 定期試験、レポート、授業態度を評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							15
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 成人と生活、発達段階の特徴 1章	教科書内の指示された内容について話し合い
2) 成人の生活からとらえる健康 2章 A	作成した要約レポートを踏まえて話し合い
3) 保健・医療・福祉システムの概要 2章 B	作成した要約レポートを踏まえて話し合い
4) 成人への看護アプローチの基本 3,4章	作成した要約レポートを踏まえて話し合い
5) 健康をおびやかす要因と看護 5章	作成した要約レポートを踏まえて話し合い
6) 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 6章 危機理論資料	作成した要約レポートを踏まえて話し合いをする
7) 人生の最後のときを支える看護 9章 検査データの読み方レポート	作成した要約レポートを踏まえて話し合いをする
8) 健康生活の慢性的なゆらぎの再調整を促す看護 病みの軌跡 7章	作成した要約レポートを踏まえて話し合いをする
9) 健康生活の慢性的なゆらぎの再調整を促す看護 セルフマネジメント、エンパワメント 7章	作成した要約レポートを踏まえて話し合いをする
10) 学習者である患者への看護技術 コンプライアンス、自己効力 10章	作成した要約レポートを踏まえて話し合いをする
11) 障害がある人の生活とリハビリテーション 8章	作成した要約レポートを踏まえて話し合いをする
12) 治療過程にある患者への看護技術 11章 ボディイメージ、ストレスコーピング、 意思決定理論	教科書内の事例のグループワーク
13) 症状マネジメントにおける看護技術 12章	作成した要約レポートを踏まえて話し合いをする
14) 退院支援の看護技術、がんとの共生を促す看護技術 13.14章	作成した要約レポートを踏まえて話し合いをする
15) 新たな治療法、先端医療と看護 15章	作成した要約レポートを踏まえて話し合いをする

授業外学習

本科目は、成人看護学実習における看護過程の展開のための理論と関連付けて学習してもらいます。そのため、教科書の予習では、次回学習する内容を読んで要約を提出してもらいます。事前学習には60分を要します。さらに、毎回の授業で配布した資料には自宅で目を通して次回の授業に参加してください。そのための事後学習時間は45分要します。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【テキスト】小松浩子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論、医学書院</p> <p>【参考書】シャーリー・ドゥブレイ、若林一美訳：近代ホスピスの創始者シシリーソングラス、日本看護協会出版会</p> <p>黒田裕子：看護診断のためのよくわかる中範囲理論</p>	<p>看護学概論、成人看護学、成人看護学、成人看護学、リハビリテーション看護論、成人看護学実習</p>

備考

提出したレポートは教員がコメントを入れて返却します。

科目名	成人看護学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	2年	後期			
担当者名	原田 博子、坂井 浩美、伊藤 美穂 、井上 由美子、桐明 祐弥		関連する資格				
授業概要 成人期にある対象の健康状態を診るためには、身体機能の正常・異常を診るための知識と技術が必要である。各機関を系統的に構造と機能を十分に理解したうえで、患者に生じた健康上の障害や症状などを疾患と関連付けられる知識を習得する。そのためには、患者の主訴や現病歴・既往歴を問診する技術を学び、視診・触診・打診・聴診の方法から患者の健康上の問題を情報収集する。さらに、専門職として得られた情報から患者への援助を学ぶ。							
到達目標 フィジカルアセスメントの概念を理解できる 健康上の機能の正常・異常を判断できる 健康上の問題を系統的に情報収集し、アセスメントし看護問題を明確にできる			成績評価方法 定期テスト、レポート、授業態度を総合的に評価する				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							10
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 看護業務における観察の重要性 ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント	
2) フィジカルアセスメントのために必要な観察問診・視診・触診・打診・聴診	授業内で演習 聴診器の使用方法を復習
3) 呼吸器系のフィジカルアセスメント 息が苦しい 関連図の記載方法	課題提出あり授業内で演習
4) 呼吸器の症状がある患者への看護	課題レポート用の資料配布授業内で演習
5) 循環器系のフィジカルアセスメント	授業内で演習
6) 循環器の症状がある患者への看護 動悸 浮腫	課題提出有り授業内で演習
7) 消化器系のフィジカルアセスメント	授業内で演習
8) 消化器系の症状がある患者への看護 嘔吐・便秘・嚥下障害	課題提出有り授業内で演習
9) 感覚系のフィジカルアセスメント	授業内で演習
10) 運動系のフィジカルアセスメント	授業内で演習
11) 脳神経系のフィジカルアセスメント ドメイン関連図の作成方法	課題レポートの提出授業内で演習
12) 演習 全身状態の正確な観察法・聴診器の使用法 1限演習室ユニフォーム	演習・配布資料・教科書・聴診器使用 演習レポートの作成
13) 演習 全身状態の正確な観察法・聴診器の使用法 1限演習室ユニフォーム 2限	演習・配布資料・教科書・聴診器使用
14) 演習 異常音の観察 心音・呼吸音・腸蠕動音 日常生活行動と関節可動域の確認 1限演習室ユニフォーム	演習・配布資料・教科書・聴診器使用
15) 演習 異常音の観察 心音・呼吸音・腸蠕動音 日常生活行動と関節可動域の確認 2限	演習・配布資料・教科書・聴診器使用 2回分の演習レポートを提出
16)	
17)	
18)	
19)	
20)	

21)	
22)	
23)	
24)	
25)	
26)	
27)	
28)	
29)	
30)	

授業外学習

第2回より、次回の授業で学ぶ章を説明するので、前もって読んで理解してくる。なお、読んだかどうかは授業中に確認し、評価の一部とする。事前学習45分 事後学習60分

テキスト、参考書、教材	関連する科目
フィジカルアセスメントガイドブック第2版 医学書院 看護技術の患者への適用 メヂカルフレンド社	3年前期に履修する成人看護学 リハビリテーション論、成人看護学実習 および他の領域の実習にも関連する 2年生の基礎看護学実習、老年看護学実習 に学習内容が関連する。

備考

提出されたレポートは教員のほうでコメント・評価して返却します。

--

科目名	成人看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	3年	前期
担当者名	坂井 浩美、原田 博子、伊藤 美穂、井上 由美子	関連する資格		

授業概要

成人期の慢性疾患に看護を学ぶ。慢性疾患の特徴と治療の特徴を踏まえた看護実践方法、疾患に伴う検査の目的と検査時の看護の重要性と視点について学ぶ。疾患によっては障害、自己コントロールが必要なものもあり、家族のサポートが不可欠なこともある。患者・家族への支援と個別性を踏まえた患者理解の必要性を学ぶ。

到達目標

- 1.慢性疾患を有する人と家族の特徴を説明できる。
- 2.慢性疾患を有する人と家族に対する看護の役割を説明できる。
- 3.慢性疾患を有する人のセルフマネジメントを能力を高める援助方法を述べることができる。
- 4.慢性疾患を有する人に対する検査・治療の看護実践を説明できる。

成績評価方法

- ・定期試験及びレポートなどの提出物すべてを評価の対象とする。
- ・授業態度、演習の参加態度も評価に含める。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							60	
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							20	
授業態度・授業参加度							15	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習							5	
実習								

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 慢性期看護とは/慢性期を有する人とその家族の理解 慢性期を有する人とその家族への援助・支援の基本	課題レポート
2) 消化器系の障害を有する人とその家族の援助	課題レポート
3) 消化器系の障害を有する人とその家族の援助 感覚器系の障害を有する人とその家族の援助	
4) 循環器系の障害を有する人とその家族の援助	課題レポート
5) 呼吸器系の障害を有する人とその家族の援助	課題レポート
6) 呼吸器系の障害を有する人とその家族の援助 代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族の援助	
7) 1限目中間テスト 代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族の援助	課題レポート
8) 腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族の援助	課題レポート
9) 腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族の援助 生殖器に関する障害を有する人とその家族の援助	課題レポート
10) 化学療法・放射線療法を受ける患者の看護 脳・神経系の障害を有する人とその家族の援助	
11) 脳・神経系の障害を有する人とその家族の援助 血液・免疫系の障害を有する人とその家族の援助	課題レポート
12) 血液・免疫系の障害を有する人とその家族の援助 創傷処置と看護・ストマケア	
13) アレルギー・感染症を有する人とその家族の援助 膠原病を有する人とその家族の援助	
14) 死の看取りの看護 エンゼルケア 症例検討	課題レポート
15) 症例検討	
16)	
17)	
18)	
19)	
20)	

21)	
22)	
23)	
24)	
25)	
26)	
27)	
28)	
29)	
30)	

授業外学習

予習として、教科書の該当する箇所を読んでください。(30分)
 臨地実習や学習につなげるために、授業後課題レポートを提出してください。(60分)
 課題レポートについては、コメントを記入し、前期授業終了までに返却します。後期臨地実習に活用できるように整理してください。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
成人看護学 慢性期看護 南江堂 参考：医学書院 系統的看護学講座 成人看護学 [2]～[9][11][12]～[14] 参考：医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術	人体の構造と機能、疾病論 ・ 、 栄養学、薬理・薬剤学、病理学、 成人看護学総論、成人看護学 ・ 、 リハビリテーション看護学

備考

--

科目名	成人看護学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	3年	前期			
担当者名	井上 由美子、山勢 博彰、原田 博子、坂井 浩美、伊藤 美穂、桐明 博祐	関連する資格					
授業概要 成人期の急性疾患及び周手術期の特徴と看護、検査を記述する。急性期の健康レベルに合わせた看護を学ぶ。急激に身体侵襲を受けた患者の身体的、心理的な影響を理解し、患者や家族への看護を理解する。							
到達目標 1．成人期の急性疾患、周手術期の特徴を記述できる。 2．それぞれの疾患の検査・治療を記述できる。 3．疾患に伴った看護を説明できる。 4．救急医療における初期対応が記述できる。 5．演習を通して、成人看護学で必要な看護技術を習得できる。				成績評価方法 ・定期テスト、レポート、ミニテストなどの提出物すべてを評価の対象とする。 ・授業態度、演習、グループワークの参加態度も評価に含める。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							5
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 急性期にある患者と家族の特徴と看護 生体侵襲	課題レポート
2) 周手術期術前・手術直後の看護	課題レポート
3) 呼吸器疾患患者の看護	課題レポート
4) 感覚器・内分泌疾患の看護	
5) 循環器疾患の看護	課題レポート
6) 輸液ポンプ・シリンジポンプ	演習
7) 運動器疾患の看護 2限目中間テスト	課題レポート
8) 消化器疾患の看護	課題レポート
9) 女性生殖器・泌尿器疾患の看護	
10) 脳・神経疾患の看護	課題レポート
11) 周手術期術中の看護、集中治療	課題レポート
12) 救急看護の概念、救急看護の対象の理解	課題レポート
13) 救急看護体制と看護の展開、救急患者の観察とアセスメント	
14) 救急時の看護技術、心肺蘇生法など	演習
15) 事例検討	演習
授業外学習	
<p>予習として、教科書の該当する箇所を読んでください。(30分) 臨地実習や学習につなげるために、授業後課題レポートを提出してください。(60分) 課題レポートについては、コメントを記入し、前期授業終了までに返却します。後期臨地実習に活用できるように整理してください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
医学書院：系統看護学講座「臨床外科看護総論」「臨床外科看護各論」「救急看護学」「呼吸器」「循環器」「消化器」「内分泌・代謝」「脳・神経」「腎・泌尿器」「女性生殖器」「運動器」「眼」「耳鼻咽喉頭」	人体の構造と機能、疾病論、成人看護学総論、成人看護学、栄養学、薬理・薬剤学、病理学、リハビリテーション看護学

備考

科目名	リハビリテーション看護論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	1	3年	前期			
担当者名	伊藤 美穂、坂井 浩美、井上 由美 子		関連する資格				
授業概要 リハビリテーションを必要としているのは疾病や外傷、加齢などにより、身体の構造や生理的機能・生活機能に障害を持っている人たちである。そうした疾病や傷害をかかえていても生活行動拡大・社会参加を行い、生き生きと生活を送ることを目指すのがリハビリテーションである。発症当初から将来を見通した医療において、医師を中心とするリハビリテーションチームの中で看護職の果たす役割を学習する。							
到達目標 1．リハビリテーションの理念を述べるができる。 2．機能回復について何が必要であるかを学ぶことで、健康障害を持つ人のADLやQOLの向上について述べるができる。 3．リハビリテーションチームにおける看護職の果たす役割や多職種連携について説明できる。 4．代表的な機能障害の特徴的な課題とそれに対する援助方法を説明できる。				成績評価方法 ・定期試験、課題レポート、授業態度を総合的に評価する。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○					60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○		○		30
授業態度・授業参加度			○		○		5
プレゼンテーション							
グループワーク		○	○		○		5
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1)	リハビリテーション概論 リハビリテーション看護概念	課題レポート
2)	運動器系の障害とリハビリテーション看護（関節リウマチ）	
3)	運動器系の障害とリハビリテーション看護（骨折）	課題レポート
4)	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護（パーキンソン・脊椎損傷）	
5)	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護（脳血管障害）	課題レポート
6)	呼吸器系の障害とリハビリテーション看護（慢性閉塞性呼吸不全）	課題レポート
7)	循環器系の障害とリハビリテーション看護（虚血性心疾患）	課題レポート
8)	グループワーク パンフレット作成・グループごと発表	グループワーク
9)		
10)		
11)		
12)		
13)		
14)		
15)		
授業外学習		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習として、教科書の該当する箇所を読んでください。（30分） ・ 臨地実習や学習につなげるために、授業後課題レポートを提出してください。（60分） ・ 課題レポートについては、コメントを記入し、前期授業終了までに返却します。後期臨地実習に活用できるように整理してください。 		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキスト・医学書院 別巻リハビリテーション看護 参考図書・医学書院 専門分野 運動器 ・医学書院 専門分野 脳・神経 ・医学書院 専門分野 呼吸器 ・医学書院 専門分野 循環器		人体の構造と機能、疾病論 ・ 保健医療福祉行政論 成人看護学 ・ ・ 老年看護学 ・

備考

科目名	小児看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	後期
担当者名	川崎 幹子、山崎 啓子	関連する資格		

授業概要

子どもの成長発達と子どもと家族の生活について講義、ビデオ、実際の体験を通して学ぶ。また、子どもに関する統計、法律や政策、現在の子どもと家族が抱える問題を知り、その中での小児看護の役割を考える。

到達目標

- 1) 子どもの成長発達を理解する。
- 2) 子どもの成長発達に応じた生活と家族を理解する。
- 3) 子どもに関する統計および現在の子どもと家族の抱える問題と、子どもの健康、擁護に関する法律・政策との関連を考える。
- 4) これらの学習を通して小児看護の役割を考察する。

成績評価方法

成績評価方法
定期試験だけでなく、小テスト、課題、授業への関心、意欲、態度など総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 小児看護の特徴と理念	
2) 子どもの成長・発達	成長・発達の評価の実施 課題提示
3) 子どもの栄養	グループでの知識の確認
4) 新生児・乳児	小テスト
5) 幼児・学童	小テスト
6) 思春期・青年期の小児	小テスト
7) 家族の特徴とアセスメント	グループ討議
8) 小児と家族を取り巻く社会	小テスト
9) 病気・障害を持つ小児と家族の看護	
10) 小児の状況（環境）に特徴づけられる看護	
11) 小児における疾病の経過と看護	
12) 小児のアセスメント	
13) 症状を示す小児の看護	
14) 検査・処置を受ける小児の看護	
15) 障害のある小児と家族の看護、子どもの虐待と看護	
授業外学習	
事前学習、事前課題、事前に提示した事例を行い授業に臨むこと。 復習し、既習の内容の理解を深めること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
奈良間美保，他：小児看護学（1） 医学書院	小児看護学、小児看護学実習

備考

科目名	小児看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	3年	前期
担当者名	山崎 啓子、川崎 幹子、砂川 新平	関連する資格	養護教諭一種免許	

授業概要

成長発達途上にある小児特有の疾患を理解し、必要な看護を学ぶ。疾病や障害を持つ小児や家族を理解し、必要な看護援助を考える。また、小児看護に必要な看護技術を学び演習を通して身につける。

到達目標

1. 小児特有の疾患を理解し必要な看護がわかる。
2. 疾病や傷害が小児や家族に及ぼす影響を理解する。
3. 治療や検査を受ける小児に対して、発達段階に応じた説明や援助方法を学ぶ。
4. 小児の健康状態のアセスメント方法を知り、演習を通して身につける。
5. 疾病や障害を持つ小児と家族の看護過程の展開ができる。

成績評価方法

評価内容

1. 定期試験
 2. 小テストや提出物
 3. 授業・グループワーク・演習などを通じた授業への関心・意欲・態度など
- 上記の内容を総合して評価を行う。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							5
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 染色体異常・体内環境により発症する先天異常の看護 小児の呼吸器疾患の看護(山崎啓子)	小テスト
2) 染色体異常・体内環境により発症する先天異常 新生児疾患(砂川新平：小児科医師)	
3) 小児の呼吸器疾患 小児の免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患 予防接種(砂川新平：小児科医師)	
4) 新生児の看護(山崎啓子、外部講師：認定看護師)	小テスト
5) 小児の感染症と看護(山崎啓子)	小テスト
6) 小児の免疫疾患の看護 小児のアレルギー性疾患の看護 小児のリウマチ性疾患の看護(山崎啓子)	小テスト
7) 小児の内分泌疾患 小児の消化器疾患(砂川新平：小児科医師)	
8) 小児の代謝疾患の看護 小児の内分泌疾患の看護(山崎啓子)	小テスト
9) 小児の消化器疾患の看護(山崎啓子)	
10) 小児の循環器疾患 小児に多い事故と外傷(砂川新平：小児科医師)	
11) 小児の循環器疾患の看護(山崎啓子)	小テスト
12) 小児の神経疾患(外部講師：小児科医師)	
13) 小児の神経疾患の看護(山崎啓子)	小テスト
14) 小児の腎・泌尿器および生殖器疾患(外部講師：小児科医師)	
15) 小児の腎・泌尿器疾患の看護 小児の生殖器疾患の看護(山崎啓子)	小テスト
16) 小児の血液・造血器疾患(外部講師：小児科医師)	
17) 小児の悪性新生物(外部講師：小児科医師)	
18) 小児の血液疾患の看護 小児の悪性新生物の看護(山崎啓子)	小テスト
19) 小児の運動器疾患(外部講師：小児科医師)	
20) 小児の運動器疾患の看護 小児の皮膚疾患の看護(山崎啓子)	小テスト

21)	小児における事故と外傷の看護 小児救急(救急処置を含む)看護について(山崎啓子、外部講師：認定看護師)	小テスト・演習
22)	小児外科看護 急性期の看護について(山崎啓子)	小テスト
23)	小児外科看護 術前・術中・術直後の看護について(川崎幹子・山崎啓子)	グループワーク・演習
24)	小児の眼科疾患の看護 小児の耳鼻咽喉疾患の看護(山崎啓子)	小テスト
25)	小児の精神疾患の看護(川崎幹子)	小テスト
26)	小児における看護展開について(山崎啓子)	
27)	慢性疾患(ネフローゼ症候群)の事例検討 (川崎幹子・山崎啓子)	事例から看護問題を立案、実施する 看護を検討する(グループワーク・演習)
28)	慢性疾患(ネフローゼ症候群)の事例検討 (川崎幹子・山崎啓子)	立案した看護を実践し、評価する(演習・発表)
29)	急性疾患(肺炎)の事例検討 (川崎幹子・山崎啓子)	事例から看護問題を立案、実施する 看護を検討する(グループワーク・演習)
30)	急性疾患(肺炎)の事例検討 (川崎幹子・山崎啓子)	立案した看護を実践し、評価する(演習・発表)

授業外学習

事前学習として、授業内容部分の教科書は必ず読み、重要な部分には下線を引いてくること。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
1. 医学書院 小児臨床看護各論 2. 医学書院 小児看護学概論・小児臨床看護学総論 3. 医学書院 臨床外科看護総論 4. 医学書院 臨床外科看護各論 5. 学研 看護診断を導く情報収集・アセスメント	小児看護学 小児看護学 小児看護学実習

備考

--

科目名	母性看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	後期
担当者名	安成 智子、古場 真理	関連する資格	看護師	

授業概要

母性意識の意義と発達、母子関係の成り立ちを理解し、母性を対象とした援助に必要な知識の基礎を学ぶ。
また、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から女性の生涯を通じての健康を考え、性と健康についての理解を深める。

到達目標

- 1) 女性および母子の心身における健康について、性と生殖を通して理解できる。
- 2) 女性および母子の健康増進に関与する社会の在り方が理解できる。
- 3) 女性のライフサイクル各期の特徴的な健康問題が理解できる。

成績評価方法

小テストを含む授業中の課題(25点)・宿題・授業外レポート(5点)・筆記試験(70点)により総合的に評価する。
再試験は行うが、再試験の評価が60点未満の場合、追加レポートは課さない。また、筆記試験の素点が60点未満の学生には、科目評価が60点以上であっても課題を課す。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	○	○					70
小テスト、授業内レポート	○	○		○			25
宿題、授業外レポート		○	○	○			5
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 母性看護の概念の理解 母性の定義、愛着、母子相互作用		授業内レポート
2) 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 歴史、母子保健統計、法律、母性保護を取り巻く環境		
3) 女性のライフサイクルにおける健康課題・問題 家族の発達段階と家族看護、母性の発達・成熟・継承		小テスト
4) 母性看護に必要な看護技術 看護過程、情報収集・アセスメント技術		授業外レポート
5) 母性看護に必要な看護技術 ヘルスポモーション、倫理、事故予防、女性の意思決定、家族適応、 周産期の死		
6) セクシュアリティ リプロダクティブヘルスケア 家族計画、性感染症、HIV、人工妊娠中絶		
7) リプロダクティブヘルスケア 喫煙、性暴力、児童虐待、国際化社会と看護		
8) 母性看護における対象理解 生殖器の形態・機能、妊娠と胎児の性分化 思春期の身体的特徴、月経異常		
9) 女性のライフステージにおける健康課題・問題 成熟期・更年期・老年期の身体的特徴、子宮筋腫・子宮内膜症、 生殖器悪性腫瘍、うつ、女性生殖器疾患、精神疾患		
10) 女性のライフステージ各期における看護 思春期、成熟期、更年期、老年期		小テスト
11) 遺伝相談・不妊治療 正常妊娠：妊娠の生理・胎児の発育と生理・母体の生理的变化・妊婦と胎児のアセ スメント		
12) 出生前からのリプロダクティブヘルスケア 出生前診断を受ける人の看護・不妊症の人の看護		小テスト
13) 妊娠期の心理・社会的変化		
14) 妊婦健康診査とマイナートラブル		
15) 妊娠期の看護		
授業外学習		
社会における女性・母子・家族を取り巻く問題に普段から関心を持ち、ニュースにも目を通しておくことが望ましい。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学 1 、医学書院		人体の構造と機能 看護過程論 母性看護学 母性看護学実習

備考

- ・ 講義順を変更することがあります。
- ・ 座席は原則として学籍番号順としますが、板書が見えない学生は前列に移動して構いません。

【ディプロマポリシーとの関連性】

到達目標を達成することにより、「人への関心と学問の理解」「柔軟な思考と表現力」「知識の応用力と判断力」の構成要素を身につけることにつながります。

科目名	母性看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	3年	前期
担当者名	古場 真理、安成 智子	関連する資格		

授業概要

母性看護学 をもとに、母性看護の対象となる人々の健康状態を系統的にアセスメントし、科学的な根拠に基づいて援助する方法を学ぶ。
特に、母性としての営みの顕著な妊娠・分娩・産褥期にある母親および胎児・新生児について理解し、母性機能の健全な発達や母子の成長・発達を促す看護について、事例の展開や技術演習などを通して学ぶ。

到達目標

1. 妊娠・分娩・産褥期の母親および胎児・新生児に生じる変化が理解できる。
2. 対象者のヘルスアセスメントに必要な知識と技術および、母子の成長・発達を促す援助技術が修得できる。
3. 周産期のウェルネス型看護過程を理解し、事例を用いた展開ができる。
4. 周産期に予測される正常からの逸脱と、その際の看護援助が理解できる。

成績評価方法

定期試験、小テスト、課題を総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)		○					70
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート	○	○	○				15
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 妊娠期の看護（妊婦の保健相談の実際）	
2) 異常妊娠	
3) ハイリスク妊婦の看護	小テスト、事前課題
4) 妊娠期の観察・援助（演習：問診、レオポルド触診法、胎児心音の聴取）	ワークシート
5) 妊娠期の観察・援助（演習：妊婦・胎児のアセスメント）	ワークシート
6) 正常分娩	
7) 異常分娩	
8) 分娩期の心理・社会的変化と産婦の健康管理	
9) 分娩期の看護	
10) 異常分娩時と異常のある産婦の看護	小テスト、事前課題
11) 親になるための準備教育、分娩期の観察・援助（演習：分娩体験、産痛緩和ケア）	ワークシート
12) 分娩期の観察・援助（演習：分娩期の看護）	ワークシート
13) 正常新生児	
14) 新生児期の看護（新生児の生活のアセスメント、出生直後の看護）	
15) 新生児期の看護（出生後から退院時までの看護、生後1か月健康診査に向けた退院時の看護）	
16) 新生児期の異常と看護	小テスト、事前課題
17) 新生児の観察・援助（演習：新生児の観察・計測）	ワークシート
18) 新生児の観察・援助（演習：身体の清潔・栄養など）	ワークシート、事前課題
19) 看護過程の展開（妊娠期・分娩期のアセスメント、看護診断）	課題、グループワーク
20) 看護過程の展開（妊娠期・分娩期の看護目標、看護計画）	課題、グループワーク

21) 正常産褥と異常産褥	
22) 産褥期の心理・社会的変化	
23) 褥婦の健康管理	
24) 産褥期の看護（褥婦と家族の看護）	
25) 産褥期の看護（施設退院後の看護）	
26) 産褥期の異常と看護	小テスト、事前課題
27) 産褥期の観察・援助（演習：子宮底の触診、悪露の観察など）	ワークシート
28) 産褥期の観察・援助（演習：乳房の観察、授乳の観察など）	ワークシート、事前課題
29) 看護過程の展開（産褥期・新生児期のアセスメント、看護診断）	課題、グループワーク
30) 看護過程の展開（産褥期・新生児期の看護目標、看護計画）	課題、グループワーク

授業外学習

- 1．授業計画に記載されているテキストの該当単元の予習をして下さい。
- 2．小テストは講義済みの内容から出題するため、復習を欠かさず行って下さい。
- 3．60時間の講義・演習に対して、30時間の時間外学修を行って下さい。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
森恵美：系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2, 医学書院	人体の構造と機能、看護過程論、家族論・家族関係論、小児看護学、母性看護学、母性看護学実習

備考

人間健康学部ディプロマ・ポリシーとの関連性
到達目標を達成することにより、「人への関心と学問の理解」、「柔軟な思考と表現力」、「知識の応用力と判断力」の要素を身につけることにつながります。

科目名	老年看護学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	2年	後期			
担当者名	森 初美、光貞 美香、矢田 フミエ、松本 涼太		関連する資格				
授業概要 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴及び症状、疾患等による生活への影響、生きてきた時代背景等をふまえ全人的に高齢者を理解し、老いて生活していくことを支えるために必要な理論、看護活動について学ぶ。また、高齢社会の統計的輪郭、保健・医療・福祉の動向など高齢化が地域社会へ及ぼす影響について考察し、老年看護の必要性及び保健医療福祉チームとしての看護職の役割を学ぶ。							
到達目標 1. 老年期をライフサイクル、発達課題より説明できる。 2. 老年期の人々の生きてきた時代背景とともに、高齢者の暮らしの特徴を説明できる。 3. 老年看護活動の特性及び重要性について説明できる。 4. 高齢者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな（霊的）側面の変化について説明できる。 5. 高齢者によくみられる身体症状の特徴とアセスメントについて説明できる。 6. 高齢者の特徴をふまえ、生活機能（活動、食事、排泄、清潔、生活リズム、コミュニケーション）に焦点をあてた看護の視点を述べるができる。 7. 検査・薬物療法を受ける高齢者の看護について説明できる。 8. 認知機能の障害に対する看護について説明できる。 9. 高齢者の特徴をふまえたオムツ交換・体位変換・口腔ケア・嚥下評価を実施することができる 10. 高齢者のフィジカルアセスメントの基本的な手技を実施することができる。			成績評価方法 授業態度、グループワークへの参加度、提出物、確認テスト、中間・定期試験を総合して評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							5
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 1. 授業ガイダンス 2. 老いるということ、老いを生きるということ	
2) 高齢社会の統計的輪郭（社会動向，世帯，健康状態，暮らし等）	グループワーク 課題
3) 老年看護の基盤	グループワーク 確認テスト
4) 身体の高齢変化とアセスメント	グループワーク
5) 身体の高齢変化とアセスメント	グループワーク
6) 身体の高齢変化とアセスメント	グループワーク 確認テスト
7) 日常生活を支える基本的活動	グループワーク
8) 日常生活を支える基本的活動	グループワーク 確認テスト
9) 食事・食生活	グループワーク
10) 食事・食生活	グループワーク 確認テスト
11) 演習 高齢者疑似体験	
12) 演習 フィジカルアセスメント	
13) 検査・治療（手術・薬物療法）を受ける高齢者の看護ケア	グループワーク
14) 検査・治療（手術・薬物療法）を受ける高齢者の看護ケア	グループワーク 確認テスト
15) 排泄	グループワーク
16) 排泄 中間試験	グループワーク 確認テスト
17) 1. 中間試験振り返り 2. 清潔	グループワーク
18) 清潔	グループワーク 確認テスト
19) 生活リズム	グループワーク
20) 生活リズム	グループワーク 確認テスト

21) コミュニケーション	グループワーク
22) コミュニケーション	グループワーク 確認テスト
23) 高齢者のレクリエーション	グループワーク
24) 演習 事例を用いたアセスメント	
25) 演習 嚔下評価	
26) 演習 レクリエーションリハーサル	
27) 認知機能の障害に対する看護	グループワーク
28) 認知機能の障害に対する看護	DVD試聴
29) 高齢社会と社会保障（介護保険制度）	グループワーク
30) 高齢社会と社会保障（介護保険制度）	グループワーク 確認テスト

授業外学習

授業計画に沿って、課題を出します。テキストの該当単元を熟読し、課題に取り組んでください。毎回、確認テスト（講義内容）があります。講義中にしっかりと内容を理解するようにして下さい。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：老年看護学（医学書院） ・参考書：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図（医学書院） 	基礎看護学、成人看護学、老年看護学、老年看護学実習 ・、総合看護実習

備考

--

科目名	老年看護学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	3年	前期			
担当者名	光貞 美香、大草 知子、松本 涼太、矢田 フミエ		関連する資格				
授業概要 老年看護学 の学びをふまえ、高齢者特有の健康問題（症状・疾患）、生活機能障害について理解を深め、QOLの向上を主眼に高齢者の健康レベルに応じた看護のアプローチについて、事例を通して学ぶ。また、また、倫理的課題をふまえ、高齢者のおかれている状況を総合的にアセスメントし、高齢者及びその家族を対象とした看護活動を習得し、実践へつなげていく。							
到達目標 1. 老年看護学 の学習をふまえ、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴に加え、高齢者の生き方や価値観などを重視した看護展開について考察できる。 2. 高齢者の健康レベルに応じた倫理的課題を理解し、それらをふまえた看護職の役割について述べるができる。 3. 高齢者に多い疾患及び症状の病態生理、その看護について述べるができる。 4. 認知機能の障害、うつ、せん妄に対する看護について述べることができる。 5. 終末期にある高齢者の看護及び家族看護について述べることができる。 6. 老年症候群に対する治療・看護について述べるができる。			成績評価方法 出席状況、授業態度、提出物、確認テスト、定期試験等を総合して評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							80
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 1. 授業ガイダンス 2. 老年看護学 の復習テスト 3. 老年看護学実習 振り返り	
2) 高齢者の皮膚疾患の特徴について	
3) 認知症について	
4) 高齢者の循環器疾患の特徴について	
5) 高齢者の消化器疾患の特徴について	
6) 高齢者の腎・泌尿器疾患の特徴について	
7) 認知機能の障害、うつ、せん妄に対する看護	グループワーク
8) 疾患を持つ高齢者への看護 (心不全、パーキンソン病、パーキンソン症候群)	グループワーク
9) 疾患を持つ高齢者への看護(骨粗鬆症)	グループワーク 確認テスト・課題
10) 終末期における看護	グループワーク
11) 老年症候群	グループワーク
12) 老年症候群	グループワーク 確認テスト・課題
13) 疾患を持つ高齢者への看護(褥瘡)	グループワーク
14) 高齢者のリスクマネジメント 高齢者と薬	グループワーク 確認テスト
15) 老年看護学の倫理的な課題：権利擁護 (虐待、身体拘束、成年後見制度)	グループワーク
授業外学習	
授業計画に沿って、課題を出します。テキストの該当単元を熟読し、課題に取り組んで下さい。確認テスト(講義内容)があります。講義中にしっかりと内容を理解するようにして下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：老年看護学(医学書院) <li style="padding-left: 20px;">老年看護 病態・疾患論(医学書院) ・参考書：生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図(医学書院) 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎看護学、成人看護学、老年看護学、老年看護学実習 ・総合看護実習

備考

科目名	精神看護学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	2年	後期			
担当者名	佐藤 美幸、柿並 洋子、早川 昌子		関連する資格	看護師国家試験受験資格			
授業概要 精神看護の対象と目的、精神の健康概念について学ぶとともに、精神保健福祉の現状と課題について学ぶ。また、精神症状および精神疾患と治療法およびその看護について学び、精神障害に対する理解を深める。リエゾン精神看護についての概要と実践、他職種との連携について学ぶ。							
到達目標 ・精神看護の対象と目的が言える ・人のライフサイクルにおける発達課題とそこに生じる心の問題を述べることができる ・精神医療保健福祉の歴史的背景が理解できる ・精神障害者を取り巻く法律の概要が説明できる ・精神症状、主な精神疾患と治療法について説明できる ・精神科の倫理的な問題と看護師の役割について説明できる ・精神科リハビリテーションと地域保健福祉活動について説明できる ・リエゾン精神看護の概要とリエゾナーズの活動について述べるができる			成績評価方法 定期試験（60％）、小テスト（30％）、レポート（10％）				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験(中間・期末)	○	○	○				60
小テスト、授業内レポート	○	○	○				30
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 精神看護学で学ぶこと 「精神（心）」の捉え方	
2) 精神（心）の発達に関する主要な考え方	
3) 家族と精神（心）の健康	
4) 暮らしの場と精神の健康	
5) 精神（心）の危機状況と精神保健	小テスト
6) 現代社会と精神（心）の健康	
7) 精神保健医療福祉の歴史	
8) 精神保健福祉法と患者の処遇	
9) 精神障害者の抱える症状の理解1	
10) 精神障害者の抱える症状の理解2	
11) 精神科的診察	小テスト
12) 主な精神疾患 / 障害と治療法と看護	
13) 主な精神疾患 / 障害と治療法と看護	
14) 主な精神疾患 / 障害と治療法と看護	
15) 精神科における主な治療と看護	小テスト
16) 精神科における主な治療と看護	
17) 精神（心）を病むということ	小テスト レポート
18) 精神（心）を病むということ	グループワーク
19) 精神障害をもつ人との関わり方	
20) 精神障害を持つ人とのコミュニケーション	

21) 看護援助の基本構造	
22) 患者による自己管理 治療環境と患者の生活	
23) 事故防止・安全管理と倫理的配慮	小テスト
24) 事故防止・安全管理と倫理的配慮	
25) 精神障害を持つ人の地域における生活への支援	
26) 精神障害を持つ人の地域における生活への支援	
27) 精神障害を持つ人の地域における生活への支援	
28) 司法精神看護 / 災害看護	小テスト
29) リエゾン精神看護	レポート
30) リエゾン精神看護	

授業外学習

テキストの該当ページには必ず目を通してから授業に臨むこと（事前学習時間として各回30分程度）
また、小テストを課すため、復習のための時間を確保すること（学習時間各回30分程度）

テキスト、参考書、教材	関連する科目
新体系看護学全書 精神看護学 精神看護学概論精神保健 精神看護学 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社	

備考

- ・授業中の私語・出入りは厳禁。
- ・授業中は携帯電話は電源を切り、カバンの中にしておくこと。
- ・授業前に教科書の該当ページや事前配布されたプリント類は必ず目を通しておくこと。
- ・事前課題が出された場合には、課題を行った上で授業に臨むこと。

科目名	精神看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	3年	前期
担当者名	佐藤 美幸、柿並 洋子	関連する資格	看護師国家試験受験資格	

授業概要

精神看護学 で学習した知識をもとに、精神障害者に焦点をあて、それらの人々へ精神看護を実践していくための知識と技術を学ぶ。症状のアセスメントとアプローチの基本、日常生活援助技術、社会復帰に向けての援助等、患者・看護師関係を活用しながら、事例を通して学習する。

到達目標

- ・精神に障害を抱える人への看護援助について説明できる
- ・精神症状に対する援助が説明できる
- ・精神疾患・障害を持つ患者への看護の要点を述べるができる
- ・他職種との連携について述べるができる

成績評価方法

定期試験 80%
宿題、授業外レポート 20%

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○	○	○			80
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク	○	○	○	○			
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 精神障害を持つということ	
2) 精神症状と看護 1	
3) 精神症状と看護 2	
4) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 統合失調症 1	事前課題 GW
5) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 統合失調症2	事前課題 GW
6) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 うつ病	事前課題 GW
7) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 双極性障害	事前課題 GW
8) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 アルコール依存	事前課題 GW
9) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 神経性やせ症摂食制限型	事前課題 GW
10) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 強迫性障害	事前課題 GW
11) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 注意欠如/多動性障害、自閉症スペクトラム障害	事前課題 GW
12) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 パーソナリティ障害	事前課題 GW
13) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 身体合併症(がん・肺炎・骨折)	事前課題 GW
14) 精神看護とコミュニケーション	
15) 精神科における多職種連携	
授業外学習	
<p>精神看護学 の学習内容は必ず復習しておき、講義に臨むこと。 事前に課された課題については、指定された講義前に必ず終了し、当日持参すること。また予定表に示された教科書の該当ページは、事前に必ず熟読しておくこと。(学習時間として各回90分)</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
新体系看護学全書 精神看護学 精神看護学概論精神保健 精神看護学 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社	

備考

私語・携帯電話等の使用は厳禁。

科目名	成人看護学実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	2	3年	後期			
担当者名	坂井 浩美、伊藤 美穂、井上 由美子、桐明 祐弥		関連する資格				
授業概要 最新医療が行われる医療現場における医療提供体制・看護師の役割・対象のおかれている状況について、特殊な治療・検査の見学を通して学ぶ。 見学実習を通して専門的な治療や援助および他職種の役割を学ぶことが出来る。							
到達目標 1. 最新の医療現場で、患者が受ける治療・検査の特徴や方法について見学実習を通して学ぶ。 2. 患者に実施される治療・検査の必要性を理解したうえで、看護師の役割を学ぶ。 3. 治療・検査を必要とする患者や家族の特徴と治療・検査が及ぼす影響を理解できる。 4. 見学部署の構造・設備を見学実習を通して学ぶ			成績評価方法 実習記録 課題レポート 事前学習				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>別冊：看護学臨地実習ガイドブック参照</p>	
<p style="text-align: center;">授業外学習</p>	
<p>事前学習課題を実習にて活用しやすいように工夫して作成し、ファイルする。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>看護学臨地実習の心得「各領域共通」、看護学科健康管理ノート、基礎看護技術項目の履修領域と到達度</p>	

備考

科目名	成人看護学実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	2	3年	後期			
担当者名	坂井 浩美、伊藤 美穂、井上 由美子、桐明 祐弥		関連する資格				
授業概要 医療機関に入院中の慢性疾患を持つ患者とその家族に対し、治療・慢性疾患患者の特徴をふまえ、既習の知識と看護技術を用いて看護を展開能力と最良の看護を提供する能力を習得する。							
到達目標 1)慢性疾患をもつ患者とその家族を身体的、心理的、社会的側面からとらえることができる。 2)患者の健康障害の改善および生活の質(QOL)の維持・向上を図り、その人らしい生活を送るための看護過程が展開できる。				成績評価方法 実習記録 事前学習 課題レポート 実習評価表			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>別冊：看護学臨地実習ガイドブック 参照</p>	
授業外学習	
<p>事前学習課題を実習で活用しやすいように工夫して作成する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>看護学臨地実習の心得「各領域共通」、看護学科健康管理ノート、基礎看護技術項目の履修領域と到達度</p>	

備考

科目名	成人看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	3年	後期
担当者名	原田 博子、坂井 浩美、伊藤 美穂 、井上 由美子、桐明 祐弥	関連する資格		

授業概要

疾病・手術・麻酔等により、侵襲を受けている患者と家族に対し、治療の特徴を踏まえ、健康問題を系統的に解決していく看護過程の展開能力と最良の看護を提供する能力を習得する。

到達目標

- 1) 周手術期にある患者とその家族の状況を、身体的、心理的、社会的側面からとらえることができる。
- 2) 周手術期にある患者の健康障害の改善および生活の質(QOL)の向上を図り、その人らしい生活を送るための看護過程が展開できる。

成績評価方法

- 実習記録
- 事前学習
- 課題レポート
- 実習評価表

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要	アクティブラーニング
別冊：実習指導要綱参照	
授業外学習	
成人看護学 の講義にて事前学習課題を出します。自分で実習で活用しやすいように工夫して作成する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目

備考

科目名	小児看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	3年	後期
担当者名	川崎 幹子、山崎 啓子	関連する資格		

授業概要

小児の成長発達過程とさまざまな健康レベルにある小児を理解するとともに、健康障害をきたした小児とその家族への看護実践方法について学ぶ。
(小児病棟、小児科外来、幼稚園にて実習を行う)

到達目標

- 1) 小児とのかかわりを通して、成長発達の特徴を捉え、発達段階に応じたコミュニケーションと援助ができる。
- 2) 健康障害や入院加療が小児と家族に及ぼす影響について理解し、健康障害をもつ小児および家族に対する看護を考え実践する。
- 3) 小児と家族の尊厳と権利を守り、倫理的に配慮した援助を実践する。
- 4) 実習を通して、小児看護の役割を考えることができる。

成績評価方法

実習目標達成状況、実習に対する取り組み、出席状況等から総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>別冊：看護学臨地実習ガイドブック参照</p>	
授業外学習	
<p>事前学習課題を必ず行って臨むこと 既習科目を復習して臨むこと 事後の振り返り・まとめ・助言・指導を受けての記録の修正ができること</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
	<p>小児看護学、 、人体の構造と機能、疾病論、薬理・薬剤学、 子どもの発達と学習、その他看護学の教科</p>

備考

科目名	母性看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	3年	後期
担当者名	安成 智子、古場 真理	関連する資格	看護師	

授業概要

妊産褥婦および胎児/新生児とその家族の特徴を包括的に理解し、援助するための看護実践方法について学ぶ。産科病棟・産科外来において、2週間の実習を行う。

到達目標

1. 妊婦/胎児とその家族のアセスメントを通して、対象者の全体像を理解することができる。
2. 産褥期の母子のよりよい適応や成長発達を促すようなウェルネス型の看護過程を展開することができる。
3. 生命の尊厳、生命倫理について考察し、自分の生命観・母性観への影響を述べるることができる。
4. 母子保健医療チームの一員としての看護師の役割や、他職種との連携について理解することができる。

成績評価方法

実習に臨む態度や、知識・技術を用いて看護を展開しようとする意欲・判断力を、本人の行動と記録から総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				60
授業態度・授業参加度					○		10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		25

授業計画と概要	アクティブラーニング
看護学臨地実習ガイドブック参照	
授業外学習	
受け持ち対象者の看護に必要な知識は、確実に事前学習しておくこと。 実際に行う看護技術を実習前のオリエンテーションで確認するため、実習室の開放時間を利用して繰り返し練習すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
各自で母性看護学 のテキスト・配布資料を活用すること。 その他、教員が施設ごとに参考書を持参する。	看護過程論 母性看護学 母性看護学

備考

科目名	老年看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	2年	後期
担当者名	原田 博子、松本 涼太	関連する資格		

授業概要

病院で療養している高齢者および通所サービスを利用している高齢者を通して、老年期の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、高齢者の抱える日常生活や健康に関する課題について考察する。また、高齢者の個別性を尊重した基本的態度を養う。

到達目標

1. 病院で療養している高齢者の特徴を知ることができる。
2. 通所サービスを利用している高齢者の特徴を知ることができる。
3. 高齢者を支えるケアサービスの特徴について説明できる。
4. 看護学生としての基本的態度を養うことができる。

成績評価方法

出席状況、実習態度、実習記録、技術演習、レポート等を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							5
実習							80

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>別冊：看護学臨地実習ガイドブック（老年看護学実習）参照</p>	
授業外学習	
<p>実習ガイドブックを熟読し、積極的に取り組むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：老年看護学（医学書院） ・参考書：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図（医学書院） 	<p>老年看護学 ・ 、老年看護学実習 ・ 総合看護実習 ・</p>

備考

科目名	老年看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	4年	前期
担当者名	原田 博子、松本 涼太	関連する資格		

授業概要

実際の療養場面を通して老年期にある人々を身体的、精神的、社会的側面から包括的(総合的)に理解し、健康の回復、維持・増進を目指した個別的・倫理的看護を実践するための基礎的能力を養う。
また、高齢者を中心とした保健・医療・福祉における多職種連携のあり方と、看護の役割を学ぶ。さらに、自分自身の高齢者観を深め、看護職としての基本的態度・姿勢を養う。

到達目標

1. 健康上の問題による日常生活への影響について理解できる。
2. 受け持ち高齢者に対する看護を展開できる。
3. 高齢者に対して、尊厳性に基づいた関わりができる。
4. 保健・医療・福祉における多職種連携と看護の役割を理解できる。
5. 実習を通して、自分自身の高齢者観を深めることができる。

成績評価方法

実習態度、実習記録、レポート等を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							5
実習							85

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>別冊：看護学臨地実習ガイドブック（老年看護学実習）参照</p>	
授業外学習	
<p>実習ガイドブックに明記しているように、実習に向け事前課題に取り組むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：老年看護学（医学書院） 老年看護 病態・疾病論（医学書院） ・参考書：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図（医学書院） 	<p>基礎看護学、成人看護学、老年看護学 ・ 、老年看護学実習、総合看護実習 ・</p>

備考

科目名	精神看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	4年	前期
担当者名	佐藤 美幸、柿並 洋子	関連する資格	看護師国家試験受験資格	

授業概要

精神の健康に障害をもつ対象を、身体的・精神的・社会的側面から理解するとともに、対象への日常生活または治療的援助の方法や社会復帰に向けての働きかけについて、実践を通して修得する。
 実習は、精神科病院および社会復帰施設で行う（2週間）。

到達目標

精神障害者とかかわることができる
 精神科の治療やケアを説明できる
 院内で行われている様々な活動に参加し、患者と関わりを持つことにより、精神障害を体験的に理解できる
 病棟に入院中の患者や病院・施設の利用者とのコミュニケーションを通じて、自己の対人関係を振り返る

成績評価方法

実習記録、実習態度、出席状況を総合判断する

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			40
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		60

授業計画と概要		アクティブラーニング
別冊：看護学臨地実習ガイドブック参照		
授業外学習		
<p>事前学習課題を必ず行って臨むこと 既習科目はすべて復習して臨むこと 記録類については、日々行うこと 学習時間として毎日180分程度</p>		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
	精神看護学、看護学すべて	

備考

科目名	基礎ゼミナール			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	2	1年	通年(前期)
担当者名	原田 博子、名尾 朋子	関連する資格		

授業概要

少人数でのグループ学習を通じて、大学生として必要な基本的態度や学習技術、学習習慣を身につけ、大学生活への動機付けとする。また、自ら考え・学ぶ姿勢、相手の意見を聴く姿勢を身につけることから、コミュニケーション能力を獲得する。ディスカッションに必要なコミュニケーション技術を身につけるとともに、グループワークを通じて、自らの考えをまとめ、他者に伝える能力を身に付ける。さらに、医療人として人々の健康を学ぶ。

到達目標

- ・大学生として、学習に向けての基礎的な学習態度・習慣を身に付ける。
- ・自分自身の生活を見直すことにより、健康な生活を理解し、健康の維持に必要な日常生活を身に付ける
- ・看護学生として人命救助の技術を習得する。
- ・看護学生としての世界共通マナーを理解し、カンファレンス・学会等の準備力を身に付ける 6回

成績評価方法

講義レポート、定期試験、出席状況、演習・グループワーク参加状況、課題などを総合判断する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							50	
小テスト、授業内レポート							5	
宿題、授業外レポート							15	
授業態度・授業参加度							5	
プレゼンテーション							5	
グループワーク							10	
演習							10	
実習								

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 1限：看護系大学増加の歴史的背景と看護学学士を目指す意義（専門職としての看護師とは）社会人基礎力とは 2限：総合医療論 序章	グループワーク 自分の1週間の食生活のレポート作成
2) 1限：健康な生活を考え、今後の生活を見直す 生活の理解 健康21の説明 食事 2限：総合医療論 1章	
3) 1限：生活の理解 健康21の説明 活動・休息 2限：総合医療論 2章	
4) 1限：生活の理解 健康21の説明 嗜好品 酒とたばこ等 2限：総合医療論 3章	
5) 1限：生活の理解 健康21の説明 清潔と整容 2限：総合医療論 3章	
6) 健康人にとっての睡眠 睡眠の異常（睡眠時無呼吸障害、夜勤交代制による睡眠への影響、高齢者の睡眠等睡眠の異常の病態、身体への影響）	中部大学生命健康科学研究所宮崎総一郎教授
7) 多文化教育 グローバリズム（世界主義） 2限：総合医療論 4・5章	
8) 多文化教育 国際化（インターナショナル コミュニケーション） 2限：総合医療論 6章A B	
9) 多文化教育 多文化共生化（ダイバーシティ） 2限：総合医療論 6章C D E	
10) 自己紹介の仕方、メールの出し方（日本語、英語） 2限：総合医療論 7章A - D	
11) プレゼンテーションの方法 2限：総合医療論 7 E - H章C D E	
12) BLS講習 演習以外のグループは課題学習	宇部市中央消防署演習
13) BLS講習 演習以外のグループは課題学習	宇部市中央消防署演習
14) BLS講習 演習以外のグループは課題学習	宇部市中央消防署演習
15) 課題学習のプレゼンテーション	演習
授業外学習	
事前課題のために60分：テキストとして使用する総合医療論の講義内容を読んで要約を次回授業の際提出すること。事後課題のために45分 授業の後わからなかった言葉を自分で調べてください。調べた言葉と意味は提出レポートに記載して提出すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座総合医療論・医学書院	

備考

この科目は通年授業科目です。主に1年生のチューター6人が担当します。なお、前期は、2コマ授業となります。非常勤講師の講義もありますので、講義内容および日程は変更することがあります。

科目名	基礎ゼミナール			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	2	1年	通年(後期)
担当者名	原田 博子、名尾 朋子	関連する資格		

授業概要

少人数でのグループ学習を通じて、大学生として必要な基本的態度や学習技術、学習習慣を身につけ、大学生活への動機付けとする。また、自ら考え・学ぶ姿勢、相手の意見を聴く姿勢を身につけることから、コミュニケーション能力を獲得する。ディスカッションに必要なコミュニケーション技術を身につけるとともに、グループワークを通じて、自らの考えをまとめ、他者に伝える能力を身に付ける。さらに、将来の目指す方向を見据え、キャリア・デザインを明確にする。

到達目標

- ・大学生として、学習に向けての基礎的な学習態度・習慣が身につく。
- ・コミュニケーション技術が身につく。
- ・自分自身の生活を見直すことができる。
- ・情報管理の重要性がわかる
- ・自らの役割を果たし、グループワークを有意義に進めることができる。
- ・将来に向けた具体的な行動目標を立てることができる。

成績評価方法

講義レポート、最終レポート(定期試験)、出席状況、ゼミナール参加状況、課題などを総合判断する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							30	
小テスト、授業内レポート							20	
宿題、授業外レポート							10	
授業態度・授業参加度							10	
プレゼンテーション							10	
グループワーク							20	
演習								
実習								

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) ベッドまわりの環境学を学ぶ必要性 後期ゼミオリエンテーション	「看護学とは」資料を読む復習
2) ベッドまわりの環境学序章	章の内容を要約する グループワーク
3) ベッドまわりの環境学1章の1	章の内容を要約する グループワーク
4) ベッドまわりの環境学1章2,3	章の内容を要約する グループワーク
5) ベッドまわりの環境学2章1,2	章の内容を要約する グループワーク
6) ベッドまわりの環境学2章3,4	章の内容を要約する グループワーク
7) ベッドまわりの環境学2章5、6	章の内容を要約する グループワーク
8) 速読力・読解力・ロジカルシンキング・クリティカルシンキング	
9) パラグラフライティングによる論文力	
10) ディスカッション力・発散型討議法（ブレインストーミング）と収束型討議法	看護学についてのレポート提出
11) プロセスレコードを学ぶ	
12) プロセスレコードでグループワーク	発表
13) KJ法を学ぶ	
14) KJ法の活用 「自分たちが求める快適な療養環境」	KJ法・プレゼンテーション演習
15) 難病患者さんの体験	
授業外学習	
前期と同様に指示された教科書の部分を読んで、要約する。事前課題45分 当日の内容を再度、自分なりに調べ、まとめてレポートする 事後学習 45分	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
川口孝泰：ベッドまわりの環境学、医学書院	基礎看護技術、看護学概論、成人看護学総論

備考

科目名	総合ゼミナール			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	4年	後期
担当者名	佐藤 美幸、柿並 洋子、木元 卓也	関連する資格	保健師国家試験受験資格	

授業概要

保健・医療・福祉の現場において看護活動を実践するにあたっては、他職種との連携・協働が求められる。総合ゼミナールにおいては、本学で養成する看護職、福祉職、心理職等を学ぶ学生が各部門に共通する問題を抱えた事例についてカンファレンスを行い、各自の立場から検証するとともに、他職種との連携を体験し、その必要性を学ぶ。また、多職種間のコミュニケーション技術を身につけ、実践に強い看護職を目指す。

到達目標

- ・保健・医療・福祉の連携を説明できる
- ・多職種間でのコミュニケーションの重要性を体験する
- ・多職種間での連携の方法を述べるができる
- ・他の医療・福祉職の役割と立場を尊重した行動ができる
- ・他の医療・福祉職と協働できる
- ・多職種の協働における自分の役割を理解し、それに応じた言動ができる

成績評価方法

レポート、ゼミナール参加状況

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				60
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション				○	○		10
グループワーク	○	○	○	○	○		20
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 保健・医療・福祉の現場における看護活動		
2) 看護師・保健師の立場から見た他職種との連携		
3) 福祉/心理の立場から見た他職種との連携		
4) 事例に基づく合同カンファレンス		グループワーク
5) 事例に基づく合同カンファレンス		グループワーク
6) 事例に基づく合同カンファレンス		グループワーク
7) 事例に基づく合同カンファレンス		グループワーク
8) 保健・医療・福祉の役割と課題（発表・まとめ）		グループワーク
9)		
10)		
11)		
12)		
13)		
14)		
15)		
授業外学習		
グループワークに必要な情報、知識は各自で集めてグループワークに臨むこと（事前学習として60分）		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
資料配付		

備考

科目名	看護管理学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	3年	前期			
担当者名	原田 博子		関連する資格				
授業概要 <ul style="list-style-type: none"> ・看護管理は、患者・看護師の一つ一つの「ケア」を組織的な看護サービスとしてマネジメントすることであることを理解する。 ・看護専門職としての質の高い看護サービス提供に対する責務の観点から、看護の組織に属するメンバー一人ひとりが看護管理の知識を持ち、あらゆる場でそれらの知識を活用することが必要であることを理解する。 ・看護を取り巻く諸制度や看護の国際協力にはどのような組織、仕組みが関わっているかを理解する。 							
到達目標 1看護管理の定義を述べる 2看護の目的を達成するための組織運営について述べる 3看護を取り巻く諸制度について説明する 4マネジメントに必要な知識と技術を列挙する 5看護管理の視点からその取り組みを工夫する 6病院における看護管理の実際を分かち合う 7看護師として連携・調整・協働の視点で他職種に配慮する			成績評価方法 毎回のレポート、課題レポート、定期試験				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) シラバスの説明、第1章看護とマネジメント	管理という言葉のイメージについて話し合い ナイチンゲール小管理資料レポート
2) 第3章A B看護サービスのマネジメント 医療制度	
3) 第3章C看護サービス提供方式 看護提供方式	
4) 第3章D人材マネジメント人材活用 労務管理 ワーク・ライフ・バランス	はたさぼを見て話し合おう
5) 第3章G H I 法的根拠に基づく看護記録、 災害対策、看護の質評価 看護実践における7つの管理の視点	
6) コスト管理・物品管理	小テスト
7) 第4章A B看護を取り巻く諸制度	
8) 第2章A B 看護ケアのマネジメント マネジメントのプロセスと患者の権利の尊重	
9) 第2章 C 医療安全 看護管理の視点	医療安全のためのノンテクニカルスキル演習
10) 第2章 Dチーム医療 看護業務の実践	
11) 第5章 A B組織とマネジメント リーダーシップ	リーダー知識確認テスト
12) 第5章 C 組織の調整	
13) ストレスマネジメント 第5章D 組織と個人	なりたい看護管理者像について話し合おう
14) 第5章 D 組織と個人 キャリアデザイン・意思決定・タイムマネジメント	ナイチンゲールレポート提出
15) 看護管理の実際 ワークライフバランス、フィッシュ哲学	DVD視聴
授業外学習	
授業前後には、必ず予習45分と復習レポート課題45分をして出席するようにしてください。 この授業は、4年生の統合実習につながる教科目です。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト・系統看護学講座 看護管理 医学書院 参考書・基礎看護学 看護管理 メディカ出版・ナイチンゲールの覚書	看護学概論、医療経済論、医療安全管理学、看護情報論、統合看護実習

備考

科目名	看護教育学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	4年	前期
担当者名	佐藤 美幸	関連する資格	看護師国家試験受験資格	

授業概要

看護教育制度と看護教育方法の現状と課題を理解し、看護学への関心を深め、質の高い看護のための学ぶ姿勢を身につける。

到達目標

看護学の歴史と教育制度の変遷を理解する
 看護教育制度の現状を理解し、課題について考える
 看護専門職者としての継続教育を理解する
 質の高い看護実践のために必要な看護教育について自らの考えを述べることができる

成績評価方法

課題レポート (80%)
 グループワーク (20%)

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				80
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション			○	○	○		
グループワーク		○	○	○	○		20
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 看護教育とは		
2) 看護教育の歴史と教育制度の変遷		
3) 看護教育制度 1 看護基礎教育（看護師・准看護師、保健師、助産師の教育システム）		
4) 看護教育制度 2 看護基礎教育（大学における教育）		
5) 看護教育制度 3 継続教育		
6) 看護教育制度 4 卒後教育		
7) 看護教育の実際 1 看護学科の教育課程を見てみよう		グループワーク
8) 看護教育の実際 1 自分の希望する病院の卒後教育を見てみよう		グループワーク
9)		
10)		
11)		
12)		
13)		
14)		
15)		
授業外学習		
グループワークの際には、事前課題を課す（学習時間として60分程度）		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
資料配付		

備考

科目名	看護情報論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	3年	前期
担当者名	原田 博子	関連する資格		

授業概要

看護活動に必要な看護情報に焦点を当てて、看護情報とは何か、看護と情報科学の関連や医療情報システムおよび看護情報システムの概要、看護過程や看護記録との関連について学ぶ。また、看護記録等からの看護情報の検索、蓄積、伝達について基本的な事柄を学び、医療情報システムの在り方をしる。

到達目標

1. 看護活動に必要な情報の特徴を説明する
2. 医療情報システムと看護
3. 情報収集や情報提供のあり方を倫理的視点から説明する
4. 看護実践場面での看護情報の具体的活用方法について説明する。

成績評価方法

小テスト、課題レポートと看護記録演習参加によって評価する

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							20
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 第1章看護情報学とは、第2章情報化社会	ICTの活用による遠隔医療のメリットデメリットレポート
2) 第6章情報と倫理 第8章個人情報の保護	小テスト
3) 患者の権利と情報 第7章 医療面接	グループワーク第3章参照
4) 医療における情報システム第5章 A 医療における情報の記録	
5) 医療における情報システム第5章 B 病院情報システムと記録の仕方	
6) 看護と情報 第4章	基本から学ぶ看護過程と看護診断、医学書院、看護観察判断基準マニュアル、メディカ出版持参
7) 看護記録の実際、看護記録と法的根拠 3つの看護記録の方法	患者の状態を記録する演習
8) 臨床における看護記録の課題 電子カルテの運用、看護実践用語、看護必要度に基づく看護記録	看護記録基準
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
最終回まで受講した後、自分が定めたテーマにもとづいて課題レポートを提示された日時までに提出する。事前学習45分次回授業内容を予習する。事後学習45分：授業後自分でインターネット等を使用してわからなかったことや興味あることを調べて報告する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：看護情報学、医学書院 参考書：基本から学ぶ看護過程と看護診断、医学書院 看護観察判断基準マニュアル、メディカ出版	成人看護学実習 総合実習

備考

科目名	身体コミュニケーション論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	3年	前期
担当者名	佐藤 美幸	関連する資格		

授業概要

コミュニケーションの重要性をふまえて、様々な看護場面において対象に応じた方法を用いて対象者と接することができるよう、知識と技術を実践的に学ぶ。具体的には、コミュニケーションスキル、リラクゼーション技法、音楽療法、アロマセラピーなどの技術を通して、それらを実践に活用するための基礎的能力を養う。

到達目標

1. 医療現場におけるコミュニケーションの重要性について理解できる
2. 様々なコミュニケーション技法について知ることができる
3. 音楽療法、レクリエーション、アロマセラピーの看護への応用の方法が理解できる
4. 対象に応じたレクリエーションの企画・運営ができる
5. コミュニケーションの技術を用いて対象との良好な関係を持つことができる

成績評価方法

レポート(60%)、授業内レポート(20%)、グループワーク、演習等(20%)にて評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○				20
宿題、授業外レポート	○	○	○				60
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション		○	○	○	○		10
グループワーク	○	○	○		○		10
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 医療の現場における様々なコミュニケーション 1		グループワーク
2) 医療の現場における様々なコミュニケーション 2		グループワーク
3) 医療の現場における様々なコミュニケーション 3		グループワーク
4) 音楽療法と看護		
5) 身体を使ったコミュニケーションスキル(レクリエーション)		
6) アロマの看護への活用		
7) レクリエーションを考えてみよう 1		グループワーク
8) レクリエーションを考えてみよう 2		グループワーク
9)		
10)		
11)		
12)		
13)		
14)		
15)		
授業外学習		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
資料配付		

備考

演習・グループワークが多い科目です。自ら学ぶ姿勢で臨んで下さい。

科目名	公衆衛生看護学概論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	後期
担当者名	江藤 真紀、滝川 洋子	関連する資格		

授業概要

公衆衛生看護活動を理解するため、公衆衛生看護およびヘルスプロモーションの概念に基づいた活動原則と方法を学ぶ。また、公衆衛生看護の対象となるすべてのライフステージにおける個人・家族・集団・地域社会の視点からの看護活動の意義、目的、役割を探究する。

授業内容により、学生相互でディスカッションやグループ学習を通して、公衆衛生看護活動の理解を深める。

到達目標

公衆衛生看護の基本的な考え方（エビデンス含む）と活動の場、役割、活動方法を学ぶ。

成績評価方法

授業態度・授業参加態度（10点）
レポート課題（10点）
ミニテスト（10点）
定期試験（70点）
上記を基準として総合的に評価する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							70	
小テスト、授業内レポート							10	
宿題、授業外レポート							10	
授業態度・授業参加度							10	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 公衆衛生看護の考え方の発生源	
2) 公衆衛生看護の概念	
3) 公衆衛生看護学の領域・目的・対象、看護活動の基盤	レポート
4) 公衆衛生看護学の歴史	
5) プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	
6) 公衆衛生看護活動の場と特性	グループワーク
7) 保健所の概要と保健所保健師の役割	
8) 市町村（保健センター）の概要と市町村保健師の役割	
9) 公衆衛生看護活動の対象と方法：個人と家族（家庭訪問・健康相談）	レポート
10) 公衆衛生看護活動の対象と方法：集団と地域社会（健康教育・地域診断）	レポート
11) 家庭訪問技術	
12) 健康相談技術（保健指導含む）	
13) 保健活動（母子・成人・高齢者・精神・難病）と法令	
14) 地域保健活動の実際	
15) 地域保健活動の実際	
授業外学習	
授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきてください。また、授業後はテキスト該当単元を復習してください。常に知識の強化を図ってください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
上野昌江、和泉京子編集「公衆衛生看護学 第2版」中央法規出版 （財）厚生労働統計協会編集「厚生指針 国民衛生の動向 2019/2020」	人間・地域社会・環境関連基礎科目、公衆衛生学、社会福祉論、家族論・家族関係論、コミュニケーション論、災害看護論等

備考

科目名	在宅看護論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	3年	前期			
担当者名	狩野 京子、山崎 千鶴代		関連する資格				
授業概要 在宅看護論の概論として、在宅看護論 および在宅看護論実習の基礎となる理念や問題を学習する。ここでは、在宅看護を支えるシステム・理論や疾病や障害、虚弱のために看護ニーズをもつ在宅療養者とその家族の特徴について学習するとともに、社会情勢の変化に即した在宅看護のあり方について学習する。							
到達目標 1. 在宅看護の歴史、背景、目的、対象について述べるができる。 2. 在宅看護における活動の場の特徴について説明できる。 3. 在宅療養を支える他職種や他機関の連携、ケアマネジメントの必要性について理解できる。 4. 在宅療養を支える制度、ケアシステム、社会資源および保健・医療・福祉専門職の役割について説明できる。 5. 家族アセスメント、家族支援の方法について具体的に説明できる。 6. 在宅看護の課題と展望について自己の意見を述べ、グループで協力して発表できる。			成績評価方法 期末定期試験 小テスト 授業外レポート 授業への意欲・態度				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 在宅看護の概念 日本の在宅看護の歴史と現状	
2) 在宅看護の倫理と基本理念 在宅ケアと在宅看護	
3) 在宅療養者と家族の支援	小テスト
4) 在宅看護の対象者の理解	小テスト 授業外レポート課題
5) 訪問看護の特徴、役割と機能	小テスト
6) 在宅ケアを支える訪問看護ステーション	
7) 訪問看護の実際	小テスト
8) 地域包括ケアシステムと在宅ケア	
9) 他職種との連携とケアマネジメント	小テスト
10) 在宅ケアシステムの実際	
11) 在宅ケアを支える法制度と社会資源；医療保険	小テスト
12) 病院と家庭をつなぐ退院支援	
13) 要介護高齢者に対する在宅看護	小テスト
14) 高齢者を支える制度と社会資源	
15) 障害者の在宅療養を支える制度と社会資源	小テスト
16) 障害者に対する在宅看護	
17) 在宅難病療養者を支える制度と社会資源	小テスト
18) 難病療養者に対する在宅看護	
19) 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源	小テスト
20) 子どもに対する在宅看護	

21) 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源	小テスト
22) 認知症に対する在宅看護と高齢者虐待	
23) 在宅療養における住宅改修・福祉機器の活用	小テスト
24) 在宅リハビリテーション	
25) 在宅ターミナルケア	
26) 在宅看護の課題と展望について	小テスト 授業外レポート課題
27) 在宅看護の課題と展望について	小テスト グループワーク
28) 在宅看護の課題と展望について	小テスト グループワーク
29) 在宅看護の課題と展望について	プレゼンテーション
30) 講義のまとめ	プレゼンテーション

授業外学習

授業計画に沿って、テキストを熟読してください。
 奇数回の授業開始時、小テスト（前回講義内容）があります。講義資料、テキストを復習してください。
 27)についてレポートを作成し、考えおよび意見をグループワークで発言できるようにしておいてください。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
<テキスト> 櫻井尚子他編；ナーシンググラフィカ在宅看護論地域療養を支えるケア，メディカ出版<参考書>スーディ神崎和代：在宅看護学講座，ナカニシア出版/山崎摩耶他：患者とともに創める退院調整ガイドブック，中央法規出版/宇都宮宏子編著：退院支援ナビ，医学書院/篠田道子編：ナースのための退院調整，日本看護協会出版会	公衆衛生看護学概論，社会保障論，社会福祉論，看護学概論，看護理論，家族論・家族関係論，緩和ケア論，成人看護学総論，成人看護学・，小児看護学・，老年看護学・，精神看護学・

備考

--

科目名	在宅看護論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	3年	後期
担当者名	山崎 千鶴代	関連する資格		

授業概要

在宅療養者とその家族に対する看護実践のために必要な、知識・技術について学習する。在宅看護論実習の基盤となる科目として、その根拠と技術内容、また在宅療養者を援助する方法をイメージ化できるように、事例を通して療養者と家族の健康問題をアセスメントし、援助する方法について学習する。対象のQOLを向上させるために、問題や課題に合った方策を立て、在宅看護の提供に必要な知識と技術を習得する。

到達目標

1. 療養者や家族と信頼関係を形成するための方法について述べるができる。
2. 在宅における生活支援技術を具体的に述べるができる。
3. 在宅における医療処置管理方法について説明できる。
4. 在宅におけるリスクマネジメントの必要性について理解できる。
5. 在宅看護過程を展開し、事例に応じた対象の問題や課題を明確にできる。

成績評価方法

期末定期試験
小テスト
授業外レポート
授業・グループワークへの意欲・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 在宅におけるコミュニケーション	グループワーク
2) 初回訪問時の面接技術	ロールプレイング
3) 在宅における食と栄養に対する援助	
4) 在宅における清潔・移動の援助	小テスト
5) 在宅における排泄の援助	小テスト
6) 在宅における呼吸の援助	小テスト
7) 在宅における呼吸の援助	演習
8) 在宅における感染予防の援助	小テスト
9) 在宅における医療処置管理	小テスト
10) 在宅におけるターミナル期の援助	
11) 在宅看護過程の考え方	小テスト
12) 看護過程の展開(1)アセスメント	授業外レポート課題 個人ワーク
13) 看護過程の展開(2)関連図、問題、課題の明確化	授業外レポート課題 個人ワーク
14) 看護過程の展開(3)	授業外レポート課題 グループワーク
15) 看護過程の展開(4) まとめ	プレゼンテーション
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、テキストを熟読してきてください。授業開始時、小テスト（前回講義内容）があります。講義資料、テキストを復習してください。</p> <p>14)までにレポートを作成し、考えおよび意見をグループワークで発言できるようにしておいてください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p><テキスト> 櫻井尚子他編；ナースングラフィカ在宅看護論 地域療養を支えるケア第5版，メディカ出版</p> <p><参考書> スーディ神崎和代：在宅看護学講座，ナカニシア出版，2012/角田直枝編：知識が身につく！実践できる！在宅看護，学研，2012.</p>	<p>在宅看護論，公衆衛生看護学概論，看護学概論，看護過程論，家族論・家族関係論，基礎看護方法論，基礎看護方法論演習，医療安全管理学，臨床看護総論，老年看護学</p>

備考

科目名	緩和ケア論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	3年	前期
担当者名	齊田 菜穂子	関連する資格		

授業概要

死の意味は個々の生きてきた過程やその中で培われた人生観、死生観によって異なる。人生の大切な最期の短い時期を患者は、どのように過ごし、家族はどのように支えるか。医療者はこの患者・家族に心身の援助をどのように実践していくのか。尊厳のある人間の生命を完結できるように援助するために必要な看護を学ぶ。

到達目標

終末期の患者を理解できる
 終末期の対象の心理を理解できる。
 終末期の症状と看護を理解できる。
 家族看護について、理解できる。

成績評価方法

授業態度、レポート、定期テストで総合的に評価する

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 緩和ケアとは	グループワーク 授業内レポート 授業外レポート課題
2) 緩和ケアを取り巻く今日の状況、歴史的背景	
3) 倫理的問題、意思決定	レポート
4) 終末期患者の理解と援助 1 全人的苦痛	
5) 終末期患者の理解と援助 2	
6) 家族ケア（遺族ケアを含む）	
7) 看護師のストレス	
8) 事例に対するグループ討議	グループワーク
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
授業計画に沿って、テキストの該当箇所を予習してください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
初心者も活用できるがん医療・がん看護 改訂2版 南山堂 2013. 系統看護学講座別巻 緩和ケア 医学書院 2014	小児看護学、成人看護学、老年看護学、在宅看護学、基礎看護学

備考

科目名	災害看護論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	1	2年	後期			
担当者名	滝川 洋子、原田 博子、伊藤 美穂 、尾家 重治		関連する資格				
授業概要 ・災害及び災害看護に必要な基礎的知識を学び、災害が人々の生命や健康、生活に影響を及ぼすことについて理解を深める。 ・災害発生時の社会の対応やしきみについて学習し、災害サカにおける看護の果たす役割について学ぶ。 * 内容に応じ専門分野の特別講師の講義も含む。また災害復旧復興期および準備期の活動に関しては課題を提示し、グループワークを実施する。							
到達目標 1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解し、説明できる。 2. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響について理解し、説明できる。 3. 災害に対する個人の備えや災害発生時の社会の対応について理解し説明できる。 4. 災害時の看護師・保健師が果たす役割と災害各期における各々の活動を理解し、説明できる。			成績評価方法 ・授業態度、レポート内容、グループワーク、試験結果等を総合して評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 災害に関する基本的知識 災害発生時の社会の対応やしきみ	
2) 災害各期における看護活動 ～災害急性期から亜急性期への対応～	
3) 災害各期における看護活動 ～災害後中長期的な健康問題への対応～ 災害と感染看護	
4) 在宅療養、避難所、仮設・復興住宅における看護(DVD鑑賞) 課題提示しレポート作成	グループワーク 授業内レポート提出
5) 災害時の備え 個人及び地域の備え 宇部市の防災危機管理体制	グループワーク
6) 公衆衛生看護と災害 災害に対する保健師の役割 被災者特性に応じた看護活動	授業外レポート課題提示
7) 災害時に必要な看護技術 体系的対応の基本原則とトリアージ 応急処置、搬送	
8) 医療機関における災害看護 医療機関における災害への備え、初動体制 災害訓練	授業外レポート提出
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、テキストの該当単元を予習し、授業終了後復習しえおくこと。 レポートは提示された形式に沿ってまとめ、提出日時は守ること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> ・開講時に示す 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の看護学科目、公衆衛生看護学、疫学・保健統計、公衆衛生学、保健医療福祉行政論、身体とコミュニケーション、社会保障論、社会福祉論等

備考

科目名	国際看護論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	2年	前期
担当者名	古場 真理	関連する資格		

授業概要

看護の対象は「人間」であり、看護という概念には、国境も人種も、文化も超えた国際看護という考え方が備わっている。本講義では、すべての看護職者に必要な国際看護に関する知識の基礎を学ぶ。

到達目標

1. 国際的視野を広げることができる。
2. 異文化・多文化を理解することができる。
3. 看護そのものが国際的な意味をもつことを理解できる。

成績評価方法

定期試験（レポート試験）、小テスト、課題、プレゼンテーションを総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○	○	○			50
小テスト、授業内レポート	○	○					20
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション		○	○	○			10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 国際看護のすすめ、異文化への理解	課題、グループワーク
2) 日本の国際協力、「人間の安全保障」と国際機関	課題、グループワーク
3) 健康格差と世界の貧困、プライマリヘルスケア	課題、グループワーク
4) 国際移動する看護師、性の多様性	課題、グループワーク
5) 感染症とスティグマ	課題、グループワーク
6) 災害と看護、紛争と難民	小テスト、グループワーク、課題
7) 国際協力への理解を深める	
8) これからの私たちの選択	プレゼンテーション、 レポート試験課題提示
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
<p>1. 授業計画に記載されているテキストの該当単元の予習をして下さい。</p> <p>2. 小テストは講義済みの内容から出題するため、復習を欠かさず行って下さい。</p> <p>3. 15時間の講義に対して、30時間の時間外学修を行って下さい。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 近藤麻里：知って考えて実践する国際看護 第2版、医学書院 参考図書 講義内で提示します。</p>	看護学概論、災害看護論

備考

人間健康学部ディプロマ・ポリシーとの関連性
到達目標を達成することにより、「人への関心と学問の理解」、「柔軟な思考と表現力」、「地域に貢献する積極的態度」の要素を身につけることにつながります。

科目名	在宅看護論実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	2	4年	前期			
担当者名	山崎 千鶴代		関連する資格				
授業概要 自立支援に向けた在宅ケアシステムの概要を学ぶとともに、在宅で療養している対象者とその家族に対して、生活を尊重しながら生活の質(QOL)向上の視点から看護援助が実践できる基礎的能力を養う。							
到達目標 1. 在宅療養者とその家族について、生活状況をふまえた療養上の課題について説明できる。 2. 在宅療養者とその家族がもつ療養上の課題に対する訪問看護師の役割と、その活動について説明できる。 3. 保健・医療・福祉に携わる関連職種との連携・協働について理解できる。 4. 私生活の場に第三者が介入することの意味を考え、療養者および家族に配慮した行動がとれる。 5. 療養者が在宅で生活し続けるための在宅看護のあり方と在宅ケアシステムや社会資源について考察できる。			成績評価方法 提出物 実習記録 授業外レポート 実習評価表				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							75

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>2週間のうち訪問看護ステーション4日，地域連携室半日，居宅介護支援事業所半日，通所リハビリテーション1日の実習を行う。</p>	<p>知識確認テスト</p>
<p>授業外学習</p>	
<p>実習開始前に知識確認テストがあります。講義資料、テキストを復習してください。 実習事前準備として学習をし、積極的に実習に取り組んでください。 課題に沿ってレポートを作成し、実習の振り返りを行ってください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>看護学臨地実習ガイドブック在宅看護論実習2017年度</p>	<p>在宅看護論、在宅看護論</p>

備考

科目名	総合看護実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	1	4年	前期
担当者名	原田 博子、看護学科教員	関連する資格		

授業概要

これまでの病院や施設または行政での実習を通して見出した自らの課題を明確にした上で、主体的に実習をすすめ、さらに実践能力を高める。

到達目標

- 1．看護チームメンバーが協力し、効率的に看護を展開していくための、目標共有、役割分担、情報伝達のありようを理解する。
- 2．看護チームの目標達成に向けたチームメンバー間のコーディネートのあるありようを理解する。
- 3．ヒューマン・ケアリングの視点から施設の特徴を見出し、看護チームのチームケアの課題や強みを見出し、その根拠および解決策を考え提示する。
- 4．看護技術の構成要素を看護実践の中から考察する。

成績評価方法

60点以上で単位認定とする。
臨地実習は、目標達成状況、レポート、実習態度などを総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>別冊：看護学臨地実習ガイドブック参照</p>	
授業外学習	
<p>事前に技術試験を実施するため今まで学習した内容から本実習に必要な技術を復習し習熟しておくこと、実習内容については、別途オリエンテーションを設ける 実習終了後記録のまとめを要する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>看護管理、医学書院</p>	<p>看護管理、各領域臨地実習、総合看護実習</p>

備考

科目名	総合看護実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	1	4年	後期
担当者名	原田 博子、看護学科教員	関連する資格		

授業概要

総合看護実習 での学びをさらに深め、看護の対象（患者）を多角的・統合的に把握し、対象の健康上・看護上のニーズを充足させるための援助を展開する。1年次から学んだ看護の集大成として、看護技術や知識を再確認し、実践に応用できる能力を養うとともに自らの看護観をまとめる。

到達目標

1. チームの一員として看護師と一緒に行動し、チームリーダーとメンバーの役割を把握する。
2. 看護職の役割や責任、倫理について考察し、自己の看護観をまとめる。

成績評価方法

臨地実習100点、知識試験100点として、各々60点以上で合格とする。
 臨地実習は、実習目標の達成状況、レポート、実習態度を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要		アクティブラーニング
<p>別冊：看護学臨地実習ガイドブック参照 最終まとめの際には、実習グループ毎のまとめのグループワークをします。</p>		
授業外学習		
<p>臨地実習に必要な学習を行うこと。</p>		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
<p>看護管理医学書院</p>	<p>各領域臨地実習 総合看護実習</p>	

備考

科目名	研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	3年	後期
担当者名	江藤 真紀、佐藤 美幸、安成 智子	関連する資格		

授業概要

研究の意義、研究の倫理、ならびに研究方法を学び、研究 において研究を実施するために必要な知識を習得する。また、これまでの学習を通して芽生えた問題意識を研究テーマへと発展させ、研究計画書を作成し、課題を探究するために必要な研究の方法の基礎を学ぶ。

到達目標

研究の意義を述べることができる
 研究における倫理的問題を述べることができる
 必要な文献を検索し、文献を有効利用できる
 研究計画書の作成方法を述べることができる

成績評価方法

試験・レポート課題および出席状況・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							10
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 研究とは何か、看護における研究の意義、研究課題の明確化	
2) 文献の検索と文献検討	
3) 概念枠組み	
4) 研究デザイン1(実験研究)	
5) 研究デザイン2(調査研究)	
6) 研究デザイン3(質的研究)	
7) 研究デザイン4(事例研究)	
8) 研究の倫理的問題	
9) 研究計画書	
10) データの整理の仕方、分析	
11) 論文の書き方、まとめ方	
12) 文献のクリティーク	レポート グループワーク
13) 研究の領域について	
14) 研究課題を探す	グループワーク
15) まとめ	グループワーク
授業外学習	
毎回テキストを熟読してきてください。また、必要に応じて図書館で文献検索を行ってください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
山口瑞穂子、石川ふみよ編：ひとりで学べる看護研究、照林社 【参考書】南裕子編：看護における研究、日本看護協会出版会、2008/黒田裕子：看護研究step by step Gakken	全ての既習科目

備考

科目名	研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	2	4年	通年(前期)
担当者名	江藤 真紀、看護学科教員	関連する資格		

授業概要

課題解決学習の集大成として、約1年間かけて、科学的な思考や論理的表現方法、倫理的配慮の方法を学び、研究計画書へつなげていく。看護実践における研究を遂行するための基礎的な能力を身につける。

到達目標

自らの研究テーマを設定できる
 研究テーマをもとに先行文献を探し、クリティークができる
 研究テーマから研究計画書を作成できる
 研究における倫理的問題を述べるができる

成績評価方法

研究計画書、授業態度、参加度、貢献度

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							60	
授業態度・授業参加度							20	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習							20	
実習								

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 指導教員による個別・グループ指導（別紙、研究要項による）		
2)		
3)		
4)		
5)		
6)		
7)		
8)		
9)		
10)		
11)		
12)		
13)		
14)		
15)		
授業外学習		
指導教員より指示		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
山口瑞穂子、石川ふみよ編：ひとりで学べる看護研究、照林社 【参考書】南裕子編：看護における研究、日本看護協会出版会、2008/近藤潤子監修：看護研究、医学書院/ 黒田裕子：看護研究step by step Gakken	全ての既習科目	

備考

自主的・積極的に指導を受けること。

科目名	研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	2	4年	通年(後期)
担当者名	江藤 真紀、看護学科教員	関連する資格		

授業概要

課題解決学習の集大成として、約1年間かけて、科学的な思考や論理的表現方法、倫理的配慮の方法を学び、研究計画書へつなげていく。看護実践における研究を遂行するための基礎的な能力を身につける。

到達目標

自らの研究テーマを設定できる
 研究テーマをもとに先行文献を探し、クリティークができる
 研究テーマから研究計画書を作成できる
 研究における倫理的問題を述べるができる

成績評価方法

研究計画書、授業態度、参加度、貢献度

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							60	
授業態度・授業参加度							20	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習							20	
実習								

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 指導教員による個別・グループ指導（別紙、研究要項による）		
2)		
3)		
4)		
5)		
6)		
7)		
8)		
9)		
10)		
11)		
12)		
13)		
14)		
15)		
授業外学習		
指導教員より指示		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
山口瑞穂子、石川ふみよ編：ひとりで学べる看護研究、照林社 【参考書】南裕子編：看護における研究、日本看護協会出版会、2008/近藤潤子監修：看護研究、医学書院/ 黒田裕子：看護研究step by step Gakken	全ての既習科目	

備考

自主的・積極的に指導を受けること。

科目名	公衆衛生看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	4	3年	前期
担当者名	立川 美香、江藤 真紀、山崎 千鶴 代、滝川 洋子	関連する資格		

授業概要

- ・人びとが自らの健康状態を認識し、健康の保持増進を図ること（セルフケア力の向上）を支援するための保健指導方法の基本的考え方と実践方法について演習等を通して学ぶ。
- ・集団における教育方法の基本的考え方と実践方法についてグループワーク等を通して学ぶ。
- ・地域の人びとや医療、福祉などの他職種、機関との協働のあり方とその実践方法を学ぶ。

到達目標

- ・地域住民に対する個別的指導方法を理解し、説明できる。
- ・対象別に必要な集団保健指導方法を理解し、説明できる。
- ・対象が必要とする健康教育を実践するためのプロセスを理解し、演習としてグループワークを経てプレゼンテーションができる。
- ・地域の人びと、関係者・機関との協働について理解し、説明できる。

成績評価方法

- 授業態度・授業参加度（10%）
 グループワーク・プレゼン（20%）
 レポート内容（10%）
 定期試験結果（60%）
 上記を基準として総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 地域で展開される公衆衛生看護活動の実際	グループワーク レポート
2) 公衆衛生看護活動の展開方法、公衆衛生看護活動の場、対象、健康レベル	
3) 保健指導（目的・対象・技術）	
4) 健康相談（目的・対象・技術）	
5) 健康相談の場面と面接技術・実践・評価・フォローアップ	
6) 健康診査の目的・対象・技術・進め方	
7) 家庭訪問の目的・対象・看護過程の展開	レポート
8) 家庭訪問における家族の捉え方とエコマップ	
9) 家庭訪問 演習（グループワーク）	グループワーク
10) 家庭訪問 演習（グループワーク）	グループワーク
11) 家庭訪問 演習（グループワーク）	グループワーク
12) 家庭訪問 演習（グループワーク）	グループワーク
13) 家庭訪問 演習（グループワーク）	グループワーク
14) 家庭訪問 演習（プレゼンテーション：エコマップ）	プレゼンテーション
15) 家庭訪問 演習（プレゼンテーション：訪問場面）	プレゼンテーション
16) 家庭訪問 演習（プレゼンテーション：訪問場面）	プレゼンテーション
17) 健康教育の目的・対象・技術・進め方	
18) 健康教育の理論と実践	
19) 健康教育 演習（グループワーク）	
20) 健康教育 演習（グループワーク）	

21) 健康教育 演習 (グループワーク)	
22) 健康教育 演習 (グループワーク)	
23) 健康教育 演習 (中間プレゼンテーション)	
24) 健康教育 演習 (グループワーク)	
25) 健康教育 演習 (グループワーク)	
26) 健康教育 演習 (グループワーク)	
27) 健康教育 演習 (プレゼンテーション)	
28) 健康教育 演習 (プレゼンテーション)	
29) 地域組織活動の展開	
30) セルフヘルプグループ活動とその支援	

授業外学習

授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきてください。また、授業後はテキスト該当単元を復習してください。グループワークに必要な知識の強化と資料収集をしてください。また、グループワークの時間内に円滑な学習経過が迎れない場合は、次回のグループワークまでに遅延を取り戻してください。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
開講時に示す。	公衆衛生学、公衆衛生看護概論、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、憲法・人権論、地域社会学、生涯発達心理学、人間関係論、保健医療福祉行政論、家族論・家族関係論

備考

--

科目名	公衆衛生看護学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	4	3年	前期			
担当者名	滝川 洋子、立川 美香、江藤 真紀、山崎 千鶴代、尾家 重治、新開 奏 恵		関連する資格	保健師			
授業概要 ライフサイクル（母子・成人・高齢者）に応じた保健活動や健康問題（精神・感染症・難病・障害児者等）に対する保健活動、社会集団（学校・産業）を対象とした保健活動等の法的根拠や政策をもとに、それぞれの対象への保健指導の基本や実践について講義、グループ学習（学生相互の学び合い）・プレゼンなどを通して理解する。							
到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 対象別保健の動向・施策や制度が理解できる。 対象別の健康課題と保健指導の内容が理解できる。 産業保健の職域の特徴と対象者の健康課題が理解できる。 産業保健における保健師の職務と役割が理解できる。 学校保健の対象と健康課題が理解できる。 学校保健における養護教諭の職務と役割が理解できる。 住民の健康の保持増進の為に保健師の役割や職域との連携・協働が理解できる。 			成績評価方法 ・出席状況、授業態度、プレゼン、グループワーク、演習、試験結果等を総合して評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							10
グループワーク							5
演習							5
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 母子保健活動；母子保健指導の動向	
2) 母子保健活動；母性各期の健康課題と保健指導	
3) 母子保健活動；乳幼児期の成長発達と保健指導	プレゼンテーション グループワーク
4) 母子保健活動；ハイリスクの母子への保健指導	
5) 成人保健活動；成人保健の動向	プレゼンテーション グループワーク
6) 成人保健活動；成人期の保健活動・保健指導	
7) 高齢者保健活動；高齢者保健の動向	プレゼンテーション グループワーク
8) 高齢者保健活動；高齢者の生活と保健指導	
9) 高齢者保健活動；在宅要援護高齢者と家族への保健指導	プレゼンテーション グループワーク
10) 精神保健活動；精神保健の動向	
11) 精神保健活動；精神障害者の生活上の障害と保健指導	プレゼンテーション グループワーク
12) 精神保健活動；社会病理を背景とする主な疾患	
13) 障害者（児）保健活動；障害者保健の動向	プレゼンテーション グループワーク
14) 障害者（児）保健活動；障害者保健施策と保健活動	
15) 難病保健活動；難病対策の動向	プレゼンテーション グループワーク
16) 難病保健活動；難病患者の生活と保健指導	
17) 感染症保健活動；感染症保健の動向	
18) 感染症保健活動；感染症保健施策と保健活動	
19) 感染症保健活動；疾病管理	
20) 感染症保健活動；感染症集団発生	演習

21) 歯科保健活動；歯科保健の動向と保健活動の実際	
22) 産業保健活動；産業保健の動向	
23) 産業保健活動；産業保健の制度とシステム	
24) 産業保健活動；産業保健における健康課題	
25) 産業保健活動；産業保健の展開	
26) 学校保健活動；学校保健の動向	
27) 学校保健活動；学校保健の制度とシステム	
28) 学校保健活動；学校保健・看護の現状と健康課題	
29) 学校保健活動；養護教諭の職務と保健室の機能	
30) 総括	

授業外学習

・事業計画に沿って、テキストの該当単元を予習し、授業終了後復習しておくこと。
 ・第2回にプレゼンテーションの課題をいくつか提示、その中から自ら選択し、レポート作成すること。レポートに沿って、授業開始時発表、その後発表内容についてグループ討議を行う。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
開講時に示す	保健医療福祉行政論、疫学保健統計、公衆衛生学、社会保障論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、栄養と運動

備考

--

科目名	公衆衛生看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	江藤 真紀、立川 美香、滝川 洋子	関連する資格		

授業概要

地域に顕在あるいは潜在している健康問題の把握方法、地域看護診断に基づく活動計画と評価、さらに住民ニーズの施策化など、組織的に解決する方法について学習する。また、地域の人々が自ら健康問題を意識し、主体的に問題解決ができるようになるためのグループの育成支援の方法や地域ケアシステムづくりについて学習する。そのための学習手段として、グループワークや学生間での意見交換等を積極的に導入する。

到達目標

- ・地域看護診断の方法を理解し、地域の健康課題をアセスメントできる。
- ・看護活動の計画・実践・評価について理解できる。
- ・事業計画の策定、進行管理、評価の方法が理解できる。
- ・公衆衛生看護管理の目的およびその機能を理解できる。
- ・健康危機管理・リスクマネジメントについて理解できる。

成績評価方法

授業態度・授業参加度（10点）
 グループワーク（30点）
 レポート（10点）
 定期試験（50点）
 上記を基準として総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							15
グループワーク							15
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 公衆衛生看護活動論	
2) 公衆衛生看護活動の発生源と考え方	
3) 公衆衛生看護の概念・機能・対象・活動の場	
4) 公衆衛生看護の概念・機能・対象・活動の場	
5) 公衆衛生看護学での看護過程の使い方	
6) 地域看護診断の概念と理論	
7)	
8) 地域の捉え方と地域看護診断の考え方	
9) 地域看護診断 演習	グループワーク
10) 地域看護診断 演習	グループワーク
11) 地域看護診断 演習	グループワーク
12) 地域看護診断 演習	グループワーク
13) 地域看護診断 演習	中間プレゼンテーション
14) 地域看護診断 演習	グループワーク
15) 地域看護診断 演習	グループワーク
16) 地域看護診断 演習	グループワーク
17) 地域看護診断 演習	グループワーク
18) 地域看護診断 演習	グループワーク
19) 地域看護診断 演習	グループワーク
20) 地域看護診断 演習	プレゼンテーション

21) ヘルスケアシステムの概要	
22) 保健計画と実践（福祉政策含む）	
23) 地区視診 演習	プレゼンテーション
24) 地区視診 演習	プレゼンテーション
25) 地域看護診断の概要解説	
26) 公衆衛生看護管理の概念・目的・機能	
27) ヘルスプロモーションの概要と実践	
28) 公衆衛生看護管理：業務管理と情報管理	
29) 公衆衛生看護管理：予算管理・人材管理・人材育成	
30) 公衆衛生看護管理：健康危機管理	

授業外学習

授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきてください。また、授業後はテキスト該当単元を復習してください。グループワークに必要な知識の強化を図ってください。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
開講時に示す。	公衆衛生学、疫学、保健統計、保健福祉行政論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、データの科学的な見方

備考

科目名	公衆衛生看護学実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	1	3年	後期			
担当者名	立川 美香、江藤 真紀、山崎 千鶴 代	関連する資格					
授業概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族及び集団の健康課題への支援を通して地域看護診断を行い、地域の健康課題を明確にするための実際について学ぶ。 ・ 地域の人びとの健康課題への支援のための事業計画立案を実際に学ぶとともに、保健活動に参加し、支援の実際について学ぶ。 ・ 地域の健康課題の解決に向けた健康教育の計画・実施・評価までの実際を学ぶ。 ・ 常に意見交換を実施し、グループダイナミックスを最大限活用する。 							
到達目標 対象（個人・家族・集団）に対して、根拠に基づいた健康相談、家庭訪問、健康教育等の手法を用いた健康問題の解決への支援を理解することができる。 を通して、地域看護診断の必要性や集団・組織・地域社会への保健活動を思案することができる。				成績評価方法 態度・参加度（10点）、実習前・中の態取組状況（30点）、記録物（50点）、その他提出物（10点）で総合評価をする。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（%）
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要		アクティブラーニング
別冊：看護学臨地実習ガイドブック参照		
授業外学習		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
	公衆衛生学、疫学・保健統計、保健福祉行政論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、データの科学的な見方	

備考

科目名	公衆衛生看護学実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	3	4年	前期			
担当者名	江藤 真紀、立川 美香		関連する資格				
授業概要 <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民全体の健康の保持増進を目的とした、公衆衛生看護の基本理念と活動の特性を理解し、看護専門職として保健サービスを提供できる基礎的能力を育成する。 ・市保健センターにおいて、地域の健康課題およびヘルスニーズ、活動の方法、地域ケアシステムの概要を学ぶ。更に、健康問題の社会的諸条件についての理解を深め、地域における健康に関連する問題を組織的に解決する公衆衛生看護の活動方法を理解する。 ・常に意見交換を実施し、グループダイナミックスを最大限活用する。 							
到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・市における保健・医療・福祉システムを学び、保健師の役割と活動内容を理解する。 ・市における健康に関する情報を収集し、地域の健康問題を解決する方法やその過程を理解する。 ・直接的な支援（訪問指導、健康教育等）を学習する。 ・保健師としての態度を身につける。 			成績評価方法 態度・参加度（10点）、実習前・中の態取組状況（30点）、記録物（50点）、その他提出物（10点）で総合評価をする。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（%）
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要		アクティブラーニング
別冊：公衆衛生看護学実習 ・ ガイドブック参照		
授業外学習		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
	公衆衛生学、疫学・保健統計、保健福祉行政論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、データの科学的な見方、公衆衛生看護学実習	

備考

科目名	公衆衛生看護学実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	1	4年	前期			
担当者名	江藤 真紀、立川 美香		関連する資格				
授業概要 <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民全体の健康の保持増進を目的とした、公衆衛生看護の基本理念と活動の特性を理解し、看護専門職として保健サービスを提供できる基礎的能力を育成する。 ・保健所の活動の方法、地域ケアシステムの概要を学ぶ。更に、健康問題の社会的諸条件についての理解を深め、地域における健康に関連する問題を組織的に解決する公衆衛生看護の活動方法を理解する。 ・保健所における健康危機管理の現状と保健師の活動と役割について学ぶ。 ・常に意見交換を実施し、グループダイナミックスを最大限活用する。 							
到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・保健所の機能及び役割を理解する。 ・保健所保健師の役割と、保健所で働く他職種の活動内容を理解する。 ・保健所管轄地域の健康に関する情報を収集し、地域の健康問題を解決する方法やその過程を理解する。 ・地域の健康問題に対して、保健所で実施している対人サービスを学習する。 ・保健師としての態度を身につける。 			成績評価方法 態度・参加度（10点）、実習前・中の態取組状況（30点）、記録物（50点）、その他提出物（10点）で総合評価をする。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
別冊：公衆衛生看護実習 ・ ガイドブック参照		
授業外学習		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
	公衆衛生学、疫学・保健統計、保健福祉行政論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、データの科学的な見方、公衆衛生看護学実習、公衆衛生看護学実習	

備考

科目名	教育職研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	伊藤 一統	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

現代の学校教育において、社会情勢の変化もあって、教職の役割の多様性、重要性の高まりが著しい。そうした中での教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について概説し、それらの基本的な理解をすすめる。また、法令等で定められる「教育職員（教員）」の責務を踏まえ、教職に携わる者に相応しい資質や知識・技能の獲得を図り、教職に携わる者としてふさわしい教育観を有し、力量の形成を行うことができるようになる。そのうえで、教職という職業について、自分の適性、能力等について考え、進路選択について考える。

到達目標

教育職に就く際に際して必要な基本的内容を理解する。
 今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。
 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解し、適切な子ども観、教育観を持つ。
 学校内外での連携・協働をすることで現代の学校を取り巻く状況に対応することの重要性を理解する。
 教職に関して得た技能や知識を活用して、教育に関して考えることができる。

成績評価方法

提出物、受講態度、試験等を総合して評価する。
 試験60%、提出物20%、ワーク20%を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○						60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○					20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク		○	○				20
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション ・受講に際しての留意事項 ・本講義の目指すところ	
2) 学校教育の位置づけ ・公教育としての学校教育	
3) 職業としての教員 ・仕事をするということ ・教員の職業的特性	
4) 教員を取り巻く制度（１） ・学校教育の法制度上の位置と教員	
5) 教員を取り巻く制度（２） ・教員に関する法制度	
6) 教員の職務とサービス（１） ・教員としての職務の概要 ・サービス上・身分上の義務及び身分保障	
7) 教員の職務とサービス（２） ・学校組織の中の教員 ・教員としての職能向上・教員研修の重要性	
8) 教育職における連携・協働（１） ・子ども理解や教育相談への対応（教員間SCやSSWr等の専門家との連携）	
9) 教育職における連携・協働（２） ・児童生徒の健康・安全への対応（学校運営協議会（コミュニティスクール）やNPO、地域組織等との連携）	
10) 学校現場における養護教諭の職務・役割 ・ラウンドテーブル 現職養護教諭に聞く会	外部講師（予定）
11) 学校現場における養護教諭の職務・役割 ・ラウンドテーブル 現職養護教諭に聞く会	外部講師（予定）
12) 教職観と教員の力量（１） ・教師文化と倫理・教員として求められる能力／使命感や責任感、教育的愛情／社会性や対人関係能力／生徒理解や学級経営	
13) 教職観と教員の力量（２） ・授業を創る力量／教科の理解／保健授業案	
14) 学校教育の現状と教職 ・学校評価・教員評価の現状 ・学校評議会／教育委員会／教員研修	
15) まとめ～教職への道、教職としての道 ・求められる教員像 ・教員採用／教職としての人生	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 「はじめて学ぶ教職論」ミネルヴァ書房（予定） 参考資料 プリント資料を配布する。 参考文献は、授業中に適宜紹介する。	教職科目 養護教諭専門科目 教職実践演習

備考

外部講師による講義は、日程変更の可能性があります。

科目名	教育課程論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	伊藤 一統	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

学校教育における教育課程の位置づけ・意義等についての基礎的知識を習得する。
それを踏まえて教育課程の意義、重要性、編成・実施・評価・改善等に関して学習し、学習指導要領に基づいて地域や各学校の特色を生かして教育課程の編成を行うことが出来るようになることを目指す。

到達目標

学校教育における教育課程の位置づけや意義を理解する。
学習指導要領に基づいた教育課程の編成について学ぶ。
学校教育の基本的構造を理解し、指導計画・学習内容の創意工夫を考察する。

成績評価方法

試験60%、提出課題等20%、授業内ワーク等20%

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 授業の概要・受講に際する留意事項 教育課程を学ぶ意義	
2) 学習指導要領の性格と教育課程の位置づけ	
3) 教育課程の意義と社会・生活	
4) 教育課程の編成原理	
5) 教育内容の選択と教育課程	
6) 教育課程と教育環境	
7) カリキュラム・マネジメント	
8) 教育課程の評価と改善	
9) 各学校種の教育課程	
10) 効果的な教育活動と教育課程	
11) 地域や学校の特性と教育課程の実際	
12) 教育課程の歴史	
13) 学習指導要領の変遷	
14) 教育課程改革の動向	
15) まとめ これからの教育と教育課程	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p><テキスト> 「よくわかる教育課程 第2版」ミネルヴァ書房</p> <p><参考書> 文部科学省「幼稚園教育要領解説」「小学校学習指導要領解説」「中学校学習指導要領解説」「高等学校学習指導要領解説」 その他 適宜、講義中において紹介する</p>	教育方法の研究

備考

科目名	教育原理						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	1年	後期			
担当者名	白石 義孝		関連する資格	養護教諭1種免許状			
授業概要 教育の意義と目的を理解し、教育に携わるものとしての基本的な教育学の考え方や態度を身につけるとともに、現代の教育が抱える教育問題について考察し、主体的に問題解決に取り組めるよう深い見識を養う。そのため子どもを見る視点、学力やジェンダーなどの課題、学校の在り方などの多様なトピックを扱う。これらを通して、教育への関心を高め、将来の目指すべき教師像の形成の足掛かりとする。							
到達目標 1. 教育の基本的概念を身に付け、教育を成り立たせる諸要因との相互関係を理解できる。 2. 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関りや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解できる。 3. 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関りを理解できる。			成績評価方法 定期試験(60%)、授業態度・授業参加度(20%)、レポート(20%)				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	○						60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート				○			20
授業態度・授業参加度		○	○	○	○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション - 教育とは何か? (教育を考える視点の概説)	グループワーク プレゼンテーション
2) 人間にはなぜ教育が必要なのか考える	グループワーク プレゼンテーション
3) 教育を社会の視点から考える (競争社会・格差社会)	グループワーク プレゼンテーション
4) 子どもという存在 (教育の思想にみる子どもの発見と人間の育ち)	グループワーク プレゼンテーション
5) 教育の方法の歴史 (家庭・社会・学校における教育の理論と実践)	グループワーク プレゼンテーション
6) 教育を受ける権利とは (教育の機会均等と子どもの権利)	グループワーク プレゼンテーション
7) 子どもの学びを支える仕組み (学校と教育行政の組織と運営)	グループワーク プレゼンテーション
8) 「子どものための学校」に求められること (地域社会との連携・協働)	グループワーク プレゼンテーション
9) 学校では何を学ぶのか (教育課程と学習指導要領)	グループワーク プレゼンテーション
10) よい先生について考える (教員養成制度と理想的な教師像)	グループワーク プレゼンテーション
11) 子どもとのかかわり方について考える	グループワーク プレゼンテーション
12) 子どもの「学び」について考える	グループワーク プレゼンテーション
13) 生涯学び続けられる社会とは (生涯学習・社会教育・大学開放)	グループワーク プレゼンテーション
14) 教育と学校の未来について考える	グループワーク プレゼンテーション
15) 総括 (授業全体の振り返り、レポート作成)	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
テキストの中に出てくる重要事項について事前に調べておく	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 問いからはじめる教育学 (勝野正章・庄井良信著、有斐閣) 参考書・参考資料等 必要に応じて適宜紹介、配布する	教育職研究、教育課程論、教育方法の研究、特別活動の研究、 教育社会学、学校体験活動 ボランティアと社会

備考

科目名	教育社会学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	白石 義孝	関連する資格	養護教諭1種免許状	

授業概要

教育社会学の理論および方法、また具体的な研究成果の現状について、受講者によるテキスト概要の報告と質疑応答により知識の定着をはかる。
 様々な教育活動は社会全体の動きと無関係ではない。本講義では、教育社会学という学問領域の特徴を学ぶことにより、教育と社会の関わりについて考えることのできる素養を養う。受講者が各人の学校体験を無責任に「熱く」語るのではなく、報告の分担を通じて、冷静な事実認識ができるように、社会学的な「目」を培うことを目的とする。

到達目標

1. 社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる問題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解できる。
2. 学校と地域の連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解できる。
3. 学校の管理下で起きる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づき、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解できる。

成績評価方法

定期試験(40%)、小テスト、授業内レポート(10%)、宿題、授業外レポート(30%)、プレゼンテーション(20%)

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	○	○		○			40
小テスト、授業内レポート	○	○		○			10
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		20
グループワーク		○	○		○		
演習		○	○		○		
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：授業の進め方	グループワーク プレゼンテーション
2) 学校と社会をめぐる様々な状況の変化	グループワーク プレゼンテーション
3) 高学歴社会における教育機会と費用負担	グループワーク プレゼンテーション
4) 子どもの貧困について考える	グループワーク プレゼンテーション
5) 新学習指導要領にみる学校教育の変化	グループワーク プレゼンテーション
6) 国際化と小学校英語必修化について考える	グループワーク プレゼンテーション
7) 諸外国の教育制度（我が国との違い）	グループワーク プレゼンテーション
8) 少子高齢社会における学校の変化	グループワーク プレゼンテーション
9) 教育から職業への移行と就職活動	グループワーク プレゼンテーション
10) 少年犯罪といじめ問題について考える	グループワーク プレゼンテーション
11) 学校と地域との連携の意義と協働の仕方	グループワーク プレゼンテーション
12) 開かれた学校づくりへの取り組み	グループワーク プレゼンテーション
13) 学校における事件・事故の現状と課題	グループワーク プレゼンテーション
14) 学校における安全管理と安全教育の取り組み	グループワーク プレゼンテーション
15) 総括（授業全体の振り返り、レポート作成）	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 半径5メートルからの教育社会学（片山悠樹ほか編、大月書店） 参考書・参考資料等 ・学習指導要領（小学校・中学校・高等学校） 講義中において適宜紹介する。	教育原理、教育方法の研究、ボランティアと社会

備考

科目名	特別活動の研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	吉岡 一志	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

特別活動は学校生活の中でもとくに印象深く我々の記憶の中に残っている。当時の記憶やこれまでの議論を辿りながら、特別活動とは何か、なぜ子どもたちの心を惹きつけるのかを教科教育や総合的な学習の時間など学校における様々な活動との関連を踏まえて検討する。このことを通して、特別活動の歴史や今日的意義を捉え、教育課程のなかの特別活動の位置づけを俯瞰するとともに、これらの理論を踏まえ、実践に向けた方法的視点を深める。

到達目標

- 1．特別活動の意義と内容及び特別活動と教科等との関連を理論的に理解することができる。
- 2．実践のための方法的視点や具体的手立てを深めることができる。

成績評価方法

授業態度、レポート、プレゼンテーション等の成績を総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							40
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							40
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション ガイダンス、特活の概説	グループワーク
2) 特別活動の今日的課題 現代社会の課題から特活の意義を考える	グループワーク
3) 特別活動の内容 学習指導要領から特活の内容を整理する	グループワーク
4) 特別活動の方法 集団に関する理論を整理して実践する	グループワーク
5) 小括1 授業内容を振り返り、小レポートの作成をする	レポート作成
6) 「個性」を考える 理論を踏まえ、個性形成に資する活動を実践する	グループワーク
7) 「主体性」を考える 映画を見ながら、主体性に関する理論を整理する	グループワーク
8) 子ども集団と教師 仲間集団と教師の関係をゲームをしながら確認する	グループワーク
9) 求められる教師像 教師が登場する漫画を分析し、あるべき教師像を模索する	グループワーク
10) 小括2 授業内容を振り返り、小レポートの作成をする	レポート作成
11) 特別活動の歴史と変遷 特活の歴史を確認し、現代の活動を相対化する視点を見出す	グループワーク
12) 学習発表会を計画しよう 学習指導要領から教育目標を定めて、指導案を作成する	グループワーク
13) 学習発表会の準備しよう 発表会準備を通して計画の問題点を探り、改善する	グループワーク
14) 学習発表会 学習の成果を発表し、評価する視点を養う	グループワーク プレゼンテーション
15) 総括 授業内容を振り返り、小レポートの作成をする	レポート作成
授業外学習	
特別活動に関する様々な理論を講義中に紹介する予定です。難解な理論も多いので、必ず復習すること。また、適宜参考文献を紹介するので、興味がある理論については文献を読んでもらうこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説・特別活動編 必要に応じて資料を配布予定	教職科目

備考

科目名	教育方法の研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	白石 義孝	関連する資格	養護教諭1種免許状	

授業概要

子どもや学校を取巻く環境の大きな変化にともない、学校教育の内容・方法も問われている。これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるために、学校教育における教える・学ぶ活動を中心に据え、そこで展開されるさまざまな形態や方法・技術・手法について事例紹介とワークを踏まえて学んでいく。さらに、今日における教育目的・内容と教育方法を考察し、アクティブラーニング、学習環境のデザイン、ICTの活用、教育の質的評価などといった小中学校から大学まで、今日の教育者に必要とされる最新の教育技術を理解する。

到達目標

1. これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解できる。
2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付けることができる。
3. 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付けることができる。

成績評価方法

定期試験（40％）、小テスト、授業内レポート（10％）、宿題、授業外レポート（30％）、プレゼンテーション（20％）

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							20
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：授業の進め方	グループワーク プレゼンテーション
2) 教えること・学ぶこと（学習観、教授・指導観、知識観）	グループワーク プレゼンテーション
3) 集団に対して教えることの工夫と技術	グループワーク プレゼンテーション
4) 個人に対して教えることの工夫と技術	グループワーク プレゼンテーション
5) アクティブラーニングの必要性と課題教材研究の方法	グループワーク プレゼンテーション
6) アクティブラーニングの手法を用いた授業デザインを考える	グループワーク プレゼンテーション
7) 学びを育む学習環境デザインを考える	グループワーク プレゼンテーション
8) ICT活用の基本的理念	グループワーク プレゼンテーション
9) 教育方法としてのICT活用	グループワーク プレゼンテーション
10) ICTを活用した教育プログラムの作成	グループワーク プレゼンテーション
11) ICTを活用した教育プログラムの発表	グループワーク プレゼンテーション
12) テストの形式と教育評価の種類	グループワーク プレゼンテーション
13) 教育活動の振り返り（理論と実践）	グループワーク プレゼンテーション
14) 教育実践の質的研究方法	グループワーク プレゼンテーション
15) 総括（授業全体の振り返り、レポート作成）	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト ・教育の方法と技術（田中俊也編、ナカニシヤ出版） 参考書・参考資料等 ・学習指導要領（小学校・中学校・高等学校） この他必要に応じて適宜紹介、配布する	教育原理、教育社会学、ボランティアと社会

備考

科目名	生徒指導の研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	脇 貴典	関連する資格		

授業概要

近年、学校現場においていじめ、不登校など多くの問題が起こっており、学校教育で生徒指導の果たす役割の重要性が増している。そこで、本講義では、生徒指導の意義、原理、方法についての理解を深め、今日の生徒指導上の諸問題に適切に対応できる能力の育成をめざすことを目的とする。授業では、生徒指導の基本的な姿勢や取り組み方等について、グループディスカッションや、具体的事例や実践例をもとに検討し理解を深める。

到達目標

生徒の問題行動の背景を理解し自分なりに説明ができる。
 学校教育の現場において生徒指導の果たす役割の重要性を理解する。
 生徒指導上の諸問題に適切な対応が理解できる。

成績評価方法

授業内レポート
 全ての授業終了後指定のテーマで作成したレポート

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							30
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 生徒指導とは		授業内レポート
2) 生徒指導の基本的な考え方		グループディスカッション 授業内レポート
3) 生徒指導の方法・原理		グループディスカッション 授業内レポート
4) 生徒指導体制の確立と運営		グループディスカッション 授業内レポート
5) 児童生徒理解・教育相談の考え方と方法		グループディスカッション 授業内レポート
6) 学校におけるカウンセリングの実際		グループディスカッション 授業内レポート
7) 「いじめ」問題の理解		グループディスカッション 授業内レポート
8) 「いじめ」問題への取り組み		グループディスカッション 授業内レポート
9) 「いじめ」への対応		グループディスカッション 授業内レポート
10) 「不登校」問題の理解		グループディスカッション 授業内レポート
11) 「不登校」問題への取り組み		グループディスカッション 授業内レポート
12) 「不登校」への対応		グループディスカッション 授業内レポート
13) 児童生徒の問題行動の理解		グループディスカッション 授業内レポート
14) 児童生徒の問題行動への対応		グループディスカッション 授業内レポート
15) 総括		グループディスカッション 授業内レポート
授業外学習		
配布する資料について、熟読しておく。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
その都度プリントを配布		

備考

オフィスアワー：集中講義時の昼休み

科目名	健康相談活動			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	新開 奏恵、佐伯 里英子	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

学校教育の現場で児童、生徒の抱えるストレスや悩み等から起こる心身の健康問題、不登校等の現状について理解し、その対応について理論と事例検討を通して学ぶ。

到達目標

- ・養護教諭が行う健康相談の意義について理解する。
- ・健康相談の理論を学び、方法について考える。
- ・事例検討を通して、児童生徒への対応について考え、学び合いができる。
- ・養護教諭が行う健康相談の意義について理解する。
- ・健康相談の理論を学び、方法について考える。
- ・事例検討を通して、児童生徒への対応について考え、学び合いができる。

成績評価方法

授業態度、グループワーク参加度、宿題、レポート、定期試験により評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	10	10		5			25
小テスト、授業内レポート	10						10
宿題、授業外レポート					10		10
授業態度・授業参加度			10		10		20
プレゼンテーション			10	10			20
グループワーク							
演習	5	5		5			15
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション ・健康相談の目的と意義について、複数の文献を参考にGWで話し合う	グループワーク
2) 社会の変化と子どもの健康問題の変遷、子どものヘルスニーズについて文献を基に、GWで整理する	グループワーク
3) 発達段階別の心身の健康問題の特徴を理解し、健康相談の実践事例について学ぶ	レポート
4) グループでケースを決め、健康相談のロールプレイのシナリオづくりをする	グループワーク
5) グループで作ったシナリオにしたがって、ロールプレイを行い全体で評価し合う	グループワーク 演習
6) 体調不良による頻回来室における健康相談についてGWで検討し発表する	グループワーク プレゼンテーション
7) けがやスポーツ障害のケースにおける健康相談についてGWで検討し発表する	グループワーク プレゼンテーション
8) 友だち関係のトラブルやいじめにおける健康相談についてGWで検討し発表する	グループワーク プレゼンテーション
9) 特別支援教育について学び、障がいをもつ子どものケースにおける健康相談についてGWで検討する	グループワーク レポート
10) 発達障害、学習障害をもつ子どものケースにおける健康相談についてGWで検討し発表する	グループワーク プレゼンテーション
11) アレルギーや慢性疾患のケースにおける健康相談についてGWで検討し発表する	グループワーク プレゼンテーション
12) 摂食障害や自傷行為のケースにおける健康相談についてGWで検討し発表する	グループワーク プレゼンテーション
13) いじめ・虐待・非行傾向生徒のケースにおける健康相談についてGWで検討し発表する	グループワーク レポート
14) 性の問題を抱える生徒のケースにおける健康相談についてGWで検討する	グループワーク レポート
15) この授業を通して学んだこと、更に努力すべきことを、振り返りを通して明らかにし、履修カルテに記録する	レポート
授業外学習	
授業内容を確認し、取り扱うケースについて事前に学んでおく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
「養護教諭の行う健康相談活動」(第11版)大谷尚子 森田光子編著 「教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き」文部科学省	学校保健、養護概論、精神保健、小児看護学、教職科目

備考

科目名	学校保健			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	友定 保博、新開 奏恵	関連する資格		

授業概要

学校教育における学校保健の目的、意義、実際の活動について理解し、学校保健安全法等に定められる学校保健管理及び学校環境衛生の概略を学習する。また、子ども及び教職員の健康と安全の保持増進を図るため、また、子どもの健康に生きる力を育むための保健管理、保健教育、保健実践活動の進め方や実際について、主としてグループワークで学ぶ。

到達目標

学校教育と学校保健の概略を理解するとともに、学校保健活動を実践していくうえで必要な各論的知識を身につける。

成績評価方法

討論や話し合いへの参加状況、授業における課題提出と定期試験により行う。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	30						30
小テスト、授業内レポート	10						10
宿題、授業外レポート		10					10
授業態度・授業参加度			10				10
プレゼンテーション				10			10
グループワーク	10		20				30
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション～学校保健とは何か？ ・学校保健の活動（事項・内容・方法等）について、これまでの体験を想起し記述。KJ法でまとめ、受講生の「学校保健」理解の現状を知る。	付箋紙1枚に1項目、思いっただけ書き出し、全員でKJ法による整理・分析
2) わが国の学校保健制度の歴史に学ぶ ・学校医制度 / 身体検査 / 学校清潔方法 / 学校看護婦の誕生 / 衛生教育	
3) 学校保健安全法を読み解く ・保健管理、環境衛生、学校安全の根拠となる法令から何を学ぶか	
4) 児童生徒に多い疾病異常、事故傷害、体力の実態 ・実態から出発し、学校保健活動の内容・方法等、対応を考える	統計資料等から問題点を捉え実践課題のグループ検討
5) 児童生徒の心身の健康状態の把握と対応 ・健康診断、健康観察、健康相談、保健指導のつながりを理解する	
6) 子どもの健康、発達の現状について統計資料等から課題を明らかにし、求められる取り組み（組織活動を含む）の内容について討論する	統計資料等から問題点を捉え実践課題のグループ検討
7) 学習指導要領に基づく学校における健康に関する指導 ・総則 / 教科（体育・保健体育）保健学習 / 総合的な学習 / 特別活動	
8) 養護教諭が行う保健学習・指導 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育を題材に ・学級や集団を対象とした保健指導の実際	保健だよりの作成演習
9) 養護教諭が行う保健学習・指導 教科書の性に関する内容を題材に ・学級担任や保健体育教師とのチームティーチング学習指導案づくり	保健だよりのコンペ 授業づくりワークシート
10) 模擬授業の実施と評価	授業評価シートで相互評価 講評
11) 模擬授業の実施と評価	授業評価シートで相互評価 講評
12) 学校環境・安全管理の内容と方法 ・学校環境衛生基準 / 学校事故災害 / スポーツ振興センター災害共済制度	
13) 学校における不審者・自然災害等の危機管理マニュアル ・養護教諭が作成する学校感染症マニュアル	学校でノロウイルス感染症（疑い）が発生したら？
14) 学校保健組織活動～異業種連携教育の推進 ・保健主事 / 学校保健委員会 / 地域保健委員会	
15) 履修カルテへの記録 ・この授業を通して学んだこと、更に努力すべきことを振り返り記録する	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
新訂版 学校保健実務必携 プリント資料	小児看護学、養護概論、養護実習指導、教職実践演習

備考

科目名	養護概論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	新開 奏恵	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

児童・生徒の心身の健康を保持増進させるために求められる、養護教諭の専門性と役割及び保健室の機能について学ぶ。また、学校保健活動においては、学校内外の関係者や関係機関との連携、ネットワークづくりが重要であり、関係職員、関係機関の特性と役割について正しく理解し、養護教諭の専門性について深く考える。さらに養護教諭の職務内容を学び、資質能力を向上するために必要な知識や理論、実践的な力量の内容について明らかにする。

到達目標

養護教諭の職務内容とその専門性を理解する。
 実際の養護活動場面を想定して、指導計画を立て、必要な教材研究を行い、自ら実施することができる。

成績評価方法

授業態度、宿題、レポート、定期試験により評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	10	10		10			30
小テスト、授業内レポート	10						10
宿題、授業外レポート		10					10
授業態度・授業参加度		10	10		10		30
プレゼンテーション			10	10			20
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション ・「養護教諭とは」について、複数の研究者や実践者の文献を読み、GWで各主張を整理し、自分なりの「養護教諭観」をレポートにまとめる。	グループワーク レポート
2) 養護教諭の歴史と役割及び保健室の歴史と機能、現在の養護教諭の職務について学び、「養護教諭観」について意見交換を行う。	グループワーク
3) 保健室経営や保健計画立案等、養護教諭の実践について事例を通して学ぶ。養護教諭の職務内容についてまとめる。	レポート
4) 学校で実際に起きている事故やけがについて調べ、アセスメントや救急処置について学び、グループで実習する。	グループワーク 演習
5) 健康診断の法的根拠、目的、内容、方法を調べ、GWで健康診断の実施計画を作成する。	グループワーク 実施計画作成
6) 健康診断の法的根拠、目的、内容、方法を調べ、GWで健康診断の実施計画を作成する。GWで作成した実施計画をまとめ、手引きを作成する。	グループワーク 実施計画作成 手引き作成
7) 子どもの健康実態について、健康診断結果等のデータから、児童生徒の健康課題を把握するための分析方法や、子どもの健康課題の改善、解決のための取り組みについて学ぶ。	レポート
8) 感染症や児童生徒が罹患することがある疾病について、その実際を学ぶ。これらの疾病をもつ児童生徒の学校における管理や、感染症対策について学ぶ。	レポート
9) 保健だよりにこめられた養護教諭の願いや思いを読み取り、保健だよりの意義や教育的役割について学ぶ。各自で保健だよりを作成し、自分の保健だよりについて全員に説明し、お互いに評価し合う。	グループワーク 保健だより作成（冬休み課題）
10) 保健だよりにこめられた養護教諭の願いや思いを読み取り、保健だよりの意義や教育的役割について学ぶ。各自で保健だよりを作成し、自分の保健だよりについて全員に説明し、お互いに評価し合う。	グループワーク 保健だより作成（冬休み課題） プレゼンテーション
11) 保健指導の実践について学ぶ。養護教諭の専門性を活かした指導について、グループでまとめ発表する。	グループワーク プレゼンテーション
12) 保健の授業案について学び、GWで短い時間で行う保健指導案を作成する。作成した指導案をもとに、各グループ毎に、短い時間での保健指導を実施し、お互いに評価し合う。	グループワーク プレゼンテーション
13) 保健の授業案について学び、GWで短い時間で行う保健指導案を作成する。作成した指導案をもとに、各グループ毎に、短い時間での保健指導を実施し、お互いに評価し合う。	グループワーク プレゼンテーション
14) 保健の授業案について学び、GWで短い時間で行う保健指導案を作成する。作成した指導案をもとに、各グループ毎に、短い時間での保健指導を実施し、お互いに評価し合う。	グループワーク プレゼンテーション
15) 保健の授業案について学び、GWで短い時間で行う保健指導案を作成する。作成した指導案をもとに、各グループ毎に、短い時間での保健指導を実施し、お互いに評価し合う。	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
授業内容を事前に確認し、テキストの該当項目に必ず目を通しておく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
「学校保健実務必携」 「新養護概説」	小児看護学 教職科目

備考

科目名	養護実習指導			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講・演	選択	1	3年	前期
担当者名	新開 奏恵、佐伯 里英子	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

事前指導では、本稿作成の「実習の手引き」をもとに、養護実習の目的、意義の理解を深めるとともに、実習に必要な知識、技術について、総合的に学び、充実した実習になるよう準備をする。
また、子どもの健康問題について考え、そこから課題を明らかにし、課題解決に向けてどのように取り組むか、実際の学校現場の実践から学ぶと共に、授業づくり、模擬授業を行う。

到達目標

- ・養護実習の目的、意義が理解でき、実習に必要な技術が習得できる。
- ・実習目標、実習計画を立てることができる。
- ・演習や模擬授業で、学生相互が学び合うことができる。

成績評価方法

グループワーク、プレゼンテーション、演習を含む授業参加態度とレポートにより行う。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	10	10					20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			10		10		20
プレゼンテーション	10			10			20
グループワーク			10		10		20
演習		10		10			20
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 「実習の手引き」をもとに、養護実習の目的、意義及び留意事項を確認する。養護教諭に求められる資質、能力についてGWで考え、まとめる。	グループワーク
2) 保健室における養護教諭の執務について学ぶ。実習において学びたい内容をまとめ、発表する。	グループワーク レポート
3) 救急処置について、実際に起きたケースを学ぶ。いくつかの救急処置の場面を想定し、実技練習を行う。	グループワーク 演習
4) 救急処置について、実際に起きたケースを学ぶ。いくつかの救急処置の場面を想定し、実技練習を行う。	グループワーク 演習
5) GWで健康診断の実施計画、健康診断の手引きを作成する。GWで実際に健康診断（計測等）を実施する。	グループワーク 演習
6) 健康診断の「手引き」をもとに、健康診断の事前指導案を作成する。	グループワーク
7) 健康診断の事前指導の模擬指導をする。	グループワーク 演習
8) 集団対象の保健指導案を個人で作成し概略を発表する。校種別グループで、指導案を作成する。	保健指導案（宿題） グループワーク 演習
9) GWで、指導案・教材・ワークシート等を作成する。	グループワーク 演習
10) グループで保健指導の模擬授業をする。全体で授業検討をする。	グループワーク
11) 健康相談の進め方について学ぶ。具体的な事例を通してのロールプレイを行う。	グループワーク 演習
12) 学校で行なわれる環境衛生検査について学ぶ。環境衛生検査を実際に行う。	グループワーク 演習
13) 1日の学校生活における児童生徒の発達に即した指導や支援について学ぶ。実習において学びたい内容について再度確認し、まとめた内容を発表する。	グループワーク プレゼンテーション
14) 事後指導 ・実習終了後、実習の自己評価票をもって研究室に報告に来ること。実習校の学校長及び関係者への礼状を出すこと/養護実習の成果や課題等の整理しておくこと	個別指導
15) 事後指導 ・学内発表会での報告、学校や校種による養護教諭の仕事の違いや特徴などについて、学びを共有する。	実習校から成績票が来た人から呼び出し、個人面談・指導を実施する。
授業外学習	
授業前に、「学校保健実務必携」、2年次に配布した「養護実習の手引き」を元に、必ず事前学習をしておく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
本学作成の「実習の手引き」 「学校保健実務必携」 「新養護概説」	養護実習、小児看護学 教職科目

備考

科目名	養護実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	4	3年	前期
担当者名	友定 保博、新開 奏恵	関連する資格		

授業概要

養護実習は、小・中・高のいずれかの学校において、養護教諭の指導のもとに、実際に学校での児童・生徒の健康管理や保健指導を行い、養護教諭としての実践力を養うことを目的とする。具体的には、児童・生徒の理解を深めるとともに、保健室の実習を中心として、学級運営や学習指導の観察・参加、保健指導なども体験する。このことを通して、大学で学んだ知識や技術を実践と統合させ、応用できる能力を養い、養護教諭としての自覚を高める。事前、事後指導も行う。

到達目標

児童・生徒の学校生活の実態や心身の健康問題・発達課題を理解し、適切な判断・処置・指導を行うことが出来る。

成績評価方法

出席状況・実習評価表と学生が提出した実習日誌およびレポートをもとに評価し、審議して成績を決定する

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要	アクティブラーニング
<p>実習校で作成した「実習計画」にしたがって実施する。</p>	
授業外学習	
<p>実習校で作成された実習計画を確認する。保健指導や保健だより作成の準備をしておくこと。特に 指導案作成や教材づくりについて、事前に準備をしておくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>「学校保健実務必携」第一法規</p>	<p>養護実習指導、学校保健、養護概論、健康相談活動、小児看護学、教職科目</p>

備考

科目名	教職実践演習（養護教諭）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講・演	選択	2	4年	後期
担当者名	友定 保博、新開 奏恵	関連する資格		

授業概要

教育実習や学部における教職・教科専門科目についての学びを振り返り、知識・理解を補足し、自己の実践的課題を明らかにする。社会が変化の中で多様な健康課題、児童生徒の心身の発達課題に対応するために、養護教諭の仕事の内容や役割等についての実践事例をもとに、グループ討論を通して理解を深める。また、自らの社会人としての自覚、人間関係能力についても授業を通して深く考え、教職への適性を含め、卒業後のキャリアを考える契機とする。

到達目標

4年間を通しての教職課程ならびに学部教育の学びを振り返り、養護教諭の様々な場面でのしごとについて理解を深める。同時に自らの学習活動そのものを振り返り、今後の仕事や生き方にどう活かすか、展望をもつ。

成績評価方法

教員の4つの資質能力に関する評価と、グループワークや課題への取組等により、総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		10	10				20
授業態度・授業参加度					20		20
プレゼンテーション							
グループワーク	10	20	10				40
演習	20						20
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション ・授業の目的・すすめ方・履修カルテの確認 ・自己の振り返り評価～用紙への記入	岡山大学方式と矢野潔子作成の自己評価票を使用
2) 本学での学習や養護実習を振り返り、各人の自己評価一覧を開示し、他者との比較も合わせて、自他の課題を明らかにする。	グループワーク～教員に求められる4つの資質能力に関する到達度を確認する。
3) 養護教諭のスキル(知識・技術)を11の職務別と、新人期から熟練期の4段階に示したスキルラダーを参考に、グループディスカッションで自分たちの現状を振り返り課題を明らかにする。	討論は司会と記録係を交代し行う。 の資料は事前配布(次週までに読んでくること)
4) 「救急処置」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	以降も同様に実施する。
5) 「健康診断」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	最初に前回の討論記録の配布と、教員の補足説明。以降も同様に実施する。
6) 「疾病・予防管理」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	
7) 「安全管理」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	
8) 「環境衛生」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	
9) 「ケースマネジメント」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	
10) 「保健室経営」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	
11) 「保健組織活動」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	
12) 「保健教育」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	
13) 「健康相談活動」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	
14) 「自己研鑽」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	宿題；社会人になる自分に対して「自己研鑽の課題」をテーマに400字作文を書いてください。
15) 講義：1)「チーム学校」における養護教諭の専門性と役割 2) これからの教師に求められるもの～あなたへのメッセージ10～	
授業外学習	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教材資料；養護教諭のスキルラダー(スキルラダー研究会『健康教室』東山書房 2016年4月～2017年3月 連載)	学校保健、養護概論、健康相談活動

備考

科目名	生物学の基礎			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	1	1年	前期
担当者名	祐村 稔子	関連する資格		

授業概要

高校生物の学習内容から、専門科目の学習に必要な生物学の基礎知識をピックアップし、復習と演習問題で知識の確認と定着をめざします。

到達目標

看護に関連する生物学の基礎学力を身につける。

成績評価方法

期末試験結果に加え、出席状況および宿題の演習問題の学習状況を加点して総合評価を行います。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要		アクティブラーニング
1) 人体のなりたち（細胞・組織）		演習問題
2) 人体のしくみ（循環系・呼吸系）		演習問題
3) 人体のしくみ（排出系）		演習問題
4) 人体のしくみ（消化系と代謝）		演習問題
5) 人体のしくみ（感覚器官と神経系）		演習問題
6) 人体のしくみ（骨格・筋肉系）		演習問題
7) 人体のしくみ（内分泌、免疫）		演習問題
8) 遺伝の基礎		演習問題
9)		
10)		
11)		
12)		
13)		
14)		
15)		
授業外学習		
講義で扱った項目に関する演習問題を宿題とします。		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
未定	生物学、いのちの科学、人体の構造と機能	

備考

科目名	化学の基礎			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	1	1年	前期
担当者名	田中 経彦	関連する資格		

授業概要

生活の中で、物質を取り上げ、化学に親しみを持たせることから初めて、生化学を学ぶ上での基礎となる、原子・元素の構造と機能から有機化学の基礎までを中心に学習し、教養教育の化学と結びつけるとともに、生化学・薬理学等の講義に備える。

到達目標

化学の基礎を理解させ、化学的な考え方を身に付けさせる。

成績評価方法

期末考査、小テスト 等による

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 物質について 原子・元素の構造と機能、化学式の表し方	
2) 化学反応式 物質の状態変化 物質質量	
3) 気体の性質 溶液の性質（溶解、濃度）	小テスト（15分程度） 1）2）の範囲
4) 溶液の性質（沸点上昇、凝固点降下、浸透圧） 熱化学反応式	
5) 化学平衡 酸と塩基の反応	小テスト（15分程度） 3）4）の範囲
6) 酸化・還元反応 電池 電気分解	
7) 有機化合物（脂肪族）	小テスト（15分程度） 5）6）の範囲
8) 有機化合物（芳香族） 期末考査（50分）	
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
プリントにある問題を解いてみる。プリントにある必要事項を覚える。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
プリント 「学びなおし生・物・数・化」	看護の勉強に役立てる。

備考

科目名	物理学の基礎			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	1	1年	前期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

後期の「物理学」の授業を理解するために必要な基本的な物理の事柄を学んでいきます。
特に、看護の物理で最も必要となる「圧力」を重点的に解説します。
グループ討議を設定している。自分の考えを主張して積極的に参加する。

到達目標

看護師、保健師で必要となる物理の基本的な事柄がわかる。

成績評価方法

毎回行う小テスト、レポート、グループ討議の態度、定期試験で総合評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 単位・用語・物理定数・小テスト	
2) 力のモーメント、運動とエネルギー、小テスト	
3) 要点整理（グループ討議）	グループ討議と要点の確認
4) 熱（比熱、潜熱、熱移動など）小テスト	
5) 圧力の基礎知識、血圧、酸素ポンプ、点滴、小テスト	
6) オートクレーブ、浸透圧など、小テスト	
7) 濃度計算、光、音波、放射線、小テスト	
8) まとめと要点整理（グループ討議とレポート提出準備）	グループ討議と要点の確認
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、テキスト・資料の該当単元を熟読してきてください。 テキスト・講義資料を復習して下さい。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>看護に必要な 「やrinaおし数学・物理」照林社。 資料はウェブ上よりダウンロードしてください</p>	<p>数学の基礎、物理学、地球の現在・過去・未来</p>

備考

科目名	数学の基礎			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	1	1年	前期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

看護に必要な数学の知識として、基本的な数の概念、計算のルール・式のルールを確認する。
 また、看護師国家試験に出題されている問題をもとに、解くために必要な基本的な知識を解説する。
 毎回、グループ討議の時間を設定している。自分の考えを主張して積極的に参加する。

到達目標

看護の専門科目の理解を容易にし、看護師国家試験に出る数学の問題を解く。

成績評価方法

毎回行うテスト、レポート、グループ討議の態度、定期試験で総合的評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							40
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 基本ルール(範囲、計算順序、倍数、単位数)、小テスト	
2) 分数の計算1(分数 少数、通分、約分)、小テスト	テストの結果で自分の現在の實力を知る。
3) 分数の計算2(分数種類、帯分数、掛け算等)、小テスト	テストの結果で自分の現在の實力を知る。
4) 比例(比、比例、比例の性質)、小テスト	テストの結果で自分の現在の實力を知る。
5) 割合(百分率、歩合、割合、基準にする量)、小テスト	テストの結果で自分の現在の實力を知る。
6) 速さ(求め方、単位変換、道のり、時間等)、小テスト	テストの結果で自分の現在の實力を知る。
7) 調査(全数・標本調査、母集団、推定等)小テスト	テストの結果で自分の現在の實力を知る。
8) 看護に必要な計算(点滴速度、滴下数、薬液)小テスト	テストの結果で自分の現在の實力を知る。
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
<p>授業時間内に疑問点を克服できない人は、オフィスアワーに解決する。授業計画に沿って、テキスト・資料の該当単元を熟読してきてください。テキスト・講義資料を復習して下さい。 テスト結果を見て、間違った箇所をの確認してください。看護師国家試験の計算問題(過去問)が確実に解けるように自宅でも筆算を中心とした復習をしてください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
「やりなおし数学・物理」照林社	物理の基礎、物理学、データの科学的な見方、保健統計

備考

科目名	英語の基礎						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	自由	1	1年	前期			
担当者名	内海 俊祐		関連する資格				
授業概要 4 技能の運用に必要な基礎的文法知識を身に着けるための授業を展開する。また、日常生活や地域の問題を取り上げた英文を読み、速読直読の習慣を身に付ける。さらに、パラグラフ・リーディングおよびライティングを行い、英語の文章構成を理解する。							
到達目標 英語の基礎的文法を理解することが出来る。 異文化を理解し、英語で簡易なコミュニケーションを図ることが出来る。			成績評価方法 定期試験、レポート、授業態度、発表で評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) 英語の文法事項についての概要的説明 文法事項 1	think-pair-share
2) 英語の学習法についての助言 文法事項 2	think-pair-share
3) 英語リーディングについての説明 文法事項 3	think-pair-share
4) 英語ライティングについての説明 文法事項 4	think-pair-share
5) 英語リスニングについての説明 文法事項 5	think-pair-share
6) 英語スピーキングについての説明 文法事項 6	think-pair-share
7) 英語プレゼンテーションについての説明 文法事項 7	think-pair-share
8) 文法事項 8 総括およびテスト	think-pair-share
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
予習は必ず行うこと。英文の読みや訳は適時評価する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
『English Aid 基礎から学べる大学英文法総合演習』 白倉美里 金星堂	エッセンシャルイングリッシュ

備考

未知の表現に出会ったら辞書で調べるように習慣づけること。電子辞書はもちろんスマートフォンの辞書機能や辞書のサイトを使用することもこの授業では可。

科目名	ナーシングスタディ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	1	4年	後期
担当者名	坂井 浩美、安成 智子、金子 真弓、立川 美香、柿並 洋子、山崎 啓子	関連する資格		

授業概要

基礎看護学、成人看護学、小児看護学、母性看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護論及び公衆衛生看護学の担当で4年間の看護学の総まとめを行う。具体的には特に重要なポイントを再度説明し、学生がグループワーク等を通して知識の再確認を行う。

到達目標

1. 4年間の看護学の就学内容のまとめができる。
2. 4年間の看護学の知識において自分の課題を見出し、苦手科目を克服できる。
3. 卒業後、看護専門職業人としての心構えを養う。

成績評価方法

1. レポートなど提出物すべてを対象とする。
2. 出席状況、授業態度
上記項目を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク	b						30
演習							
実習							

授業計画と概要	アクティブラーニング
1) オリエンテーション・学習計画の進捗について	
2) 人体の構造と機能	
3) 人体の構造と機能	
4) 疾病の成り立ちと回復の促進	
5) 疾病の成り立ちと回復の促進	
6) 基礎看護学	
7) 基礎看護学	
8) 成人看護学?	
9) 成人看護学	
10) 老年・在宅・精神看護学	
11) 小児・母性・公衆衛生看護学	
12) 国際・災害・看護管理・医療安全	
13) まとめ 国家試験の翌日を予定しています。	
14) 看護専門職として旅立つ前に(1) 病院における医療安全 国家試験の翌々日を予定しています。	
15) 看護専門職として旅立つ前に(2) 看護職としての倫理・守秘義務・情報管理 国家試験の翌々日を予定しています。	
授業外学習	
<p>自らが立案した学習計画をもとに事前学習(60分以上)と事後学習(60分以上)が必要です。 学習計画の記録は、4年生チューターを通して返却いたします。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統別看護師国家試験問題(医学書院)	4年間の履修科目全て

備考

4年生の総まとめの学習を行うとともに、看護職として社会に旅立つ準備の講義をします。